

第四次 三好市地域福祉活動計画

令和6年度～令和10年度（5カ年計画）



令和6年 3月

社会福祉法人 三好市社会福祉協議会

はじめに

このたび、三好市社会福祉協議会では、令和6年度から令和10年度までの5年間を活動期間とした「第四次三好市地域福祉活動計画」を策定いたしました。本計画においては、これまでの計画で掲げていた基本理念「声かけ合って 支え合い 誰もが安心して暮らせるまちづくり」を継承し、新たに「人と地域 つながり支え合う 共生のまちづくり」を基本理念と掲げ、高齢者や障がい者、外国人、性的少数者、犯罪更生者など様々な人たちが地域で共に生きていけるまちの実現を目指してまいります。

第三次計画策定から4年が経過し、その間、三好市では少子高齢化による急激な人口減少に加え、コロナ禍による社会状況の大きな変化、資源価格の上昇による物価高騰により、生活困窮者が急増するなど、様々な生活課題が地域で表面化してまいりました。特に既存の制度の枠組みでは解決困難な8050問題に代表される、複雑・複合的な課題が顕著になってきており、福祉の制度や分野の関係を越えて、地域住民をはじめ多様な主体がつながり力を発揮することが求められています。また、令和6年元日に発生した能登半島地震では、多くの方が避難生活を強いられることとなり、大規模災害時における体制整備の必要性についても改めて考えさせられることとなりました。

こうしたなか、令和5年に三好市が策定した「第4期 三好市地域福祉計画」と連携・協働し、子どもからお年寄りまで、障がいの有無にかかわらず誰もが住み慣れた地域で安心して、生きがいを持って生活をしていくために、人と人とのつながりと支え合いを大切にされた取り組みを展開し、行政をはじめ、民生委員児童委員連絡協議会、地区住民福祉協議会、ボランティア、NPO法人や各種福祉団体等と協働して、地域の福祉力向上に努めてまいります。

最後に、本計画の策定にあたり貴重なご意見と多大なご尽力を賜りました策定委員の皆様をはじめ、アンケート調査及び住民座談会等にご協力をいただきました皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。

令和6年 3月

社会福祉法人三好市社会福祉協議会

会長 新居政昭

第四次活動計画を策定するにあたって

このたび、多くの皆様のご協力を得て、第四次三好市地域福祉活動計画が完成いたしました。ご協力くださった皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

現在、三好市では、少子高齢化の進行や世帯人員の減少、独り暮らし高齢者の増加といった人口構造変化をはじめ、昨年まで猛威を振るった新型コロナウイルスの影響による社会変化などを背景として、制度の狭間に位置し複合的な課題を抱える人への対応が困難な事例も表面化してきています。また、能登半島地震の発災を受け、改めて南海トラフ地震への備えの必要性を感じています。

こうした状況を受けて、計画の策定に当たっては地域福祉活動計画策定委員会を設置し、第三次三好市地域福祉活動計画の振り返りと新たな課題について検討を進め、更に一歩進めるための具体的な取り組みを重点的に検討し策定しました。策定作業を進める上では、アンケート調査、各地区で実施いただいた住民座談会等で、それぞれの地域でお住まいの皆様からお聞かせいただいたご意見・アイデアを参考にさせていただき、これまでの活動計画同様に地域の実情に沿った、市民の皆様が取り組んでいただきやすく、地域の絆を深めていただくような計画を目指し、話し合いを重ねました。

本計画に盛り込んだ各地域の目指す地域像に向けて、社会福祉協議会とともに地域の皆さま一人ひとりが少しずつでも地域の活動に取り組んでいただくことが、福祉推進の第一歩となります。本計画の推進にあたり、支えあい・助けあい活動をさらに盛り上げ、三好市が元気になるよう共に取り組んで行きましょう。

令和6年 3月

三好市地域福祉活動計画策定委員会

委員長 田村 公子

目次

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の背景と目的	1
2 計画の位置づけと性格	2
3 計画の期間	3
4 三好市の現状と人口推移	4
5 第三次地域福祉活動計画の評価	6
6 計画の策定手法	11
7 本計画策定における重点項目	18

第2章 地域福祉活動計画概要

1 第四次地域福祉活動計画の概要	19
2 活動計画の進行管理と評価について	22

第3章 地域福祉活動計画の内容

1 地域福祉活動計画 - 三好市全域 - (大圏域)	
三好市地域福祉活動計画	23
2 地域福祉活動計画 - 旧町村単位 - (中圏域)	
6地区地域福祉活動計画	31
3 地域福祉活動計画 - 地区住協単位 - (小圏域)	
地区住民福祉協議会活動計画	50

第4章 計画の推進

1 計画の公表	111
2 計画推進にあたってのお願い	111

資料編

1 三好市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱	114
2 三好市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿	116
3 三好市地域福祉活動計画策定関係会議開催状況	120
4 アンケート調査結果	124
5 地域別地区住民福祉協議会一覧	136

第 1 章 計画策定にあたって

1 計画策定の背景と目的

三好市社会福祉協議会(以下、本会という)では、誰もが住み慣れた地域で安心して、生きがいを持って生活していくため、「第三次三好市地域福祉活動計画(以下、三次計画という)」を令和2年に策定し、「声かけ合って 支え合い 誰もが安心して暮らせるまちづくり」を目指し取り組んでまいりました。

しかしその間、介護と子育ての両方を担う「ダブルケア」や高齢の親がひきこもり等の子どもの面倒をみる「8050問題」等、福祉課題はますます複雑・多様化し、現在の制度の枠組みだけでは解決が困難となっています。加えて、新型コロナウイルス感染症の流行は、住民の生活様式や地域活動に大きな影響をもたらしました。見守り活動や通いの場などの地域福祉活動やボランティア活動は休止や延期等の活動自粛を余儀なくされ、閉じこもりによる高齢者の虚弱化、社会的孤立等が進行し、これまで築いてきた地域福祉活動を大きく後退させることとなりました。

こうした中、国においては令和2年6月の社会福祉法改正で、地域共生社会の実現を目指すための体制整備事業として「重層的支援体制整備事業」が規定され、支援機関・地域の関係者が断らず受け止め、つながり続ける支援体制を構築することを念頭に、「属性を問わない相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」の一体的な実施を目指す新たな取り組みが求められています。

また三好市においては、令和5年4月に各福祉分野計画の上位計画に位置づけられた第4期地域福祉計画が策定され、「なんも気にせんでかんまんけん！！みんなで作ろう幸せ社会」の基本理念の元、新たな計画がスタートしています。

これらのことを踏まえて、三次計画の理念、実践を継続しつつ、三好市と連携しながら、住民や関係団体との協働により、地域の福祉課題の解決に向けて地域全体で取り組む民間の活動計画・行動計画とすることを目的に、第四次三好市地域福祉活動計画(以下、「本計画」)を策定します。

2 計画の位置づけと性格

本計画は、地域住民が主体となり、地区住民福祉協議会(以下、「地区住協」)や自治会、民生委員児童委員連絡協議会などの福祉関係団体と NPO、ボランティア、福祉サービス事業者等がそれぞれに役割を担い、多様な地域資源を活用した地域性のある福祉活動を連携・協力して行うことで、地域の課題を認識し、課題解決をめざすことにより、住民一人ひとりが安心して暮らせる福祉のまちづくりを進めるものです。

(1) 地域福祉活動計画

地域福祉活動計画は、社協の呼びかけのもと、地区住協や地域の福祉関係団体、地域福祉に関する活動を行う者、社会福祉を目的とする事業(福祉サービス)を営業者等が協働して地域福祉を推進することを目的とした民間の活動・行動計画です。

つまり、それぞれの地域の特色にあった活動をどのような方向で進めていくかを示すものであり、その総合的な活動の成果として三好市全体の地域福祉がどのように推進されていくかを示すものです。

(2) 地域福祉計画

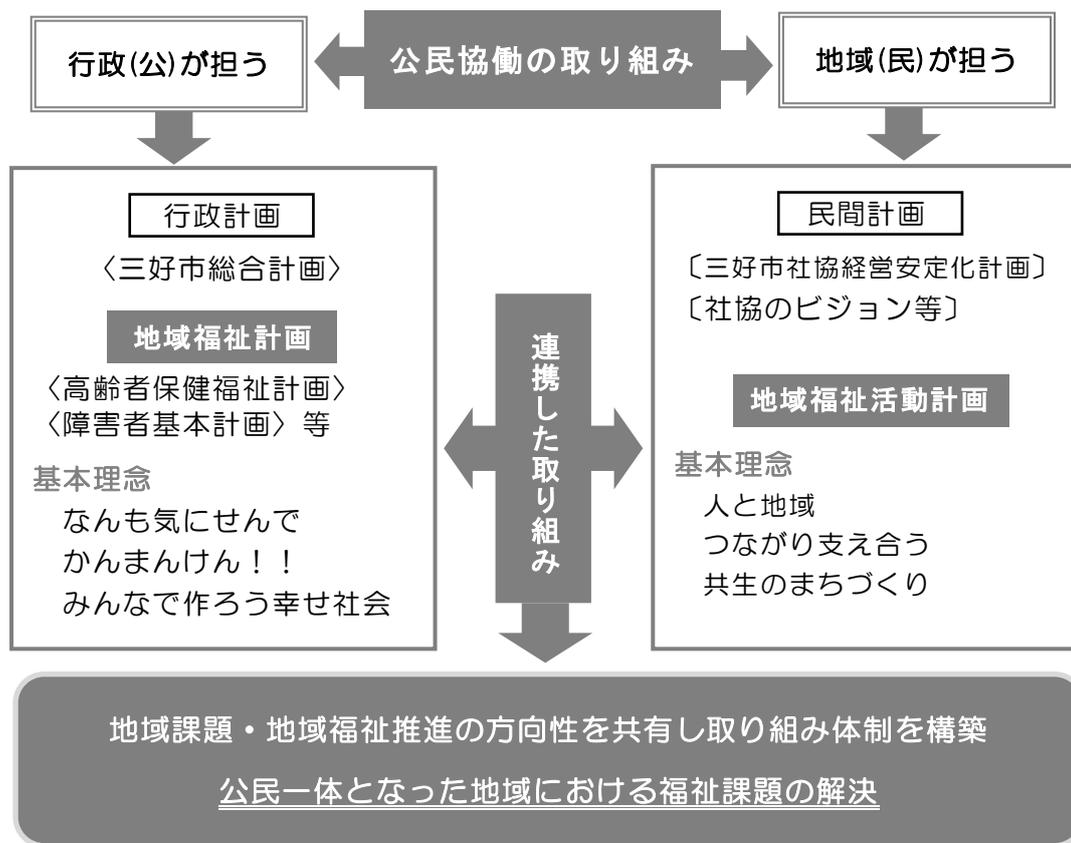
地域福祉計画は、子ども、高齢者、障がい者、健康増進など、保健・医療・介護・福祉に関する地域福祉を推進していくため、「理念」や「仕組み」をつくり、総合的な方向性を示す行政計画です。令和5年4月より第4期目の計画が進められています。

(3) 地域福祉計画と地域福祉活動計画との関係

地域福祉を計画的・効果的に展開するためには、地域住民による福祉活動、民間の福祉サービス機関・団体等による活動、行政等による公的な福祉サービスが一体となり、包括的に支援していく仕組みづくりが必要です。

このため、市では行政の地域福祉に係る具体的な方向性や施策を示す「地域福祉計画」を策定し、社協では地域住民や地域福祉に関わる住民組織などが実践する具体的な活動内容を定める「地域福祉活動計画」を策定しました。この二つが相互に連携し、一体となって公民協働の取り組みによる地域共生社会の実現に向け推進していきます。

●『公』と『民』の協働のイメージ図



3 計画の期間

本計画の期間は、令和6年度から令和10年度までの5年間とします。
 なお、計画の進捗状況や社会情勢等の変化に応じて必要な見直しを行っていくもの
 とします。

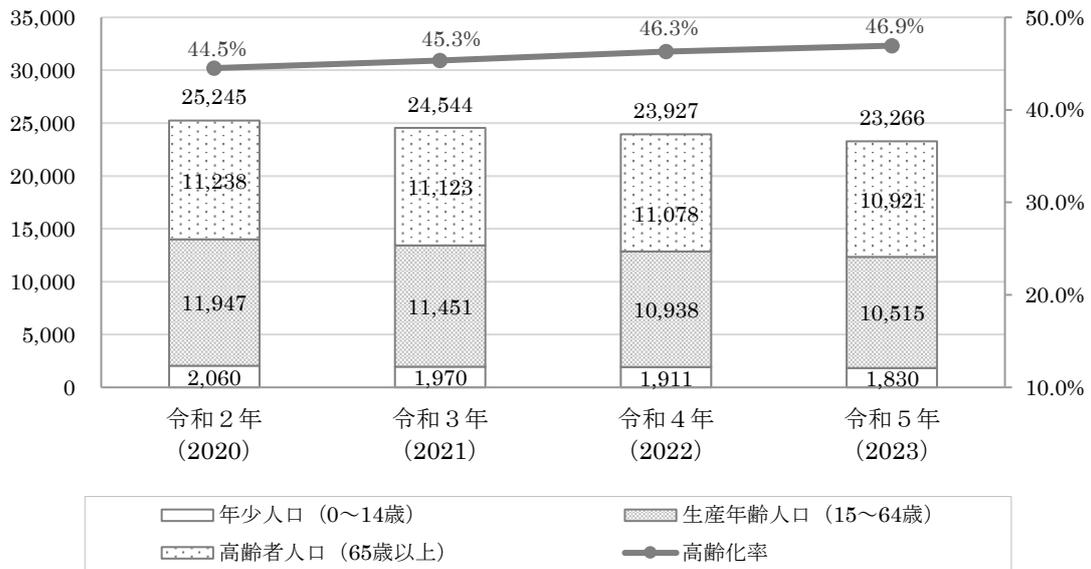


4 三好市の現状と人口推計

○人口の推移と推計

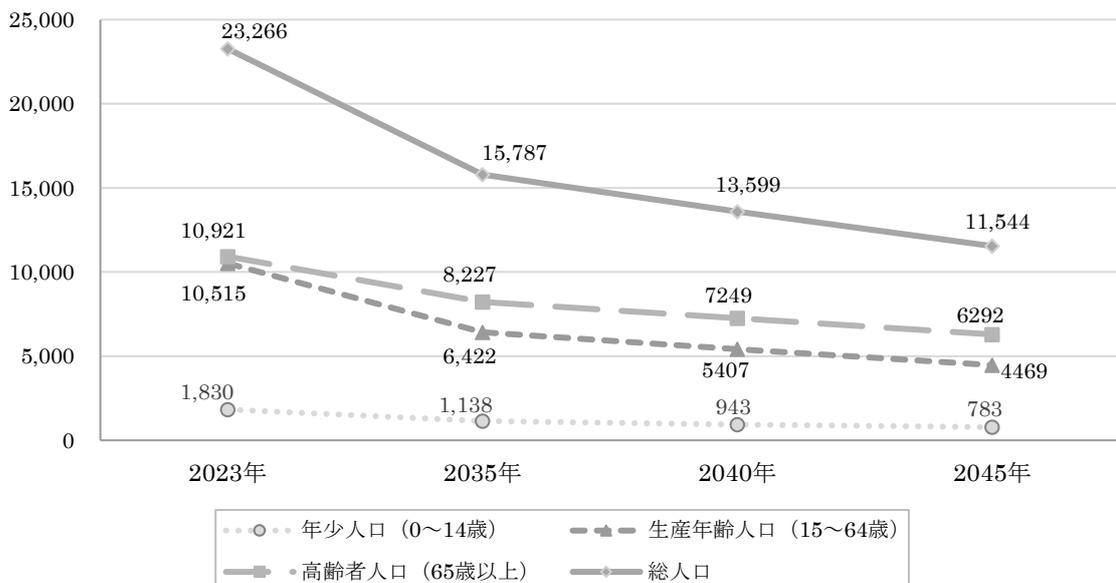
三好市における人口構成は、下のグラフのように推移しており、少子高齢化の進行がうかがえ、人口も減少傾向にあります。三好市人口ビジョンによる将来推計においても、減少で推移すると予測されています。

【人口の推移】



資料：三好市人口統計（各年3月末日現在）

【将来推計人口】

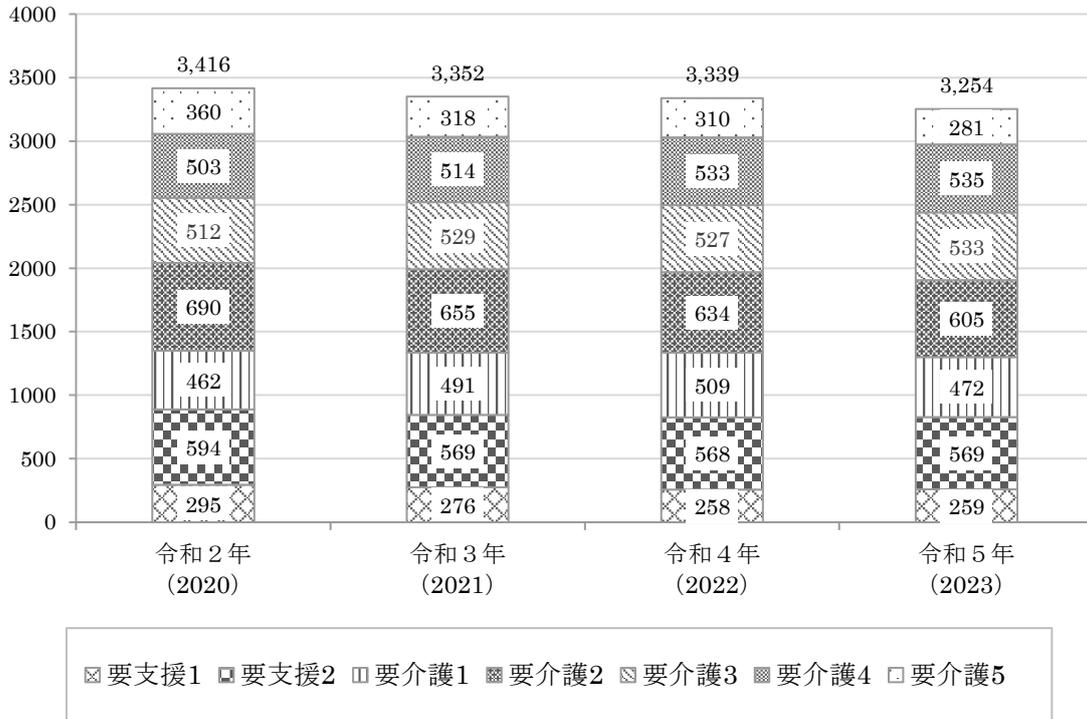


資料：三好市人口ビジョン趨勢人口

○支援を必要とする人の状況

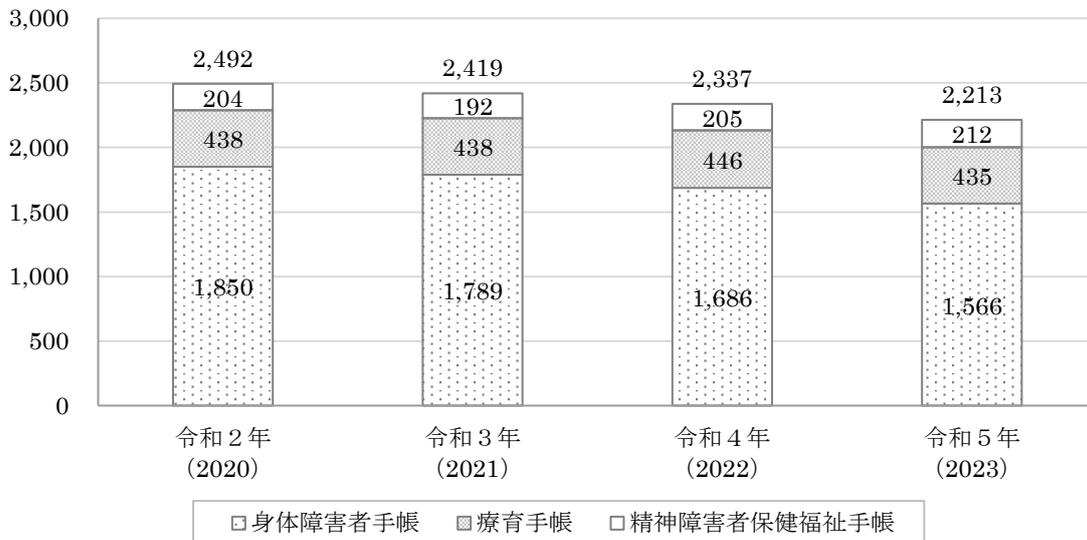
要介護等認定者数は、減少傾向にあるが県の平均を依然として上回っています。また障害者手帳所持者数の推移については、身体障害者手帳所持者数は減少傾向にあるが、療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者数は横ばいで推移しています。

【要介護等認定者数の推移】



資料：厚労省「介護保険事業状況報告」（地域包括ケア「見える化」システムより）各年9月末日現在

【障害者手帳所持者の推移】



資料：第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画（各年3月末日現在）

5 第三次地域福祉活動計画の評価

三好市地域福祉活動計画策定委員会において、令和2年度から令和4年度までの第三次計画の進捗状況について事業評価を行いました。なお、新型コロナウイルスの影響により、実施できなかった事業や規模を縮小して実施した事業もあり、年度評価については前年度事業の進捗と比較し、実施いたしました。

❖ 基本目標 1「ふれあいのある地域づくりと近隣の助け合い活動の推進」

(1)ふれあいいきいきサロン活動の支援

サロン活動の支援とともに、ふれあいの拠点となるよう地域住民に参加を呼び掛けてきたが、令和3年度まではコロナの影響もあり、事業を中止にするところも多く、思うように支援ができなかった。令和4年度からは徐々に開催箇所も増えてきている。

(2)地域福祉力向上のための支援活動

地域への情報発信として、社協広報を年4回発行し、ホームページも随時更新を行った。また、地域の状況把握と情報共有のため実施している地区住協連合会事業やネットワーク会議については、開催できない時期もあったが、縮小しながらも開催することができた。

実施計画	主な取り組み	R2 年度	R3 年度	R4 年度
の 支 援 の い き ふ れ あ い い き サ ロ ン 活 動	地域の集会やささえあいネットワーク会議を利用した情報提供	B	C	B
	地域いきいき事業による介護予防支援と講師派遣	B	D	C
	各種地域活動へ福祉機材の貸出	B	C	B
援 活 動 向 上 の 地 域 福 祉 力	社協広報による情報発信・提供	B	B	B
	地区住協連合会にて情報共有・相互連携	B	C	C
	ささえあいネットワーク会議による活動状況の把握・情報提供・利用促進	B	C	B

❖ 基本目標 2「地域の活動や団体を支える人材の確保と育成」

(1) ボランティア活動の充実と地域リーダーの養成

ボランティア活動についてもコロナの影響により活動の場が減少し、十分な支援ができなかった。地域リーダーの養成としては、サロンリーダー研修会及び地区住協リーダー研修会をそれぞれ年1回開催している。

(2) 人材育成機会の提供

市民が気軽にボランティアに触れられる機会として、ふれあい市民フェスタを予定していたが、コロナの影響により令和2年度、3年度と開催できなかった。令和4年度からは状況に合わせて実施することができている。地域の研修会への講師派遣等については、開催を見合わせていた地域もあり実施できていなかったが、令和4年度からは徐々に実施できている。生活支援体制整備事業の推進については、生活支援員の養成講座及びスキルアップ講座を毎年開催できている。

(3) 社会福祉に関する意識啓発活動

社協広報、ホームページによる情報発信に加え、地域の福祉活動をパネルにし各地で展示することができた。また、ささえあいネットワーク会議開催時に活動計画の評価会議を行い、地域の実情を把握することができた。

実施計画	主な取り組み	R2 年度	R3 年度	R4 年度
養成 (1) ボランティア活動の充実と地域リーダーの	ボランティア活動を応援する環境づくり	C	C	B
	いきいきサロンリーダー研修会の実施	B	B	B
	ボランティア連絡協議会の支援を通じたボランティアの組織強化	B	C	C
	地区住協リーダー研修会の実施	B	B	B
提供 (2) 人材育成機会の	福祉・ボランティアふれあい市民フェスタの開催	D	C	C
	地域いきいき事業の支援	C	D	C
	地域の研修会等へ講師派遣等の支援	B	C	B
	生活支援体制整備事業の推進	B	B	B
発関 活す 動る 意 識 啓 に	社協広報による情報発信・提供	B	B	B
	情報・課題の発信と共有の推進	B	B	B
	地域との密な連携による実態把握	B	C	C

❖ 基本目標 3「相談支援体制の充実と情報交換」

(1) 総合相談についての広報・啓発

法律相談、一般相談の日程を社協広報・ホームページ、市報により周知しているが、一般相談については利用が少ない状況である。関係機関との連携について、市内9つの福祉施設と社会福祉法人が連携して困りごと解決のお手伝いをする「よりそい相談」を令和4年度より実施している。また、生活福祉資金コロナ特例貸付に関する情報提供も随時行った。

(2) 相談対応・体制の充実

各支所において、月1回の法律相談に加えて一般相談として、相談員による心配ごと相談所を開設している。利用者は少ない状況であるが、定期的に開催できている。相談員の研鑽として、相談員研修を年1回、開催することができている。

実施計画	主な取り組み	R2 年度	R3 年度	R4 年度
啓発 ついでに の広報・ に	総合相談事業の充実と広報	B	C	C
	関係機関との連携強化	B	C	B
	社協広報・ホームページ・市広報等での周知	B	B	B
の(2) 充実 相談 対応 体制	相談員研修を通じて相談員の研鑽を図る	B	C	B
	身近な相談機関として定期で相談所を開設	B	C	C
	地域や行政、関係機関とのネットワークを活用し連携を強化	B	B	B

❖ 基本目標 4「見守りネットワークの充実と強化」

(1) 行政、関係機関、事業所等との連携強化

介護事業所等との関係を深めるため、みよし地域福祉事業所連絡協議会と連携し、研修会等の事業を実施した。また、市内9つの福祉施設と社会福祉法人が一緒になって「三好市社会福祉法人地域公益活動ネットワーク」を立ち上げた。

(2) 住民主体の取り組みとの連携強化

地区住協を通じた地域支援を展開した。コロナ禍の中、工夫しながら事業展開できた地域もあれば、全く活動を停止してしまった地域もあり、事業格差が広がってしまったのが課題である。そんな中でも、各地域のネットワーク会議は規模を縮小しながらも続けて開催できている。

実施計画	主な取り組み	R2 年度	R3 年度	R4 年度
連携強化 業系(1) 所機行 等関政 の事関	みよし地域福祉事業所連絡協議会との連携と協働	B	B	B
	関係機関のネットワークを活用し専門性を確保	B	B	B
強化(2) 組住 み民 の主 連体 携取	多種多様な連携策を探り、ささえあいネットワーク事業を強化	B	B	B
	地区住協連合会の支援を通じた地区住協組織の強化	B	C	B
	地区住協の支援を通じた早期発見・見守り活動の強化	B	B	B

❖ 基本目標 5「緊急時に支え合い、助けあえる体制づくり」

(1) 危機管理体制の整備と連携体制の構築

県西部ブロック社協による合同研修会を毎年実施することで、災害時の近隣社協による支援体制の構築に努めているが、コロナの影響により十分な訓練が実施できていない。また、市社協職員を対象とした災害ボランティアセンター設置・運営に関する研修及び訓練を実施している。

(2) 災害時に住民が支え合える体制づくり支援

令和2年度、3年度は中止となった研修会や訓練が多くあったが、令和4年度からは実施できる地域が増えてきた。要援護者の確認もコロナ禍では会議も短縮で行っていたことから十分な確認が取れていなかったが、現在は協議ができている。

(3) 緊急時こそ発揮される地域福祉力の向上と強化

ネットワーク会議の開催で地域の要援護者の情報収集まではできているが、その後の展開として要援護者の個別支援をどう進めていくかが重要となっている。

実施計画	主な取り組み	R2 年度	R3 年度	R4 年度
体制(1) の危 構築機 体整管	関係機関と連携した発災時対応体制の整備	B	C	C
	災害ボランティアセンター設置・運営委員会の開催	C	C	C
支え(2) 合災 え害 る時 体制に づくり が支	地域の防災訓練や防災研修等に対する支援	C	C	C
	あんしん手帳の利用促進と災害時要援護者等の把握	B	C	C
	災害時要援護者の把握と対応を目的とする体制の整備推進	B	C	C
	地域の災害時対応体制整備の取り組みを支援	C	C	C

(3) 緊急時こそ発揮される地域福祉力の向上と強化	日頃から互助・共助を促進し、福祉意識の向上を図る	B	B	B
	緊急時における地域での要配慮高齢者等への支援体制づくり	B	D	C

❖ 基本目標 6 「安心して住み続けられるための地域生活支援システムの確立」

(1) あんしんして福祉サービスが受けられる仕組みづくり

判断能力が不十分な方に対する支援として、日常生活自立支援事業を実施している。利用が必要な方がまだまだ潜在していると考えられるが、人員配置などの支援体制を整えることが課題となっている。また、コロナの影響による生活福祉資金コロナ特例貸付にも状況に応じて対応してきた。今後も償還免除等、引き続き支援が必要とされている。

実施計画	主な取り組み	R2 年度	R3 年度	R4 年度
組み み づ く り (1) あんしんして福祉サービスが受けられる仕組みづくり	日常生活自立支援事業等による個別支援体制の強化	B	B	B
	個々の生活支援ニーズへの対応力の向上	B	B	B

三好市地域福祉活動計画評価基準

評価	評価及び進捗状況の基準
A	目標に対して達成できた(75%以上)、あるいは、順調に進んでいる
B	目標に対して、おおむね達成できた(50%以上75%未満)、あるいは、おおむね進んでいる
C	目標に対して、あまり達成できていない(25%以上50%未満)、あるいは、少し遅れている
D	目標に対して、ほとんど達成できていない(25%未満)、あるいは、非常に遅れている

6 計画の策定手法

本計画の策定にあたって、三次計画までと同様に、検証と新たに顕在化した福祉課題を把握することから始めました。

そのために、社協職員からなるワーキンググループ(地域福祉課会議)が三次計画の検証を行ったほか、地域の実情にあった、より具体的な活動にするための市民の意識調査となる「地域福祉活動計画に関するアンケート調査」を実施しました。また、各地域の地区住協では住民座談会を開催いただき、地域で抱えている問題を抽出し課題の把握を行いました。

1. 市社協による第三次活動計画の振り返り

三次計画の評価及び検証を行い、第四次活動計画における課題の抽出、毎年地域で実施される評価会議の内容を加味して基本施策の体系について見直しを図りました。

2. 活動計画策定委員からの意見聴取

策定委員会において、各委員から現状報告や課題提起、提案等をいただいた上で、さらに社協地域福祉課内で地域福祉に関わる課題等について協議いたしました。

3. 地域福祉活動計画に関するアンケート調査

本計画の策定にあたって、地域福祉に関する市民の実態や意識、要望・意見などを把握し、計画策定の基礎資料を得ることを目的として、令和5年5月に市民意識調査を実施しました。

調査の実施概要

区 分	配布数	有効回収数	有効回収率
市内在住の20歳以上の方	1,100部	1,006部	91.5%

※配布先について、地区住協へ1,000部、市内の各障がい者会へ50部、市内PTA役員へ50部。
※アンケート調査については地区住協及び各障がい者会、小中学校を通じて配布、回収いたしました。

4. アンケート調査からみた現状等

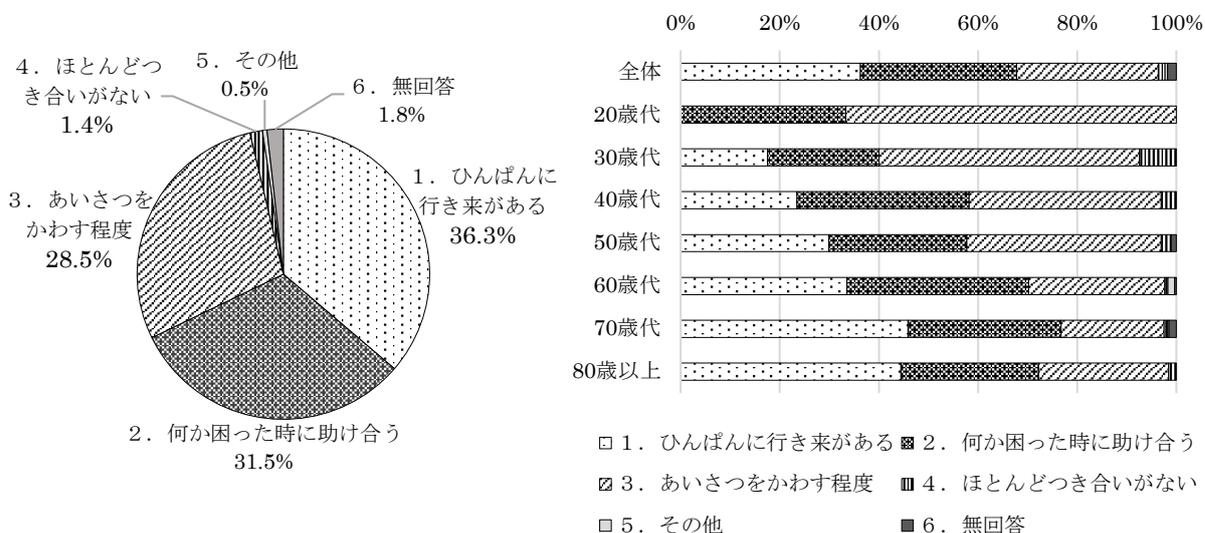
(1) 地域における連帯感

ご近所の方との付き合いについて、前回のアンケート調査と比べると「ひんぱんに行き来がある」の割合が減っており、「何か困った時に助け合う」「あいさつをかわす程度」の割合が増えている。これはコロナの影響により直接会う機会を減らしたことが原因だと考えられる。また、年齢別に見てみると、年齢が上がるごとに、近所との助け合いを大切に、関わりが増えていることが分かる。

地域活動への参加状況は、約87%の方が「参加している」と答えている。中でも、「一斉清掃」や「地域の祭りなどの行事」など地域で定着している行事への参加率が高くなっている。

一方、「参加していない」と答えた人の理由では、「仕事をもっているので時間がない」という回答が半数近くを占めており、続いて「健康や体力に自信がない」「地域活動に関する情報がない」となっている。高齢化もあるが、地域活動の情報発信の工夫が必要となっている。

図表 1 「ご近所の方とどのようなつきあいをしていますか」のアンケート結果

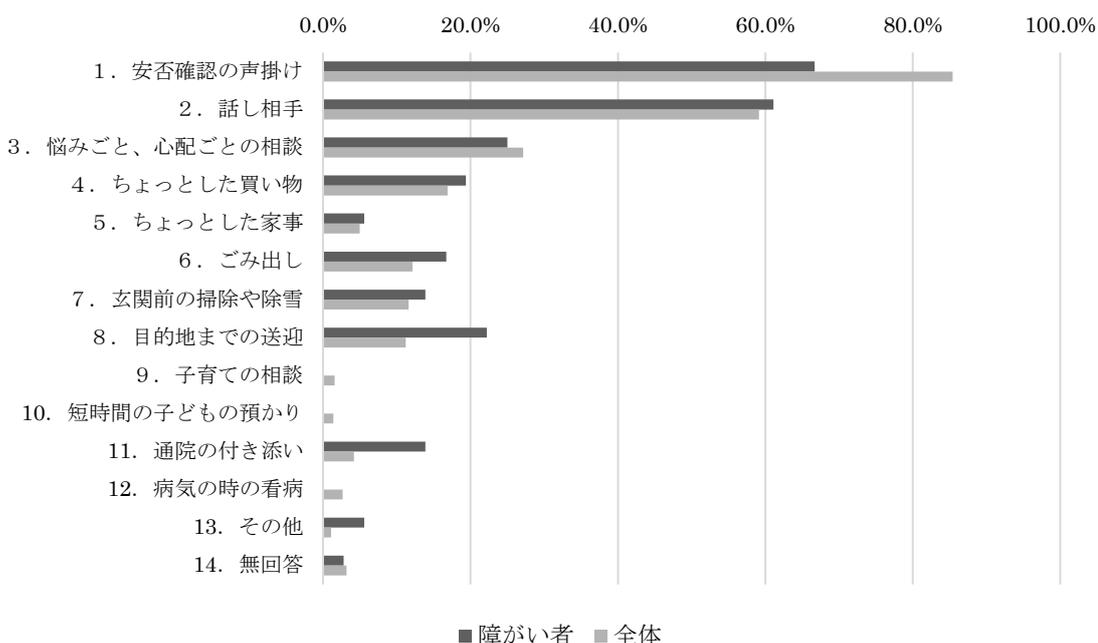


(2) ご近所の手助けについて

ご近所の助け合い・支え合い活動については、必要だと思うこと・自分のできることの両方で「安否確認の声掛け」が最も高く、次いで「話し相手」「悩み事・心配事の相談」と気軽にできる手助けが最も有効で重要であることがうかがえる。しかし、障がい者世帯で見ると、「送迎」や「ごみ出し」「ちょっとした買い物」が必要な支援として入ってくる。

また、悩みや心配ごとの相談先については、前回と同じで、「家族」や「知人・友人」の割合が高く、次いで「隣近所の人」「医療機関」となっている。社協を含めた関係機関への相談については、障がい者世帯からはある程度あるが、全体的には低い結果となっており、まだまだ地域の身近な相談機関として認知されていない結果となっている。

図表 2 「隣近所の人による助け合い・支え合い活動として必要なこと」のアンケート結果



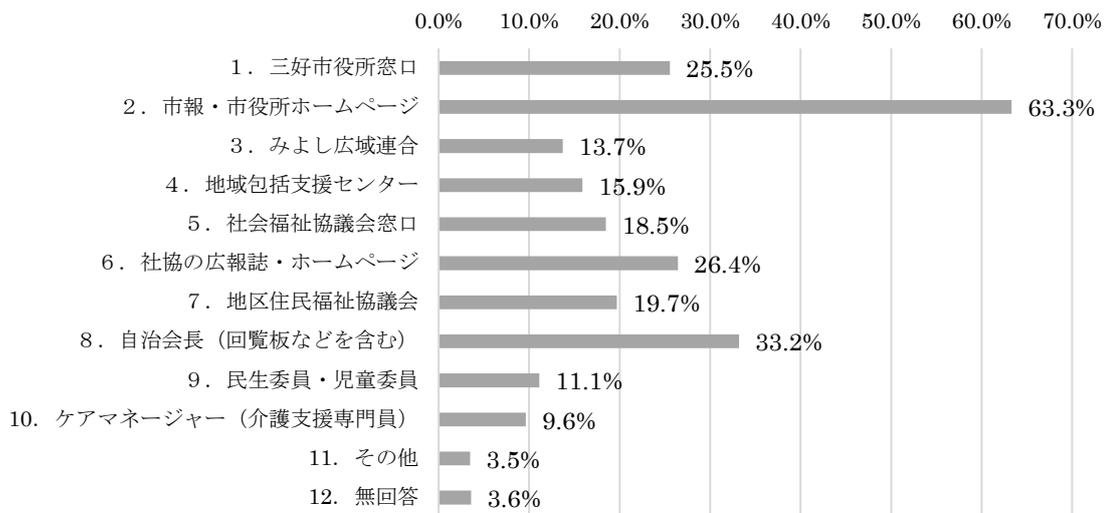
(3) 地域福祉活動について

福祉に関する情報をどこから入手しているかについては、前回調査と同じく「市報・市役所ホームページ」が最も多くなっているが、「自治会長(回覧板)」という回答が前回より倍以上増えている。これは、活動計画の事業で回覧板等を利用して情報提供が行われた結果だと考えられる。

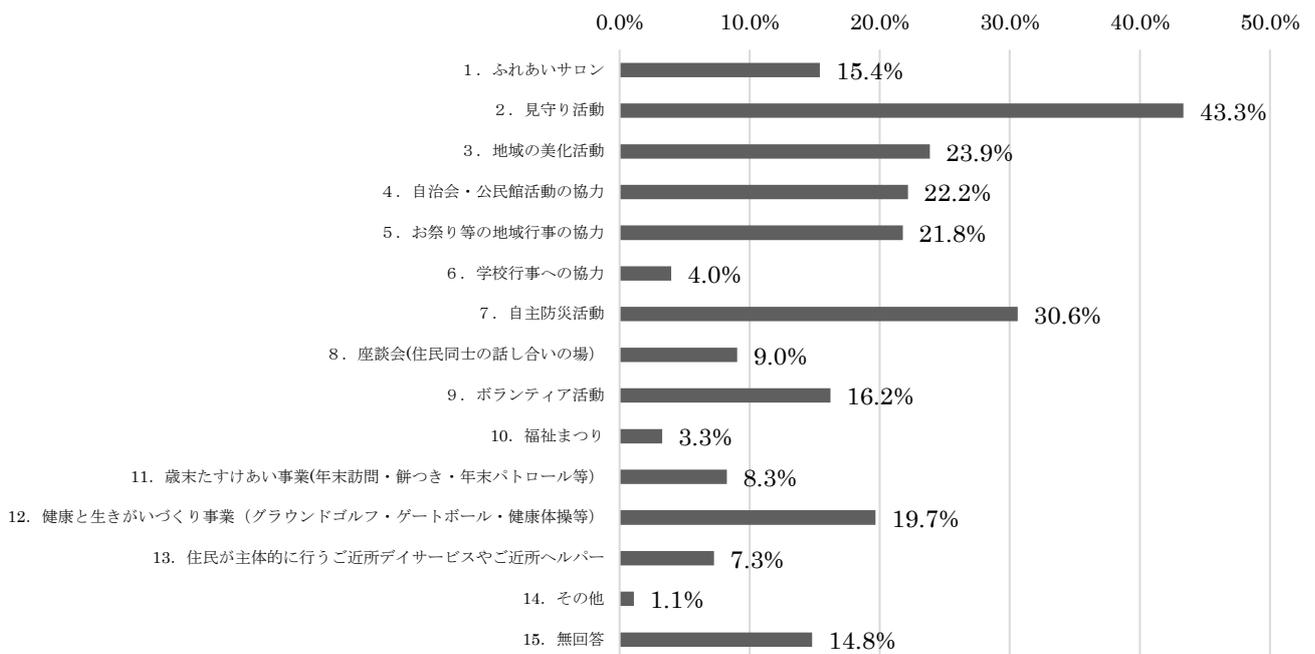
地区住協の認知度については、前回と変わらない結果であったが、活動内容については、前回と比べて「学校行事への協力」「座談会(地域の話し合い)」の割合が減っており、コロナの影響により集会や学校行事の自粛があったことが原因だと考えられる。

期待する活動については、「見守り活動」と「自主防災活動」が上位に来ている。自治会単位での活動が難しくなりつつある中、地区住協活動への期待が大きくなっていくように感じる。

図表 3 「福祉に関する情報をどのようなところから入手しているか」のアンケート結果



図表 4 「どのような活動の充実を期待しますか」のアンケート結果



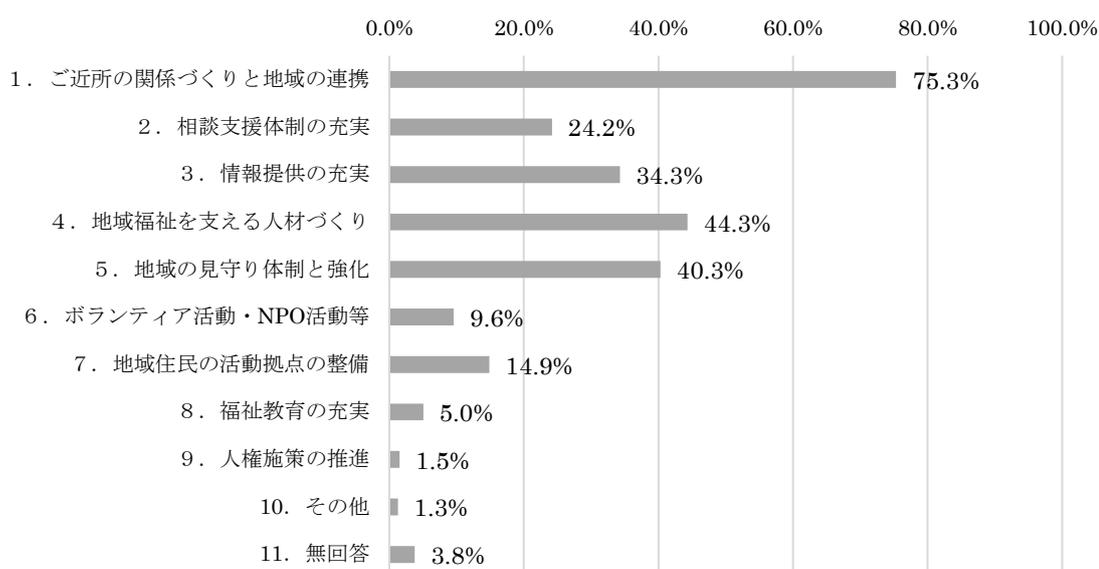
(4) 地域福祉活動計画について

地域福祉活動計画について「知っている」と回答した人が約40%と前回調査より10%増えた結果となった。地区住協等が中心となり地域で策定した計画に沿って事業が進められていることが少しずつ地域で認知されてようである。

地域福祉活動計画の推進による地域の活動や組織体制の変化については、「コロナの影響でつながりが薄くなった」と感じている人が大半を占めた。

また、地域福祉活動計画を推進するのにあたって重要なことについては、「ご近所の関係づくりと地域との連携」が回答の約75%を占めており、前回より10%以上増えた結果となっている。他にも「地域福祉を支える人材づくり」、「地域の見守り体制の強化」も前回に比べて増えている。コロナ禍で薄れた地域の関係を改めて再構築していくことが大切だと感じている方が非常に多いことがうかがえる。

図表 5 「地域福祉活動計画を推進するにあたって重要だと思う取り組み」のアンケート結果

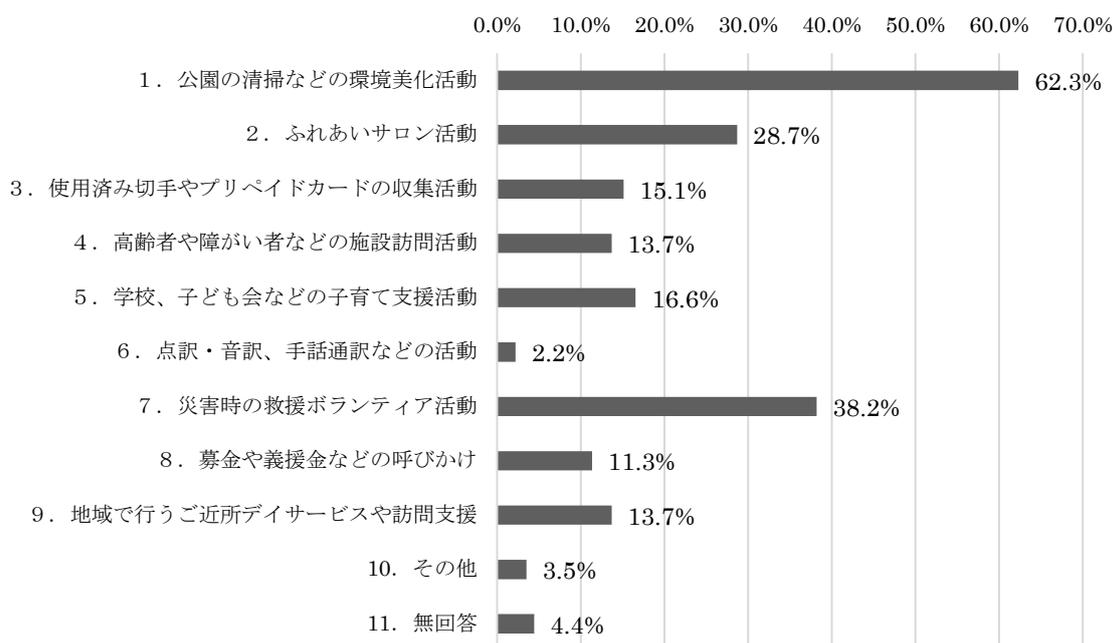


(5) ボランティア活動について

「非常に関心がある」「関心がある」人の割合は約70%近くを占めておりボランティアについて関心があることがうかがえる。さらに「すでに参加している」「参加してみたい」という人も全体の75%以上あり、ボランティアについては非常に関心があると思われる。年代別にみると「ボランティア活動にすでに参加している」「参加してみたい」の割合は、年齢が上がるにつれて増えており、一番多かったのは70歳代で、次は60歳代と続いている。

「どのような活動を行っているか」または「どのような活動をしたいか」については、「公園の清掃や空き缶拾いなどの環境美化活動」が最も多く、地域でも行われている馴染み深いボランティア活動に人気がある。続いて「災害時の救援ボランティア活動」となっており、地震だけでなく近年の豪雨災害により防災意識が高くなっていることがうかがえる。

図表 6 「ボランティアを行っている、またはやってみたい活動」のアンケート結果



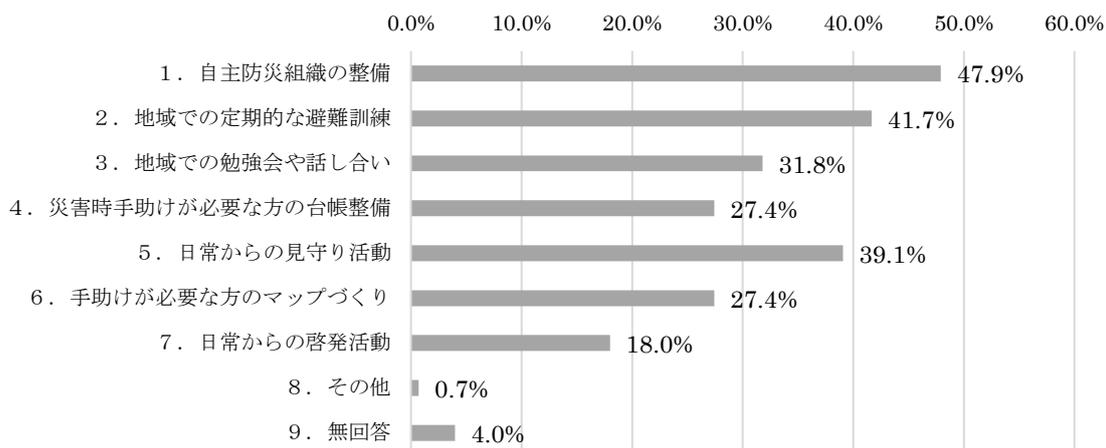
(6) 災害時の備えについて

災害時の避難について、「避難できると思う」と回答した人が約56%と、前回調査より10%ほど増えており防災に対する意識が少しあがったように感じられる。一方、「避難できない」と回答された方の理由としては、前回同様に「となり近所で助け合えるかわからない」が約40%と一番多く、地域の人との関わりの必要性を感じていながらも活動が進んでいないことが分かる。続いて「避難所が遠い」「介助が必要」となっており、要援護者に対する支援が課題となっている。

また、日ごろからの災害への準備については、「テレビなどでの防災情報の収集」が一番多く、続いて「日ごろからの挨拶や声かけ」、「避難場所の確認」、「食料備蓄・防災グッズの準備」となっており、自分でできることが多くなっている。「地区の防災訓練等への参加」といったみんなが集まるものは少し減少した。

災害時に住民が支えあう地域づくりに必要だと思われるものでは、「自主防災組織の整備」が最も多く約半数を占めている。次いで「地域での定期的な避難訓練」となっており、地域での防災訓練等の活動推進と防災啓発の周知徹底を継続していくことが必要となっている。

図表 7 「災害時に住民が支えあう地域づくりに何が重要だと思いますか」のアンケート結果



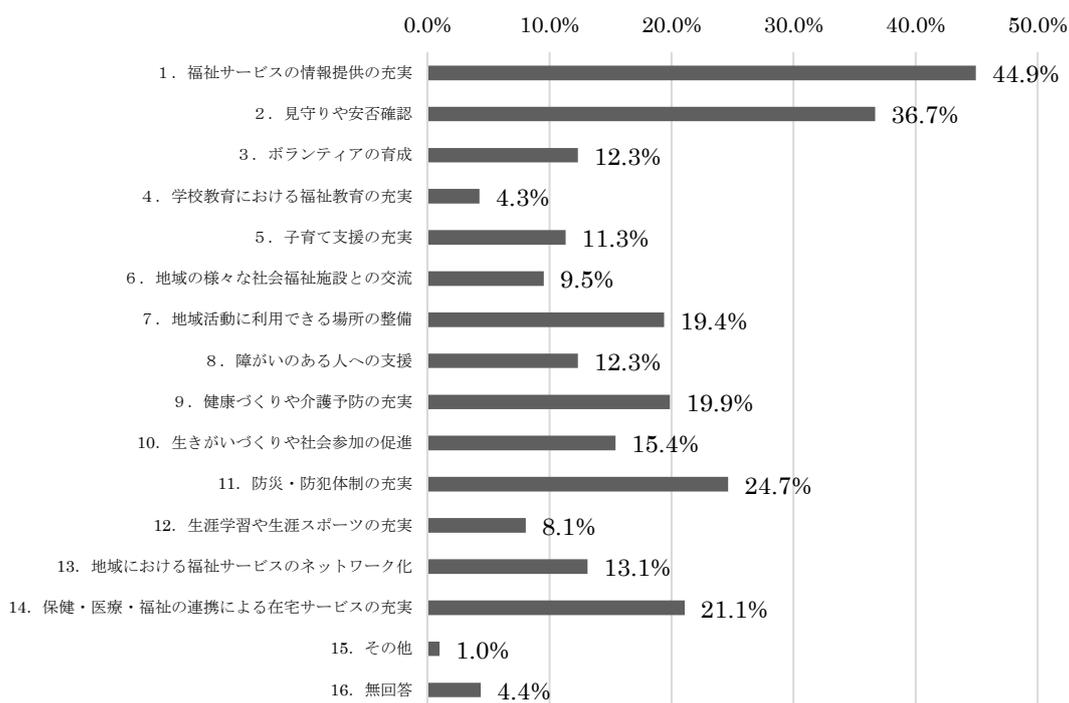
(7) 社協の活動について

社協に求められている活動・支援では、前回と同じく「身近なところで相談ができる福祉総合相談の充実」、「高齢者や障がいのある人の支援」が多くなっている。身近な場所での相談窓口を充実させ、必要な方に援助が届く取り組みが求められている。

また、福祉のまちづくりには、「福祉サービスの情報提供の充実」と「見守りや安否確認」が重要という結果となっている。

こうした結果を踏まえ、社協の福祉総合相談機能の基盤強化と身近に相談できる体制づくり、そして高齢者や障がい者など支援が必要な方の見守りと支援の充実が今後の課題であると言える。

図表 8 「福祉のまちづくりのために重要だと思うこと」のアンケート結果



7 本計画策定における重点項目

第三次活動計画の評価、アンケート調査、第四期三好市地域福祉計画の策定委員会等から整理した、本計画において推進すべき重点項目は次の通りです。

◆コロナ禍により疎遠となった地域の絆を再構築

コロナ禍の影響を受け、事業の縮小や中止、市民が外出や訪問を控えたこともあり、交流やつながりの機会が減少し地域から孤立する人も出てきています。地域の絆を再構築し、交流やつながりの場がもどるよう支援していく必要があります。

◆困りごとを抱えた人を発見・支援する仕組みづくり

コロナ禍においては、生活福祉資金特例貸付やフードバンクによる食糧支援など経済的な困りごとを抱えた人に対する支援を実施してきましたが、新たな福祉課題が隠れていることが考えられます。地域の困りごとを抱えた人を発見し支援につなげる体制をつくる必要があります。

◆地域における新たな担い手の養成と確保

地域において多くの役割を担っていただいている、老人クラブや婦人会の会員数は年々減少傾向にあり、地区住協を支えている自治会の加入世帯数も減少しています。そういった中で、地域における助け合い・支え合いを進めていくためには、地域リーダーの発掘と養成が必要です。

◆地区住協をはじめとした小地域福祉活動の支援

三好市では各地区の地区住協ごとに福祉課題解決に向けた活動計画をつくり住民主体による福祉活動を展開してきました。引き続き地区住協をはじめとした小地域の活動を支援し、住民主体による福祉活動を促進していく必要があります。

◆身近な相談支援体制の整備

地域における困りごとはなかなか表面化せず、見えない所で複雑化・複合化が進んでいきます。困りごとを抱える人の積極的な把握や支援につなげるため、関係機関等との一層の協働・連携をし、相談を受けやすい体制をつくる必要があります。

◆災害への備え

災害時においては住民による助け合い・支え合いが重要ですが、それには常日頃からのつながりが必要です。そのため、一層の住民同士のつながりを支援するとともに、継続した研修や訓練を実施し、災害時に備えていく必要があります。

第 2 章 地域福祉活動計画概要

1 第四次地域福祉活動計画の概要

1 基本的な考え方

本計画は、地域福祉に関わる機関・団体等の各活動主体がこの計画の基本理念、基本目標、基本計画の方向性を理解・共有しながら歩調を合わせ、連携・協働して取り組んでいくことにより、効果的に地域福祉を推進していこうとするものです。

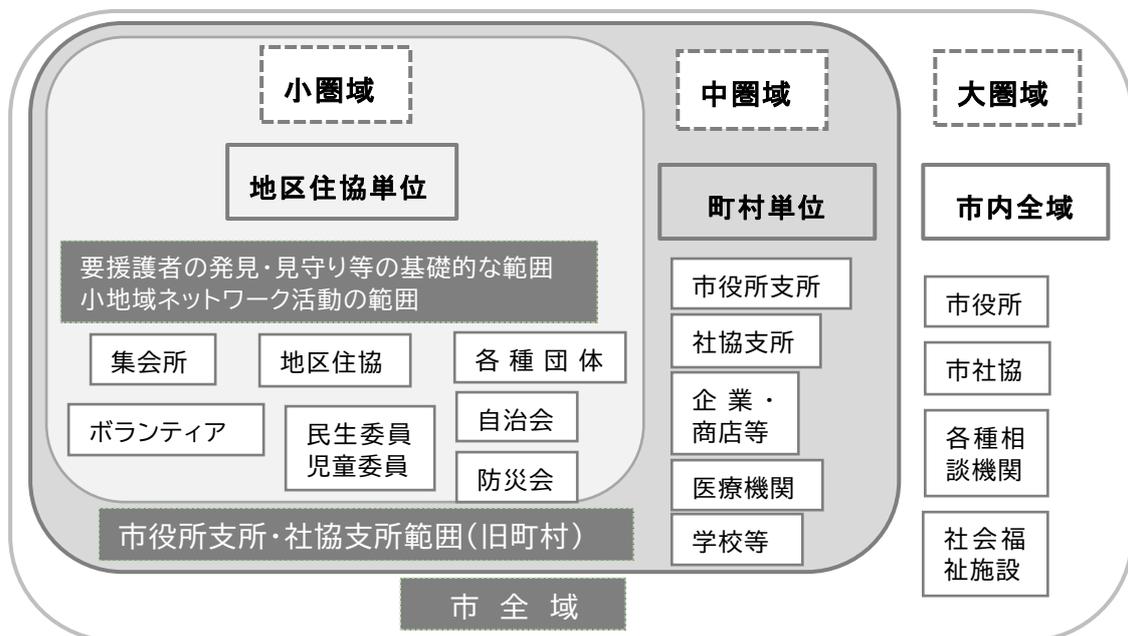
各活動主体が、本計画の基本理念の達成を目指して、それぞれの事業等について、住民参加を図り、地域性を活かした取り組みを相互に連携・協働して行うことで、地域福祉が充実していきます。

2 圏域の考え方

地域福祉を推進するためには、様々な活動圏域が地域に存在する中で、市を全体とした大きな圏域から、隣近所といった小さな圏域まで、それぞれの圏域に応じた推進体制を整備し、効果的な地域福祉活動を展開することが必要です。このため、この計画を推進するにあたっては、3つの圏域を設定し、それぞれの圏域に応じた機能や役割、体制等を整備していくこととします。

- ・大圏域(市全体のエリア - 三好市 -)
- ・中圏域(市内を6地区に分けたエリア - 三野・井川・池田・山城・西祖谷・東祖谷 -)
- ・小圏域(地区住協単位 - 64 地区住協 -)

●地域の範囲と地域資源



3 活動計画の体系について

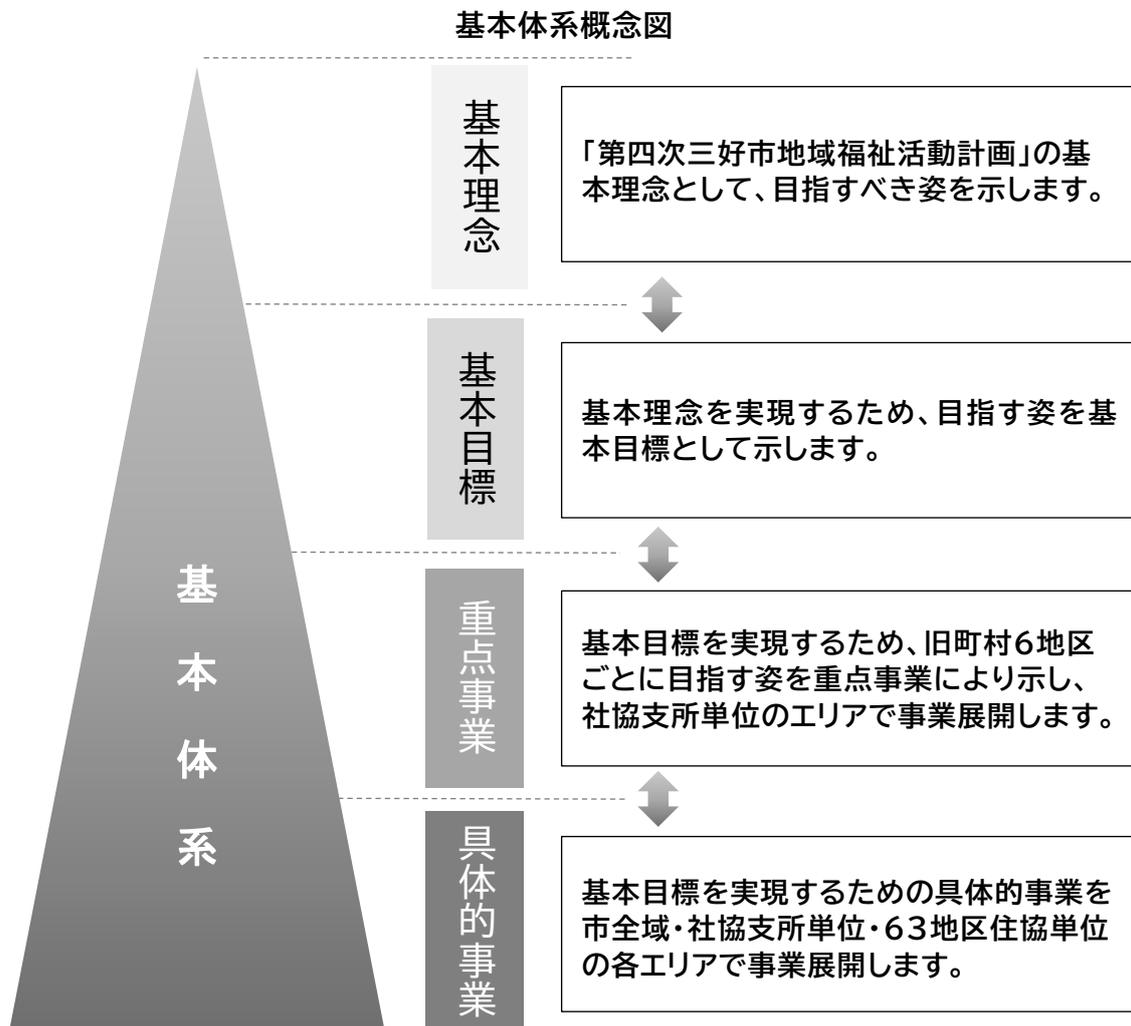
本計画策定の目的として、第三次活動計画(令和2年度～令和5年度)までの活動計画の取り組みの到達点を踏まえ、引き続き次の二つの目的を主眼としていきます。一つ目は住民主体の地域福祉活動の一層の発展を目指すこと、二つ目に社協の基盤強化を図りながら地域福祉活動の支援機能を強化充実させることです。

(1) 基本計画の作成

第三次活動計画の反省を基に計画体系の統一化を図るため、たたき台として、アンケート調査をもとに市全域を対象にした「基本計画」を設定し、地区計画(旧町村単位)や小地域計画(地区住協単位)作成のための基本概念とします。

(2) 重点項目を踏まえ活動計画を作成

- ① 「基本計画」には「基本理念」「基本目標」を設定し、将来のまちの姿、理想像を描き、活動全体の方向性や目標を示すとともに、今後実施していく多様な取り組みの全体像を示しています。
- ② 基本計画にある「重点事業」は、中・小圏域の地域福祉活動計画の事業の柱とするため、旧町村単位で策定する地区活動計画と地区住協単位で策定する活動計画の取り組むべき重点事業を同じ項目にしています。
- ③ 基本計画がたたき台となり、項目ごとに地域の福祉課題を踏まえて地区計画及び小地域計画を策定しています。



4 基本理念と基本目標

一人ひとりが、地域で役割を持ちながら、相互に支え、支えられて安心して暮らしていけるまちづくりを目指し、本計画の基本理念と基本目標を次のように掲げます。

・・・基本理念・・・

人と地域 つながり支え合う 共生のまちづくり

地域の中には、元気な人もいれば、高齢の方や障がいを抱えた方、外国の方、性的少数者の方、犯罪から更生された方など様々な人がいます。そういった人たちがつながりお互いに支え合うことで、共に生きていけるまちをつくっていきます。

基本目標 1 ふれあい助け合える地域づくり

すべての住民が地域の福祉活動に関心を持ち、安心して暮らしていける地域づくりのため、ふれあいのある地域づくりと近隣の助け合い活動を推進します。

基本目標 2 地域の活動を支える担い手づくり

多彩な地域福祉活動を支える人材の確保と地域活動リーダーを育成するための研修会等を実施します。

基本目標 3 身近な相談支援体制の整備

身近な地域のなかで、気軽に相談をすることができるよう総合的また専門的な相談と支援体制の整備を図ります。

基本目標 4 見守りネットワークの充実強化

地域での見守り活動やいきいきサロン活動を積極的に推進し、困りごとの早期発見に努め、日常的な見守りから災害時には要援護者支援にもつなげます。

基本目標 5 地域で支え合い安心して生活できる体制づくり

私たちが地域で安心して暮らせるよう地域にあった新しい支援のかたちを創り、地域ぐるみの支え合い、助け合いの意識に根付いた支援をすることで災害時等の緊急時における支援が、的確かつ迅速に行える仕組みづくりを推進します。

5 重点的な取り組み

中・小圏域の地域福祉活動計画の事業の柱とするため5つの基本目標をふまえて次の3つの重点事業を掲げ、地域のまちづくりプラン(地区活動計画)を策定し、事業を推進します。

重点事業1 地域の絆を深める

コロナ禍により希薄となった地域のつながりを取り戻すための、ふれあいの拠点づくりと近隣の助け合い活動を推進し、行政では手の届きにくい日常的で身近な課題についても協働で解決できるあたたかい地域づくりを目指します。

重点事業2 援助が必要な人に支援を届ける

地域に関わる多様な担い手による見守りネットワークづくりを進め、困りごとを抱えた人の早期発見と問題解決に向けての支援を届ける体制づくりを推進します。

重点事業3 安全で安心豊かなまちづくり

地域の防災・防犯力の強化と、援助が必要な方、生活に問題を抱えている方など、みんなが安心して住み続けられるための地域生活支援を推進します。

2 活動計画の進行管理と評価について

本計画は、今後地域福祉の推進を図るための基本的な考え、方向性と具体的な取り組みなどを明らかにしたものです。

地域福祉活動は、さまざまな活動主体が参加・協力し、連携・協働しながら推し進めていくものであり、そのためには、本計画の基本理念や基本目標を共有することが重要となります。本会は、地域福祉活動の「中核的役割」を担い、活動の輪を広げるとともに、それぞれの活動について振り返りや評価を行いながら計画の推進に努めます。

◎ 主に次の取り組みを実施します。

- ✓ 地区住協やサービス利用者等への聞き取り等を通じた意見収集
- ✓ 評価会議を通して地域の福祉活動の現状を地域ごとに評価
- ✓ 地区住協への支援活動及び事業の振り返りによる社協の取り組みを評価
- ✓ 毎年評価分析したものを次年度へつなげる活動計画書の作成

これらを基にして、「地域福祉活動計画策定委員会」による計画の進捗管理と評価などを継続します。この委員会では、活動計画策定協議だけでなく、地域で取り組まれているさまざまな地域福祉活動の実施状況を適切に把握し、本計画の方向性の修正等について検討するとともに、事業の実施状況や成果・課題について協議し、地域福祉活動計画の進行管理をしていきます。

第 3 章 地域福祉活動計画の内容

1 地域福祉活動計画－三好市全域－(大圏域)

三好市地域福祉活動計画



-説明-

- ※ 三好市のデータは、令和5年9月末日集計したものです。
一人暮らし高齢者世帯数、高齢者のみ世帯数は、ささえあいネットワーク会議等により整理した社協の地域福祉台帳に登録されている人数で、登録は任意です。

●三好市データ

(令和5年9月末現在)

区 分	人 数	区 分	世帯・割合
人 口	22,995 人	世 帯 数	11,880 世帯
14歳以下	1,781 人	一人暮らし高齢者世帯数	1,759 世帯
15～64歳	10,338 人	高齢者のみ世帯数	1,279 世帯
65歳以上	10,876 人	高 齢 化 率	47.3 %
(75歳以上)	(6,042 人)	後期高齢化率(75歳以上)	26.3 %
社会資源 ○消防署(3 箇所) ○消防団(52 箇所) ○警察署(1 箇所) ○駐在所(11 箇所) ○病院(22 箇所) ○防災公園(1 箇所) ○高校(1 校) ○中学校(6 校) ○小学校(13 校) ○保育所(園)、認定こども園(10箇所) ○幼稚園(6箇所) ○公民館、地区館、分館(62 箇所) ○児童クラブ、子ども教室(17 箇所) ○介護施設(33 箇所) ○介護サービス事業所(44 箇所) ○福祉団体等 ・ボランティア(令和5年度登録数:71 団体:2,045 人) ・子ども食堂(7 箇所) ・ボランティア連絡協議会(34 団体、607 人) ・ふれあいサロン(83 箇所) ・みよし地域福祉事業所連絡協議会(34 事業所) ・民生、児童委員(134 人) ・老人クラブ(単位クラブ数:32 会員数:2,351 人) ・婦人会(1,059 人) ・身体障害者会(197 人) ・手をつなぐ育成会(53 人) ・遺族会(439 人) ・精神障害者家族会(2 人) ・母子寡婦福祉連合会(155 人) など			

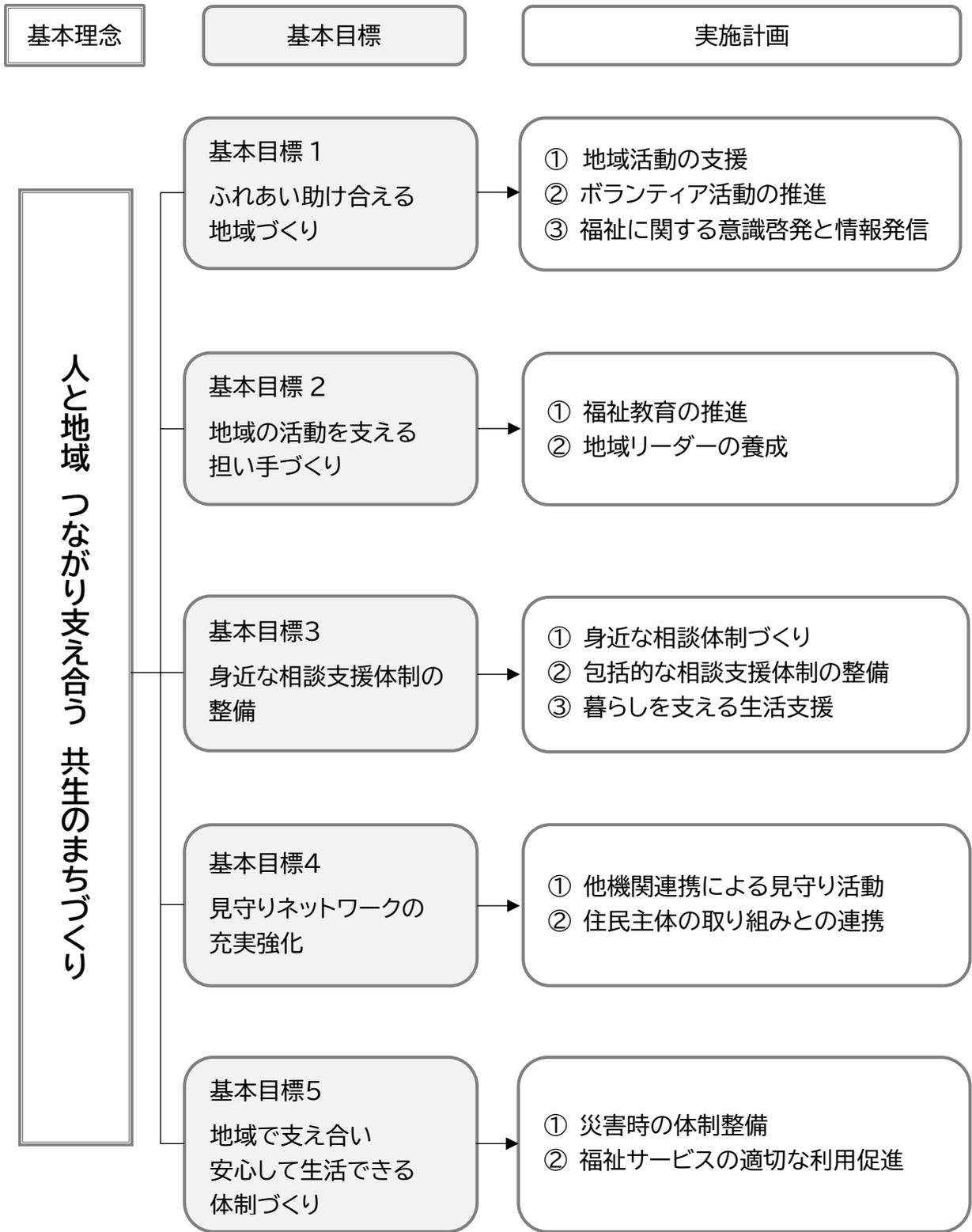
●地区住協設置状況

(令和6年3月末現在)

	地区住協名	地区住協数 ()内は休会数	所属 自治会数	設立年月日
1	三好市地区住民福祉協議会連合会	66(2)	471	平成25年 4月
2	三野地区住民福祉協議会連合会	9	63	平成23年 2月
3	井川地区住民福祉協議会連合会	8	89	平成22年10月
4	池田地区住民福祉協議会連合会	22	187	平成22年11月
5	山城地区住民福祉協議会連合会	8	54	平成23年 5月
6	西祖谷地区住民福祉協議会連合会	6(2)	34	平成23年 2月
7	東祖谷地区住民福祉協議会連合会	13	44	平成22年10月

1 三好地域福祉活動計画の展開と構成

基本理念の「人と地域 つながり支え合う 共生のまちづくり」を実現するため、5つの「基本目標」と、それぞれに「主な取り組み」内容を定め、事業を推進していきます。



2 計画の基本目標と主な取り組み

基本目標1 ふれあい助け合える地域づくり

実施計画 ①	地域活動の支援
具体的な実施内容	(1) 地区住協支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の支援のための適正な助成金を交付する。 ・ 市、町村、地区の地区住協の運営、活動を支援する。 (2) サロン支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な住民同士の定期的な交流の場としての「集いの場」が充実し、新たなつながりに向けた取り組みを支援していく。 (3) 当事者福祉団体の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局業務を受け持っている各当事者団体の支援をする。その他、子ども食堂等の福祉団体の支援をする。 (4) 評価会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区住協の活動が計画に沿って実践できるよう、状況に応じた支援を実施する。 (5) 講師派遣等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各事業のニーズに合った講師の派遣や講習会開催等の支援をする。

実施計画 ②	ボランティア活動の推進
具体的な実施内容	(1) ボランティアセンター機能の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動の支援、情報提供を行い活動の拠点として充実させる。 ・ 必要な物を必要な所へ、フードバンク事業を推進する。 (2) ボランティア連絡協議会活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局として運営・活動の支援をする。 (3) 共同募金活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「じぶんの町を良くするしくみ」づくりを目的に、地域から寄せられた募金を効果的に地域福祉の推進に活用する。 (4) 市民フェスタの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉・ボランティア活動への関心や理解を深めてもらうため、福祉・ふれあい市民フェスタを開催する。

実施計画 ③	福祉に関する意識啓発と情報発信
具体的な実施内容	<p>(1) 社協広報・ホームページの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本会の各事業や地区住協活動などを広く市民に周知し、福祉意識の向上を図る。(広報:年/4回) <p>(2) 福祉資源台帳の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の福祉資源を集約することにより、地域福祉活動のみならず、介護保険のインフォーマルな部分の支援につなげるようにする。

基本目標2 地域の活動を支える担い手づくり

実施計画 ①	福祉教育の推進
具体的な実施内容	<p>(1) 高齢者疑似体験の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉体験学習の実施。(学校と相談のうえ実施) ・ ボランティア講座を開催し、人材育成を兼ねボランティア学習会を実施する。 <p>(2) ボランティア体験等の体験学習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア協力校を指定する。 ・ ボランティア体験を実施する。(夏休み、市民フェスタ、各事業)

実施計画 ②	地域リーダーの養成
具体的な実施内容	<p>(1) 地区住協研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サロンリーダーのためのスキルアップ研修会として福祉レクリエーション講習会を実施し、サロンの資質向上に努める。 ・ 地域福祉推進の中核を担う地区住協リーダーの育成を推進する。 ・ 地区住協活動活性化に向けた研修会を実施し、ニーズに合った具体的な学習の機会を設け、人材の発掘に努める。 <p>(2) 生活支援サポーター、フレイルサポーターの養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援サポーターの人材発掘と各地域での活用に取り組む。 ・ フレイル予防を推進するための、人材育成と確保に努める。

基本目標3 身近な相談支援体制の整備

実施計画 ①	身近な相談体制づくり
具体的な実施内容	<p>(1) 総合相談の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の法律相談の実施。また各支所において一般相談会を定期的に開催する。社協広報・ホームページ・市報での周知に加え、新たな周知方法を検討し、広く広報に努める。 <p>(2) 相談員研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談員研修会を開催し、相談員の研鑽を図り充実した相談体制を目指す。 <p>(3) 地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ささえあいネットワークや民生委員等と連携し、潜在化するニーズの発見に努める。

実施計画 ②	包括的な相談支援体制の整備
具体的な実施内容	<p>(1) 他機関連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター等と連携し、職員が地域に出向き実態把握を行うことにより予防的対応に努める。 生活困窮者自立支援事業と連携した相談支援を推進する。 <p>(2) 社会福祉法人との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域公益活動総合相談事業「よりそい相談」を推進する。 法人、施設の協働による地域の支え合い体制づくり。

実施計画 ③	暮らしを支える生活支援
具体的な実施内容	<p>(1) フードバンクの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活に窮迫し食べ物に困っている相談者に対して、企業や商店、住民から食料等の寄付を受け支援を行う。 <p>(2) 生活困窮者緊急食糧等支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急に支援が必要な生活困窮者に対し、生活保護や緊急小口資金貸付等のつなぎ支援として食料品等生活必需品を現物支給する。

基本目標4 見守りネットワークの充実強化

実施計画 ①	他機関連携による見守り活動
具体的な実施内容	<p>(1) 高齢者台帳整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生・児童委員や各関係機関と連携し、概ね 65 歳以上の高齢者の方を対象に台帳登録をすすめ、希望者には、あんしん手帳を発行する。 <p>(2) ネットワーク会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ささえあいネットワーク会議により高齢者台帳登録者の状況確認を行うとともに、地域の実情や実態を把握し、福祉課題の早期発見に努める。 ・ 援助が必要な方に対し、地域包括支援センターと連携し、職員が地域に出向き予防的対応に努める。 <p>(3) 社会福祉法人との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人、施設の協働による地域の見守り。

実施計画 ②	住民主体の取り組みとの連携
具体的な実施内容	<p>(1) ふれあいサロン等による見守り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあいサロン、百歳体操等の事業を通して要援護者の実情を把握し、予防的対応に努めてもらうとともに、支援が必要な方を発見した時は専門職につなげる。 <p>(2) 食事サービス等による見守り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事サービス・ふれあい郵便等、地域住民と連携した事業を通じた見守り活動により福祉課題の早期発見を図るとともに、小地域の見守りネットワークを構築する。

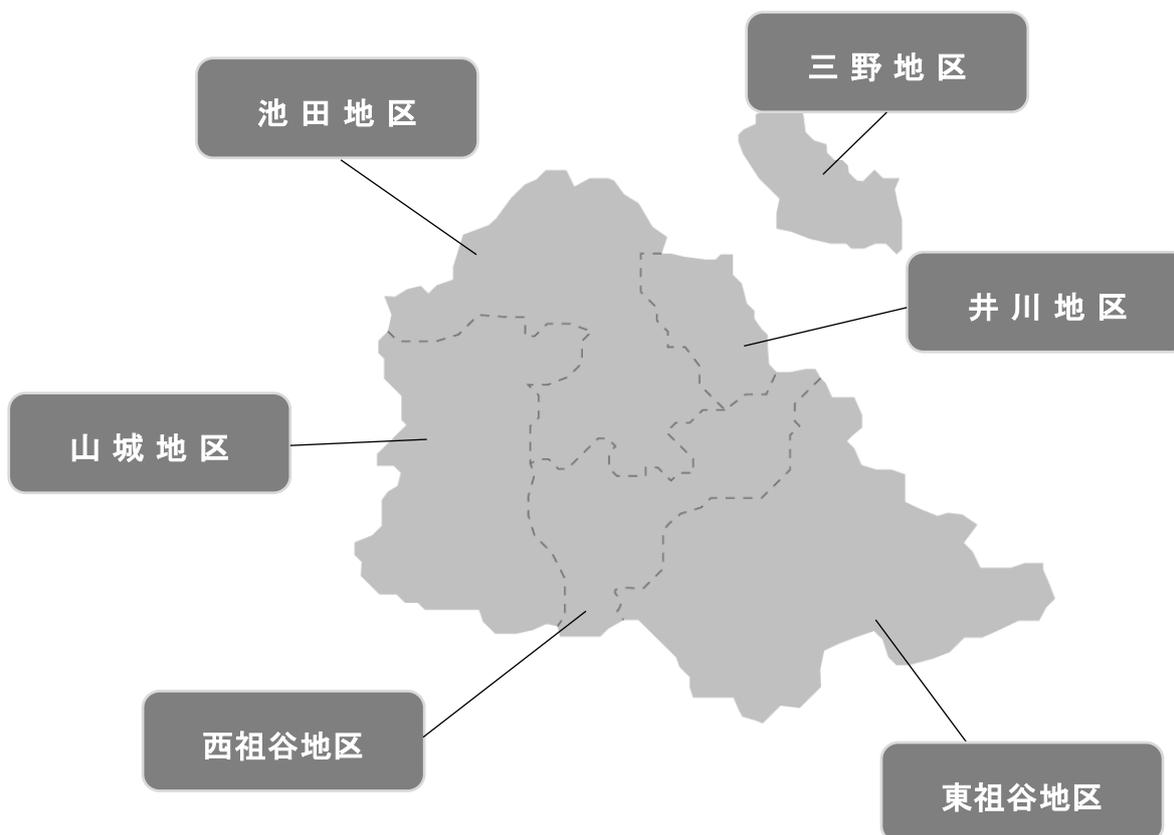
基本目標5 地域で支え合い安心して生活できる体制づくり

実施計画 ①	災害時の体制整備
具体的な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> (1) 災害ボランティアセンター設置・運営に係る研修、訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関と連携した研修・訓練を継続し、災害時に備える。 (2) 災害ボランティアへの事前登録などボランティアの育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ センター運営や災害復旧活動が円滑に進められるよう、地域住民の理解・協力を得るための活動を推進する。 (3) 地域防災活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の防災訓練等へ、資機材の貸与や講師派遣の支援を行う。

実施計画 ②	福祉サービスの適切な利用促進
具体的な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> (1) 日常生活自立支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 判断能力が十分でない高齢者や障がいのある方々が、必要な福祉サービスを利用しながら住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう支援する。 (2) 生活福祉資金貸付事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍における特例貸付の返済手続きの支援や、生活に困難を抱える人や世帯に対し相談・支援を行い、必要な資金の貸付事務を行う。 (3) 生活支援体制整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援コーディネーターの配置。 ・ 生活支援・介護予防サービス提供体制の構築。 ・ 高齢者の社会参加による介護予防と地域づくりを推進する。 (4) 権利擁護に関する取り組みの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活自立支援事業の充実と成年後見制度の利用促進に関する取り組みを関係機関と連携・協議して推進する。

2 地域福祉活動計画－旧町村単位－（中圏域）

6地区地域福祉活動計画



-説明-

※ 地区のデータは、令和5年9月末日集計し座談会で使用したものです。
一人暮らし高齢者世帯数、高齢者のみ世帯数は、ささえあいネットワーク会議等により整理した地域福祉台帳に登録している65歳以上の人数で、登録は任意です。

●人口データ（令和5年9月末現在）

区 分	人 数	区 分	世帯・割合
人 口	4,047 人	世 帯 数	1,883 世帯
14歳以下	332 人	一人暮らしの高齢者世帯数	209 世帯
15～64歳	2,062 人	高齢者のみ世帯数	198 世帯
65歳以上	1,653 人	高 齢 化 率	40.8 %
(75歳以上)	(867 人)	後期高齢化率(75歳以上)	21.4 %

住民アンケート・座談会より

住民アンケートでは、「隣近所の人による助け合い活動・支え合い活動として必要だと思うこと」の問いに対して「安否確認の声掛け」「話し相手」が上位となり、「災害時に住民が支えあう地域づくりに何が必要」の問いに対しては「地域での定期的な避難訓練」「自主防災組織の整備」が上位となりました。また、「地域福祉活動計画を推進するにあたって重要なことは」の問いに対して「ご近所の関係づくりと地域の連携」「地域福祉を支える人材づくり」が上位となりました。

座談会では、「集まる機会が減った」「見守り体制の必要性」「防災に対する平日頃からの準備」などの地域における課題が多々あがってきました。

住民アンケート・座談会をとおして、日頃からの備え、取り組みに対して不安に思っており、ご近所、地域との繋がりに関することを重要視していることが分かり、繋がりを強めていくことで、様々な課題解決に向けた取り組みに繋がるのではないかと考えます。

今後の方向性

住民アンケート・座談会で出た課題や地域で重要視している「繋がり」を踏まえて、第四次三野地区地域福祉活動計画を策定いたしました。基本理念である「人と地域 つながり支え合う 共生のまちづくり」を目指し、計画を軸に地域福祉活動を推進することで、今後の活動の発展に向けて推進いたします。

重点事業 1	地域の絆を深める
---------------	-----------------

地域での課題

▼ 集まる機会が減った

課題解決に向けての目標

○ 気軽に集える地域づくり



取組項目	内 容
世代間交流の実施	子どもから高齢者まで参加できる事業を企画し、世代間交流を図る。
三野福祉まつりの充実	地域活動の場として、また、世代間交流が図れる場として開催する。

重点事業 2	援助が必要な人に支援を届ける
---------------	-----------------------

地域での課題

▼ 見守り体制が不十分

課題解決に向けての目標

○ ゆるやかに見守れる地域づくり



取組項目	内 容
見守り活動の推進	地域の実情に合わせた見守り支援体制の構築と実施に向けた支援を行う。
総合事業との連携	三野町「元気づくり・地域づくり」協議会との連携により地域課題解決に向けた取り組みを行う。

重点事業 3

安全で安心豊かなまちづくり

地域での課題

▼ 防災に対する意識が低い

課題解決に向けての目標

○ 隣近所で助け合える地域づくり



取組項目	内容
隣近所の関係づくり	地域で助け合える関係構築に向け多世代で話し合える場や機会をつくる。
防災研修・訓練等の実施	防災研修会や訓練等を実施することで防災に対する意識を向上させ、災害時に備える知識を習得する。



三野福祉まつり

●人口データ（令和5年9月末現在）

区 分	人 数	区 分	世帯・割合
人 口	3,165 人	世 帯 数	1,561 世帯
14歳以下	255 人	一人暮らしの高齢者世帯数	176 世帯
15～64歳	1,428 人	高齢者のみ世帯数	175 世帯
65歳以上	1,482 人	高 齢 化 率	46.8 %
(75歳以上)	(845 人)	後期高齢化率(75歳以上)	24.4 %

住民アンケート・座談会より

井川地区の住民アンケート「隣近所の人による助け合い活動・支え合い活動として必要だと思うこと」の問いに対して「安否確認の声掛け」「話し相手」が上位となり「地域福祉活動計画によって地域の活動や組織体制が変わったかどうか」の問いに対しては「住民間のつながりが少しずつ深まった」が上位となりました。その反面「新型コロナの影響でつながりが薄くなった」との意見も多数ありました。

また、「災害時に住民が支え合う地域づくりに何が必要」との問いに対しては「自主防災組織の整備」「地域での定期的な避難訓練」が上位となりました。座談会では「参加者が固定化している」「支援体制ができていない」「災害時の対応が不安」などとの声が多々あがり、地域における課題が浮き彫りとなりました。

住民アンケート・座談会をとおして、地域において担い手不足・後継者不足・参加者の固定化の問題が重要視されていることが分かりました。「老若男女問わず参加したくなる事業の実施」、「今まで不参加だった方が気軽に参加できる雰囲気づくり」に努め、新規参加者が増えることにより問題解決へと繋がるのではないのかと考えます。

今後の方向性

住民アンケート・座談会から井川地区では、高齢化又は自治会未加入世帯増加による地域コミュニティ力が低下し、サロン・防災活動等の既存の事業継続が懸念されています。「誰もが安心して暮らせる地域」「相互支援ができる地域」を目指し第四次地域福祉活動計画を軸として、地域・社協協働で事業を展開し既存の事業継続に併せ新規事業展開に努め、地域福祉活動の発展を推進致します。

重点事業 1	地域の絆を深める
---------------	-----------------

地域での課題

▼ 地域コミュニティの希薄化

課題解決に向けての目標

○ 気軽に集える地域づくり



取組項目	内 容
集いの場の充実	多数の方に参加意欲を持って頂けるようサロンなど集いの場を充実させる。
世代間交流の推進	幅広い世代に参加して頂ける行事を実施し、世代間交流できる機会作り。
第2層協議体「元気づくり・地域づくり協議会」との連携	地域課題を発掘し解決に向け事業を実施する。

重点事業 2	援助が必要な人に支援を届ける
---------------	-----------------------

地域での課題

▼ 支援体制ができていない

課題解決に向けての目標

○ 多方面からの支援体制構築



取組項目	内 容
支援体制充実	支援を要する人に沿った支援活動を行う。
各種団体との連携強化	民生委員・地区住協等各種団体と連携を取り問題の早期発見・早期解決に取り組む。

重点事業 3

安全で安心豊かなまちづくり

地域での課題

▼ 対応力が不十分

課題解決に向けての目標

○ 平時の備えと緊急時に対応できる地域づくり



取組項目	内容
防災力の強化	防災訓練・研修会を継続して実施。
防犯力の強化	防犯研修会・詐欺等の情報提供を行う。



第1回井川地区ふれあい運動会

●人口データ（令和5年9月末現在）

区 分	人 数	区 分	世帯・割合
人 口	10,939 人	世 帯 数	5,658 世帯
14歳以下	992 人	一人暮らしの高齢者世帯数	886 世帯
15～64歳	5,018 人	高齢者のみ世帯数	620 世帯
65歳以上	4,929 人	高 齢 化 率	45.1 %
(75歳以上)	(2,749 人)	後期高齢化率(75歳以上)	25.1 %

住民アンケート・座談会より

池田地区では、どの地域においてもコロナの影響により、規模縮小やその時々状況に合わせた狙いや内容を変化させ、既存の事業の再開・維持に取り組もうとする地域が多くみられました。また、特に山間地域では担い手不足が深刻化する中で、いかにして若い世代の人たちに地域コミュニティへの関心を持ってもらうか、事業に参加・協力してもらえるかが課題となっています。

また、援助が必要な方への支援については、見守り活動の継続が各地域共通の課題であり、アンケート調査の中でも地区住協には「見守り活動」の充実を期待する声が多く挙げられています。特に山間部については、家が点在していることで状況を確認しづらい点があり、見守り活動のより一層の強化が求められています。

安全で安心豊かなまちづくりについては、集まったの活動に制限がかかる中、防災・防犯研修を実施できなかった地域が多く、再開に向けての取り組みが課題となっています。また、様々な災害についての正しい知識を学び、これに対して備えることにより、住民や地域全体の防災意識の向上を図ることが重要となっています。

今後の方向性

高齢化が進展する中で、「人材確保と育成」や「サロン活動の活性化」等については、地域住民と社協が一緒になって活動を進めていくことが重要となっています。また、見守りが必要な方への支援やコロナ化により生活が不安定なった方については、民生委員・地区住協と連携し、ネットワーク会議・サロン活動により情報収集を行い迅速な対応が必要とされています。

地域住民と共働で災害についての研修会等を開催し、地域の防災力を高める活動を推進します。コロナの影響等により活動がストップしてしまった地域については、アウトリーチによる支援活動により、地域活動の再始動に向けた支援を進めていくとともに、既存の事業が継続できるよう地域と社協が一体となって地域福祉活動を推進していきます。

重点事業 1	地域の絆を深める
---------------	-----------------

- | | |
|-------------|--|
| 地域での課題 | <ul style="list-style-type: none"> ▼ サロンに参加するための、移動手段や場所の確保 ▼ 若い世代の参加率の低下 ▼ 地域のつながりが薄れている |
| 課題解決に向けての目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 幅広い世代が参加できる事業等を実施する ○ 既存事業の再開・継続 |



取組項目	内容
サロン活動の再開・充実	既存事業の開催・規模縮小や内容の見直し。小地域でのサロンの実施。
世代間交流の推進	既存の事業に合わせる形で新しいイベントを企画・実施。イベントの幅広い周知と参加者へのニーズ調査。

重点事業 2	援助が必要な人に支援を届ける
---------------	-----------------------

- | | |
|-------------|----------------|
| 地域での課題 | ▼ 見守り活動の継続・強化 |
| 課題解決に向けての目標 | ○ 地域で支えあう体制づくり |



取組項目	内容
見守り活動の継続と体制整備	各種団体と連携・協力し、地域全体で見守り活動を行う。緊急連絡先の共有し、電話での安否確認を行う。
ささえあいネットワーク会議の実施	地区住民からの情報により各関係機関が連携し、対象者の問題解決を早期に発見し必要な支援につなげる。

重点事業 3

安全で安心豊かなまちづくり

地域での課題

▼ 災害に対する備えや治安維持のための活動が必要

課題解決に向けての目標

○ 地域で安心して安全に暮らせる支援体制づくり



取組項目	内容
防災訓練・研修会の実施	防災・防犯をテーマとした研修会の開催。
緊急時の体制整備	要援護者世帯の把握と緊急連絡先の共有。 防災福祉マップの更新。
情報提供	災害に対する備えや災害発生時取るべき行動などについてまとめたチラシの作成・配布。



池田地区住協連合会防災研修

●人口データ（令和5年9月末現在）

区 分	人 数	区 分	世帯・割合
人 口	2,953 人	世 帯 数	1,620 世帯
14歳以下	139 人	一人暮らしの高齢者世帯数	267 世帯
15～64歳	1,169 人	高齢者のみ世帯数	159 世帯
65歳以上	1,645 人	高 齢 化 率	55.7 %
(75歳以上)	(934 人)	後期高齢化率(75歳以上)	31.6 %

住民アンケート・座談会より

山城地区は、愛媛県・高知県と県境を接し、吉野川流域の大歩危溪谷や四国山地の山々に囲まれ、面積の85%を山地が占めている。高齢化と人口減少が進む中、狸や妖怪伝説、地形など地域の資源を活かした町おこしイベント開催などや観光地としての強みもあります。

事前の住民アンケートからは、「安否確認・見守り活動」「相談しやすい体制や情報提供」「緊急時に備えての活動や役割分担・平時からの関係づくり」といった点が課題として明らかになりました。

座談会では、第三次計画の取り組みにより、組織間の連携強化の取り組みが進められていますが、活動の拡大は難しいという地域が大半を占めました。地域内の組織力低下や高齢化に伴う移動範囲の制限により、これまで以上に小地域での活動や日頃からの繋がり的重要性が再認識されました。第四次地域福祉活動計画を元に、今ある地域の活動をつなげ、それぞれが連携することで地域力を高めていくことが必要になっています。

今後の方向性

第三次計画において、地域活動の把握により各組織の連携強化を図ることの必要性の意識が高まりました。

高齢化・人口減少が進む山城地域においても、活動の維持継続が大きな課題となっています。安心して住み続けられる山城地区を目指して、地域内組織の連携による支援体制の強化(役割分担と仕組づくり)、リーダー養成による相談しやすい環境の整備、緊急時にも対応できる地域づくり、地域一帯となって検討・実践するためのツールとして本計画を策定しました。

重点事業 1	地域の絆を深める
---------------	-----------------

地域での課題

- ▼ 組織力低下による活動の継続
- ▼ 交流の機会の減少

課題解決に向けての目標

- 地域内組織や集まりの場との連携強化
- 小地域での交流の機会の充実



取組項目	内容
地域リーダーの養成	地域内組織相互の理解を深め、相互の役割を把握するとともに、学校等とも連携し次世代を見据えたリーダーの育成に取り組む。
交流の場の把握・充実	既存活動の把握により、関係団体等の連携・協働を促進し、活動の充実と地域組織力の維持と強化を図る。

重点事業 2	援助が必要な人に支援を届ける
---------------	-----------------------

地域での課題

- ▼ 援助が必要な人を発見しつなげる体制が必要
- ▼ 緊急時の連絡や支援方法

課題解決に向けての目標

- 気軽に相談できる場づくり
- サロン活動の推進(相談・状況確認・健康増進)
- ネットワーク会議による支援体制づくり



取組項目	内容
見守りの体制づくり	ネットワーク会議や既存の集まりの活用による意識的な状況確認と、相談が途切れないシステムづくりを図る。
小地域での集まりの場づくり	集まりの場を通して、状況の確認や発信、変化への気づきや相談しやすい環境を整える。
支え合いマップの作成	地域の状況を地図上で確認し、可視化することで、地域内での役割分担や支援体制づくりにより、支援活動の推進・強化を図る。

重点事業 3

安全で安心豊かなまちづくり

地域での課題

- ▼ 緊急時に対応できる体制づくり
- ▼ 地域内での情報収集や発信の方法

課題解決に向けての目標

- 地域の状況把握(環境・体制など)と住民意識の向上
- 小地域における支援体制づくり



取組項目	内容
地域内での支援体制の整備	支え合いマップ等を活用し、地域内の連絡体制や関係機関との情報共有、役割分担により相互に助け合える体制づくりと、地域内での課題を発見しつなげる体制の充実・強化を図る。
防災・防犯・防火に関する知識の向上	知識を深め、緊急時に各自で適切に判断し行動できるよう住民意識の向上を図るとともに、リーダー養成による関係組織の連携による支援体制の充実強化を推進する。



山城地区防災研修会

●人口データ（令和5年9月末現在）

区分	人数	区分	世帯・割合
人口	862 人	世帯数	508 世帯
14歳以下	34 人	一人暮らしの高齢者世帯数	95 世帯
15～64歳	329 人	高齢者のみ世帯数	35 世帯
65歳以上	499 人	高齢化率	57.9 %
(75歳以上)	(270 人)	後期高齢化率(75歳以上)	31.3 %

住民アンケート・座談会より

西祖谷は豊かな自然をはじめ、祖谷溪、かずら橋、平家屋敷などの観光名所があり、また令和4年には、各地で伝承されてきた風流踊の一つとして西祖谷の神代踊がユネスコ無形文化遺産に登録されており、自然と文化に富んだ地域となっています。

その一方で、人口減少、少子高齢化が進み、過疎問題、各団体の担い手や後継者不足などの課題があり、また地域の小中学校においても相次いで休校となり、令和6年度には櫛生小学校のみの運営が予定されており、地域の子供たちの減少に拍車がかかることが懸念されます。

防災に関しては、災害時に行政が作成しているハザードマップなどで緊急時の避難場所を指定されていますが、避難場所が分からない、避難所まで行く手段が無い、移動する方が危険、また防災に関する知識が足りていない、などの意見があり、改めて防災に対しての見直しと情報の共有が必要となっています。

多くの課題はありますが、住民アンケートでは、地域の福祉活動の参加率が高く、地域の美化活動や地域行事への参加、地域の見守りや声掛け活動を積極的に行っており、助け合い・支え合いができていたことが窺えました。

これらの各地区の座談会での意見、住民アンケート結果、第三次地域福祉活動計画での取り組みの成果や課題を踏まえたうえで、地域の力を強化できるよう第四次地域福祉活動計画を策定いたしました。

今後の方向性

過疎化や少子高齢化の進行に伴い、今後はより一層、地域社会への、適切かつ効果的で効果的な支援が重要となっております。

西祖谷においても多くの方が地域の活動やイベント、サロン活動などの参加を行い、支援が必要な人に対しても、早期に発見してスムーズな支援に繋げていくなどの環境構築が必要になってきます。

地域のニーズや課題、地域資源、防災に関する様々なことを地域住民で情報共有し、地域の繋がりを強くしていくことが必要です。

重点事業 1	地域の絆を深める
---------------	-----------------

地域での課題	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 行事等への参加者が固定している ▼ 世代間交流や後継者(活動の支え手)の育成が必要である ▼ 移動手段の確保が難しく1カ所に集まることが困難である
課題解決に向けての目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地区住協や地区住協活動を知ってもらい、参加してもらおうきっかけを作る ○ 隣近所での交流の場の充実や移動手段の検討を進める



取組項目	内容
広報活動の充実	地区住協連合会・各地区住協の活動を広報し、参加や協力が得やすい環境づくりを進める(広報紙配付等)。
世代間交流の推進	学校行事や夏祭り等、多世代が集まる機会へ積極的に参加し、世代間交流を図る。
集まる場の増加・拡充	小規模で集まる場を設置していく。
移動手段の検討	行事参加者に対する組織的な送迎方法や効率的なタクシー等の利用方法を検討する。

重点事業 2	援助が必要な人に支援を届ける
---------------	-----------------------

地域での課題	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 認知機能低下が疑われる独居の方が多くなっている ▼ 移動や買い物が困難な人がいる
課題解決に向けての目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報共有できる場を設け、要援助者を見落とさないようにする ○ 移動や買い物支援の方法を検討する



取組項目	内容
要援助者の情報共有	見守りマップの定期的な見直し・更新を行い、情報を共有する。
見守り・支援活動の充実化	集落支援員、民生委員、各種団体が情報共有できる場を設け、見守り・支援活動を行う。 訪問時に相手の話をよく聞き、理解することで、要援助者を見落とさないようにする。
移動手段・買い物支援の検討	ニーズを把握し、持続可能で多様な移動手段・買い物支援を検討する。

重点事業 3

安全で安心豊かなまちづくり

地域での課題

- ▼ 災害時の知識・備えが十分ではない
- ▼ 情報共有が十分でない

課題解決に向けての目標

- 防災訓練等を通じて、地域住民への啓発をする
- 各家庭・個人での災害時の備えを充実させる
- 防災・防犯・消費者生活ついでの情報発信をする



取組項目	内容
防災訓練・研修会等の開催	防災訓練等を通じ、住民への防災意識の向上を図る。
一時避難所・避難経路の確認	指定避難所までの距離がある世帯は、近くで安全な一時避難場所の確認と避難経路の確認をする。
各家庭への災害の備えの確認・情報提供・発信	非常持出袋や非常食の備蓄への啓発を図る。広報や研修会等で防災・防犯の情報提供を行う。
要援助者への不安解消	心配事がある際に誰に連絡するのかを事前に確認しておく。広報等で適切な情報発信をする。



西祖谷小中学校合同防災訓練

●人口データ（令和5年9月末現在）

区 分	人 数	区 分	世帯・割合
人 口	1029 人	世 帯 数	650 世帯
14歳以下	29 人	一人暮らしの高齢者世帯数	135 世帯
15～64歳	334 人	高齢者のみ世帯数	74 世帯
65歳以上	666 人	高 齢 化 率	64.7 %
(75歳以上)	(387 人)	後期高齢化率(75歳以上)	37.6 %

住民アンケート・座談会より

東祖谷は古くから平家の落人伝説が語られ、今なおその伝説を随所に見られることもでき、地域の伝統行事、文化伝習を大切にしている地域です。また近年では、にし阿波の傾斜地農耕システムとして国連食糧農業機関より「世界農業遺産」に認定された地域でもあります。

東祖谷地区では13地区住協が活動を展開しており、各地区それぞれ、地域の特色にあった活動に取り組んでいます。5年前から高齢化率は8%も上昇し、地域住民の6割以上は高齢者という現状です。住民アンケート、座談会からの意見でも、少子高齢化、過疎化、空き家問題、後継者不足と多数の問題が課題として出ており、その中でも自然災害などで緊急事態が起こった場合、半分以上の方が「避難できない」という声がありました。理由として「介助が必要だが、近くに家族や頼れる知人がいない」「避難所までが遠い」また「避難所までの道が土砂災害警戒区域で家の方が安全だ」と、自主防災に対する支援の優先順位が高い結果となりました。その他の意見も踏まえ、今後の取組み、また支援策も課題としてとらえなければならない現状となっています。

今後の方向性

東祖谷地区は 2040 年には高齢化率が75%まで増加すると見込まれ、住民による住民支援に限界が見え始めている状況となっています。これに対し、地域内に留まらず、他地域、関係団体、行政との連携を今まで以上に強化していくことが、必要不可欠である。地区の存続、既存活動を継続していくためにも、アウトリーチ、ニーズ調査を積極的に行い、サービス提供に努め、支援活動を広げていくことが重要であり、地域全体と社協が協働し、住民を支え合う地域福祉活動を推進していきます。

重点事業 1	地域の絆を深める
---------------	-----------------

地域での課題	▼ 少子高齢化、過疎化進行により、サロンや地域行事の参加者減少で世代交代が出来ない
課題解決に向けての目標	○ 地域行事、サロンの情報共有 ○ 参加率向上へ繋がる声かけ運動と周知の徹底



取組項目	内容
集まる場づくりの強化	サロンや地域行事に、誰でも参加しやすいように周知、声かけの強化。
他の地域や他団体との交流を増やす	各団体との情報共有を図り、次世代との繋がりある環境づくりの推進。

重点事業 2	援助が必要な人に支援を届ける
---------------	-----------------------

地域での課題	▼ 要支援者のみならず、支援者も高齢になってきている ▼ 遠慮から地域住民の困りごとが届きにくい
課題解決に向けての目標	○ 互いに無理のない役割分担を明確化し、常日頃のコミュニケーションを図る



取組項目	内容
声かけ、見守り活動の推進	迅速な対応が出来るよう、生活支援においてでも対象者、関係機関との連携の強化。
情報共有のネットワーク強化	地元地域において、実情にあった見守り、ネットワークの見直し強化。

重点事業 3

安全で安心豊かなまちづくり

地域での課題

- ▼ 緊急時の体制整備が十分でない
- ▼ 情報提供、共有方法が充実されていない

課題解決に向けての目標

- 関係機関と連携を図り、防災・防犯の啓発強化



取組項目	内容
防災訓練、防犯研修等の開催	いざとなった際に正しく行動等、対応できる様に学び、リーダー的な人材を養成(住民へのサポート含む)。
緊急時の支援体制の再構築	自主防災、集団避難時など、各行動におけるサポート支援体制の確立。



東祖谷福祉祭り

3 地域福祉活動計画－地区住協単位－(小圏域)

地区住民福祉協議会活動計画

【地区住協について】

住民参加による地域福祉活動を通じて、地域のふれあいを高めるとともに、住みやすい地域社会づくりを目指して住民がすすんで福祉活動へ参加できるよう結成された組織です。

また、住民一人ひとりの福祉課題を地域全体の課題としてとらえ、その解決に向けた取り組みを行うことにより、誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを目指しています。

三好市では、概ね小地域の生活圏域を範囲として、それぞれ地区住協が組織され、様々な地域福祉活動に取り組んでいます。

地区住協設置状況(令和6年3月現在)

地区	設置数	活動組織数
三野	9地区	9地区
井川	8地区	8地区
池田	22地区	22地区
山城	8地区	8地区
西祖谷	6地区	4地区
東祖谷	13地区	13地区
計	66地区	64地区

-説明-

- ※ 地区のデータは、令和5年9月末日集計し座談会で使用したものです。
一人暮らし高齢者世帯数、高齢者のみ世帯数は、ささえあいネットワーク会議等により整理した地域福祉台帳に登録している65歳以上の人数で、登録は任意です。

清水地区のまちづくりプラン

ふれあいと支え合う郷～清水～

清水地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	462人	世帯数	196世帯
14歳以下	25人	一人暮らしの高齢者世帯数	19世帯
15～64歳	254人	高齢者のみ世帯数	41世帯
65歳以上	183人	高齢化率(65歳以上)	39.6%
(75歳以上)	(96人)	後期高齢化率(75歳以上)	20.7%

地域の資源(特徴)

各種団体の組織が活発(地区住協、自主防災、自治会、婦人会、老人クラブ、ささえ隊等)、親切、人柄が良い、ふれあいがある、まとまり・つながり・近所づきあいが良い、神社、集会所、湧き水、田畑が多い、空気が良い、星がきれい、日当たりが良く住みやすい、風が通る、学校が近い、交通の便が良い、北庵の清掃、静か、農業が盛ん、リブドゥコーポレーション など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 世代間の繋がりが薄くなっている



課題解決に向けて

- 集まる場を作る
- 横の繋がりを強めていく

〈課題〉

- 踏み込んだ支援ができない



課題解決に向けて

- 見守りネットワークの体制整備並びに強化

〈課題〉

- 安心に繋がっていない



課題解決に向けて

- 地域の防災を考える会

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- いきいきサロン
- 100歳体操
- 学習支援活動

- 清水ささえ隊との連携
- ふれあい福祉訪問

- 防災研修会
- 防災マップ

加茂野宮地区のまちづくりプラン

助けあい、分かち合う心に地域の華ひらく～加茂野宮の絆～

加茂野宮地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	662人	世帯数	311世帯
14歳以下	65人	一人暮らしの高齢者世帯数	24世帯
15～64歳	388人	高齢者のみ世帯数	29世帯
65歳以上	209人	高齢化率(65歳以上)	31.5%
(75歳以上)	(105人)	後期高齢化率(75歳以上)	15.8%

地域の資源(特徴)

各種団体の組織が活発(地区住協・自主防災・自治会・婦人会・友愛クラブ等)、小学校、児童館、三好長慶五輪塔、重要文化財目引観音、滝寺、竜頭の滝、金剛の滝、紅葉温泉、活性化センター、集会所、老人福祉施設、NPO法人ふるさと力、工業団地、扇状地 など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 世代間交流



課題解決に向けて

- 若い世代向けの事業
- 運動会

〈課題〉

- 援助を届ける関係づくりができていない



課題解決に向けて

- 声かけ、見守り
- 繋がりを作る

〈課題〉

- 災害に対する意識知識が低い



課題解決に向けて

- 消防団との連携
- 防災・防犯活動

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

- パークゴルフ大会
- 年末餅つき

- 高齢者慰問活動
- ふれあい福祉訪問
- ささえあいネットワーク会議

- 防災研修会

勢力地区のまちづくりプラン

挨拶から始めよう絆づくり

勢力地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	425人	世帯数	180世帯
14歳以下	36人	一人暮らしの高齢者世帯数	24世帯
15～64歳	222人	高齢者のみ世帯数	19世帯
65歳以上	167人	高齢化率(65歳以上)	39.2%
(75歳以上)	(81人)	後期高齢化率(75歳以上)	19.0%

地域の資源(特徴)

各種団体の組織が活発(地区住協・自主防災・自治会・老人クラブ等)、年寄りがやさしい、まとまりが良い、ボランティア精神がある、人間性が良い、集会所、空気・自然、勢力米(おいしい)祭り事熱心(消防団中心) など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 世代間交流



課題解決に向けて

- 自治会ごとの集まり(ミニサロン)
- ふるさと祭り

〈課題〉

- 高齢者世帯が多い



課題解決に向けて

- 見守り活動
- 情報共有、交換

〈課題〉

- 防災意識が低い



課題解決に向けて

- 防災訓練等実施

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

- 100歳体操
- ふるさと祭り

- ふれあい福祉訪問
- ささえあいネットワーク会議

- 立哨活動
- 防災マップ

芝生地区のまちづくりプラン

笑顔で声かけ、明るい芝生

芝生地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	1,335 人	世帯数	625 世帯
14歳以下	130 人	一人暮らしの高齢者世帯数	51 世帯
15～64歳	673 人	高齢者のみ世帯数	34 世帯
65歳以上	532 人	高齢化率(65歳以上)	39.8 %
(75歳以上)	(287 人)	後期高齢化率(75歳以上)	21.5 %

地域の資源(特徴)

各種団体の組織が活発(地区住協・自主防災・自治会・婦人会・老人クラブ等)、親しみやすい、歴史的人物が出た町、温かい人が多い、元気な高齢者が多い、学校、公園、児童館、図書室、駐在所、銀行、病院、市営住宅、神社、支所、公民館、福祉センター、体育館、スーパー、お寺、郵便局、集会所、グラウンドゴルフ場、散歩コースが多い、吉野川、河内谷川がある、子ども食堂、桜・水がきれい など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 集まる機会がない



課題解決に向けて

- 集まる場を作る
- 集まる機会にイベントを実施
- 企画内容を考える

〈課題〉

- 要援護者との関わりが困難



課題解決に向けて

- 地域見守り隊の活用

〈課題〉

- 防災意識が低い



課題解決に向けて

- 避難イベントの実施
- 自主防災組織との連携
- 各種団体との連携

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 100歳体操
- 小規模サロン

- 地域見守り隊
- ふれあい福祉訪問
- ささえあいネットワーク会議

- 研修会

東川原地区のまちづくりプラン

皆でつくろう地域の輪

東川原地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	295 人	世帯数	147 世帯
14歳以下	17 人	一人暮らしの高齢者世帯数	23 世帯
15～64歳	139 人	高齢者のみ世帯数	15 世帯
65歳以上	139 人	高齢化率(65歳以上)	47.1 %
(75歳以上)	(71 人)	後期高齢化率(75歳以上)	24.7 %

地域の資源(特徴)

各種団体の組織が活発(地区住協・自主防災・自治会・婦人会・老人クラブ等)、静か、あいの郷、河内谷公園、安全、水が豊富、空気が良い、山菜が多い、病院が近い など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 顔合わす機会の減少



課題解決に向けて

- 100歳体操の実施
(通所型サービス B)
- 茶話会の実施

〈課題〉

- 顔合わす機会の減少



課題解決に向けて

- 見守り隊の実施

〈課題〉

- 顔合わす機会の減少



課題解決に向けて

- 防災訓練の実施
(消防団と連携して)

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

- 地域美化活動
- 100歳体操

- 福祉訪問
- ささえあいネットワーク会議

太刀野地区のまちづくりプラン

太刀野はひとつ、みんなで支えあおう

太刀野地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	304人	世帯数	140世帯
14歳以下	24人	一人暮らしの高齢者世帯数	22世帯
15～64歳	135人	高齢者のみ世帯数	24世帯
65歳以上	145人	高齢化率(65歳以上)	47.7%
(75歳以上)	(76人)	後期高齢化率(75歳以上)	25.0%

地域の資源(特徴)

各種団体の組織が活発(地区住協・自主防災・自治会・老人クラブ等)、道の駅三野、松尾神社、中央構造線露出地帯、自然豊か、高齢者が元気、分館活動が盛ん、空気が良い、景色も良い、日当たり良好で田畑では作物がよく育つ、日吉神社の祭り など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 地域の関係が薄れている



課題解決に向けて

- 各種団体との連携を図る
- 積極的な声かけ

- さくらまつり

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 声をあげにくい



課題解決に向けて

- 日常の見守り、声かけ
- 声をあげやすい雰囲気づくり
- 各種団体との連携

- ふれあい福祉訪問
- ささえあいネットワーク会議

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 防災に対する意識が低い



課題解決に向けて

- 防災訓練等の実施

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

花園地区のまちづくりプラン

笑顔と思いやりのあふれる郷

花園地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	360人	世帯数	156世帯
14歳以下	33人	一人暮らしの高齢者世帯数	7世帯
15～64歳	190人	高齢者のみ世帯数	10世帯
65歳以上	137人	高齢化率(65歳以上)	38.0%
(75歳以上)	(63人)	後期高齢化率(75歳以上)	17.5%

地域の資源(特徴)

各種団体の組織が活発(名会・地区住協・自主防災・自治会・婦人会・老人クラブ等)、仲良し、月1回サロン開催、平和な集落、元気な高齢者が多い、人付き合いが良い、秋祭りが続いている、集会所兼分団庫、ミカン畑が多い、自然が豊か、比較的災害に強い、花園と言う地名が良いお寺、自然が多く過ごしやすい、河内谷沿いの桜並木・紫陽花、百年続く名会組織 など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 参加者が固定化している



課題解決に向けて

- 広報並びに掲示板の作成
- 周知方法を密にする

〈課題〉

- ひとり暮らし高齢者の見守り



課題解決に向けて

- 平常時のきめ細かな見守りの実施
- 情報共有に努める

〈課題〉

- 地域の相互扶助が薄れている



課題解決に向けて

- 世代間交流の機会づくり

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

- 100歳体操
- お食事サロン

- ふれあい福祉訪問
- ささえあいネットワーク会議

- 防災学習会

太刀野山地区のまちづくりプラン

安全第一・助け合いの輪

太刀野山地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	163人	世帯数	103世帯
14歳以下	2人	一人暮らしの高齢者世帯数	30世帯
15～64歳	50人	高齢者のみ世帯数	19世帯
65歳以上	111人	高齢化率(65歳以上)	68.1%
(75歳以上)	(69人)	後期高齢化率(75歳以上)	42.3%

地域の資源(特徴)

各種団体の組織が活発(地区住協・自主防災・自治会・老人クラブ等)、人柄が良い、人の和、助けあい、親類が多い、馬頭観音、学校・分館、集会所、消防庫、神社・お宮、高山の鳥居、畑、大規模農道、水・空気、高山はんからの眺望、八枚なべら、大川山、大平の湧き水、古道がある、紅葉がすばらしい など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- ひとり暮らしが多くなった



課題解決に向けて

- 寄り合う場を増やす
(老人クラブ、さくらの里との連携)
- ふれあい運動会の開催
- いきいきサロンの開催

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 買い物難民が増加



課題解決に向けて

- 現状の把握
- 希望調査の実施
- 買物支援

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 避難が困難



課題解決に向けて

- 研修会や話し合いの機会を増やす
- 避難経路の確認

《 継続して取り組んでいく事業 》

- ふれあい福祉訪問
- ささえあいネットワーク会議

東谷地区のまちづくりプラン

支えあいで、安心の東谷福祉会

東谷地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	41人	世帯数	25世帯
14歳以下	0人	一人暮らしの高齢者世帯数(※)	9世帯
15～64歳	11人	高齢者のみ世帯数(※)	7世帯
65歳以上	30人	高齢化率(65歳以上)	73.1%
(75歳以上)	(19人)	後期高齢化率(75歳以上)	46.3%

地域の資源(特徴)

各種団体の組織が活発(地区住協・自主防災・自治会、老人クラブ等)、人柄が良い、人情が厚い、地区・人の和がある(付き合い)、分館、消防庫、ふれあい公園、出雲神社、野山が美しい、水が美味しい、真鈴峠がある、農地のほ場整備がされている、香川に近い、道路の便利が良い、農産物が豊富 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 地域の交流機会が少ない



課題解決に向けて

- 100歳体操の実施
- 各種団体の横の繋がりを強める

- いきいきサロン
- 100歳体操
- 清掃活動

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 支え手がない



課題解決に向けて

- 支え合い活動(互助の強化)

- ふれあい福祉訪問
- ささえあいネットワーク会議

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 避難が困難



課題解決に向けて

- 防災訓練の実施

- 防災マップ

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

辻地区のまちづくりプラン

「笑顔のきずな辻住協」

辻地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	485人	世帯数	237世帯
14歳以下	45人	一人暮らしの高齢者世帯数	29世帯
15～64歳	189人	高齢者のみ世帯数	26世帯
65歳以上	251人	高齢化率(65歳以上)	51.7%
(75歳以上)	(162人)	後期高齢化率(75歳以上)	33.4%

地域の資源(特徴)

辻幼稚園、辻小学校、市役所井川支所、社協井川支所、駐在所、辻郵便局、商店、水力発電所、ガソリンスタンド、デイサービス、福祉施設、歯科医院、造り酒屋、神社、公民館、商工会、穴薬師堂、石光山、辻の渡し跡、美濃田の淵、三好市文化財多目的施設「辻のいろり」、きざみタバコで栄えた町、登録有形文化財多数 など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 地域のコミュニケーション不足



課題解決に向けて

- 近隣同士で交流
- 参加の呼び掛けに努める
- 交流できる機会作り

- ふれあいサロン

〈課題〉

- 支援体制が出来ていない



課題解決に向けて

- 情報共有をする
- 相手に負担にならないように支援
- 近隣同士で声掛け

- ささえあいネットワーク会議

〈課題〉

- 互助力が弱い



課題解決に向けて

- 災害時共助ができる体制作り
- 防災訓練を実施
- 防犯研修会を実施

- 防災訓練
- 地区内清掃活動

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

のつご地区のまちづくりプラン

助けます。助けられます。のつごファミリー

のつご地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	281人	世帯数	142世帯
14歳以下	23人	一人暮らしの高齢者世帯数	20世帯
15～64歳	120人	高齢者のみ世帯数	31世帯
65歳以上	138人	高齢化率(65歳以上)	49.1%
(75歳以上)	(64人)	後期高齢化率(75歳以上)	22.7%

地域の資源(特徴)

辻駅、井川中学校、池田高等学校辻校、交流センター(図書館)、神社、消防団詰所、公民館、資源ゴミセンター、井川グラウンド、商店、製材所、吉野川、井内谷川、山・桜がきれい、協力的な地域性 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 参加意欲が薄れている



課題解決に向けて

- サロンの充実
- 100歳体操等事業へ参加の呼び掛け

- ふれあいサロン
- いきいき100歳体操
- ミニ運動会

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 要配慮者が増加



課題解決に向けて

- 通所型サービス B を実施
- 近隣同士での声掛け

- ささえあいネットワーク会議

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 要配慮者が増加



課題解決に向けて

- 防災訓練の充実
- 防災マップ更新

- 防災訓練
- 防災マップ更新

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

中村地区のまちづくりプラン

笑顔いっぱいみんなの中村

中村地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	418人	世帯数	185世帯
14歳以下	53人	一人暮らしの高齢者世帯数	17世帯
15～64歳	202人	高齢者のみ世帯数	29世帯
65歳以上	163人	高齢化率(65歳以上)	39.0%
(75歳以上)	(80人)	後期高齢化率(75歳以上)	19.1%

地域の資源(特徴)

井川中学校、西部診療所、桜ヶ丘公園、神社、寺、福祉施設、公民館分館、ゴルフ練習場、自動車整備工場、八幡神社の祭礼、介護タクシーなどしこ、緑が多く景色が良い、災害が少ない、穏やかな地域性、隣近所の良い関係が良い など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 参加者が固定化している



課題解決に向けて

- 若年層が参加できる事業を計画
- 全自治会協働で企画運営
- 世代間交流ができる事業を計画

- ふれあいサロン
- ミニ運動会
- 100歳体操

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 支援体制作りが不十分



課題解決に向けて

- 支援台帳又は支援マップ作成
- 隣近所とのコミュニケーションを図る

- ささえあいネットワーク会議

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 地域防災力・防犯力が弱い



課題解決に向けて

- 防災意識の高揚
- 防犯意識の高揚

- 防災訓練

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

なでしこ地区のまちづくりプラン

みんなが安心して暮らせる なでしこ地区

なでしこ地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	762人	世帯数	355世帯
14歳以下	75人	一人暮らしの高齢者世帯数	21世帯
15～64歳	428人	高齢者のみ世帯数	22世帯
65歳以上	259人	高齢化率(65歳以上)	33.9%
(75歳以上)	(126人)	後期高齢化率(75歳以上)	16.5%

地域の資源(特徴)

西井川小学校、佃駅、なでしこ館、寺、神社、歯科医院、製材所、宅急便、コンビニ、市営水道施設、炭焼き、木工の館、防災倉庫、緑がきれい、美しい自然、美しい水、野菜、米、内田弥八(有志)、災害が少ない、憩いの森、井川運動公園 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 参加者が固定化している



課題解決に向けて

- イベントの企画
- 参加しやすい環境作り
- 行事参加への呼び掛け

- ふれあいサロン
- いきいき100歳体操

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 支援方法が不十分



課題解決に向けて

- 要支援者の情報共有
- 支援の体制作り
- 高齢者宅へ訪問活動

- ささえあいネットワーク会議

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 危険個所の認識不足



課題解決に向けて

- 各自治会で危険個所確認
- 要支援者の避難支援体制を整備
- 防犯啓発活動

- 防災訓練
- 安全安心見守り活動

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

黎明地区のまちづくりプラン

こんにちは サポート黎明

黎明地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	453 人	世帯数	223 世帯
14歳以下	37 人	一人暮らしの高齢者世帯数	25 世帯
15～64歳	229 人	高齢者のみ世帯数	21 世帯
65歳以上	187 人	高齢化率(65歳以上)	41.2 %
(75歳以上)	(87 人)	後期高齢化率(75歳以上)	19.2 %

地域の資源(特徴)

西井川保育所、西井川農村公園、砂防工事事務所、高速道路交通整備隊、井川池田インターチェンジ、ガソリンスタンド、憩いの家、各自治会集会所、四国電力西井川寮、縫製工場、消防団詰所、GH ひばり、交通要衝の地、自然に恵まれ景色が良い、団結力がある など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 男性の参加が少ない



課題解決に向けて

- 参加しやすい方法を検討
- 自治会単位で行事を実施
- 多世代が参加したくなるイベント企画

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 近隣同士の関係の希薄化



課題解決に向けて

- 近隣同士で支援が求めやすい体制作り
- 子どもへの支援体制強化
- 支援グループ作り

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 防犯への意識が低い



課題解決に向けて

- 防犯講習会の開催
- 防犯パトロールを実施

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

- 通所型サービス B 「健康サロン」
- カラオケサロン
- いきいき100歳体操

- 西井川小学校 下校ボランティア
- フレイルチェック
- ささえあいネットワーク会議

- 防災訓練
- 防災計画更新

立石地区のまちづくりプラン

こえかけ合ってみんな仲良く

立石地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	215人	世帯数	117世帯
14歳以下	6人	一人暮らしの高齢者世帯数	10世帯
15～64歳	69人	高齢者のみ世帯数	6世帯
65歳以上	140人	高齢化率(65歳以上)	65.1%
(75歳以上)	(95人)	後期高齢化率(75歳以上)	44.1%

地域の資源(特徴)

立石大権現、JA 茶工場、公民館、消防団詰所、建設会社、神社、見晴らしが良い、野菜が豊富、地域の伝統を守っている、団結力がある など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 参加者が少なく地域活動ができない



課題解決に向けて

- ミニサロンの充実
- 参加支援
- イベント内容の検討

〈課題〉

- 高齢者が多い



課題解決に向けて

- 訪問活動実施
- 緊急時の対応周知
- 見守り方法の検討

〈課題〉

- 高齢者が多い



課題解決に向けて

- 防犯研修会実施
- 防災研修会実施

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

- ミニサロン
- いきいき100歳体操

- ささえあいネットワーク会議

- 防災訓練
- 子ども夜警

井内地区のまちづくりプラン

ふれあいと、人情豊かな井内住協

井内地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	375 人	世帯数	216 世帯
14歳以下	12 人	一人暮らしの高齢者世帯数	38 世帯
15～64歳	138 人	高齢者のみ世帯数	24 世帯
65歳以上	225 人	高齢化率(65歳以上)	60.0 %
(75歳以上)	(144 人)	後期高齢化率(75歳以上)	38.4 %

地域の資源(特徴)

井内郵便局、基幹集落センター、多目的交流施設、集会所、寺、神社、消防団詰所、公民館分館、ホテル、石堂の桜、多美大師、ハツ石城跡、ご来光の滝、多美農村公園、グラウンドゴルフ場、日本カモシカに出会える里、人情豊かな地域性 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 事業の減少



課題解決に向けて

- 自治会で事業を実施
- サロンの多様化
- サロンへ参加声掛け強化

- ふれあいサロン
- いきいき100歳体操

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 免許返納による移動困難者多数



課題解決に向けて

- 近隣で助け合い移動支援
- 移動販売の情報提供
- 各自治会で要支援者の情報収集

- 高齢者慰問活動
- ささえあいネットワーク会議

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 空き家・耕作放棄増加による詐欺被害が心配



課題解決に向けて

- 防犯研修会を実施
- 交通安全講習会を実施
- 危険箇所へ予防危惧設置を要望

- 防災訓練
- 子ども夜警

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

かいな地区のまちづくりプラン 仲良し かいなっ子

かいな地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	176人	世帯数	106世帯
14歳以下	4人	一人暮らしの高齢者世帯数	22世帯
15～64歳	53人	高齢者のみ世帯数	24世帯
65歳以上	119人	高齢化率(65歳以上)	67.6%
(75歳以上)	(77人)	後期高齢化率(75歳以上)	43.7%

地域の資源(特徴)

腕山スキー場、森林体験交流センター、神社、寺、ヘリポート、公民館、元野住小学校分校、フィンランドコテージ、棚田、ホテル、消防団詰所、山・谷・空気がきれい、盛んな世代間交流、仲が良い、のんびりしている など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 人の集まりが悪くなった



課題解決に向けて

- 声掛け方法検討
- サロンの充実
- 協力者発掘

- ふれあいサロン
- いきいき100歳体操

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 地域内の関係性が薄れてきている



課題解決に向けて

- 独居高齢者宅慰問活動
- 近隣同士で声掛け
- 自治会の集まり時に情報共有

- ささえあいネットワーク会議

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 災害への対応体制が出来ていない



課題解決に向けて

- 地区住協並びに自治会で防災訓練を実施
- 災害時の支援方法検討
- 防犯知識習得

- 防災訓練
- 子ども夜警

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

上野地区のまちづくりプラン

声かけて 今日も安心 上野の輪

上野地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	699人	世帯数	357世帯
14歳以下	68人	一人暮らしの高齢者世帯数	48世帯
15～64歳	343人	高齢者のみ世帯数	34世帯
65歳以上	288人	高齢化率(65歳以上)	41.2%
(75歳以上)	(158人)	後期高齢化率(75歳以上)	22.6%

地域の資源(特徴)

池田幼稚園、池田小学校、池田中学校、池田高校、川の駅、諏訪公園、諏訪神社、丸山公園、丸山神社、飲食店、三好警察署、消防署、池田ダム、公共施設、コンビニ、歯科クリニック、マナヅル文化ホール、秋祭り など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 交流の機会を増やす



課題解決に向けて

- 交流の場の設定
- 自治会同士の交流の場の設定

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 災害・緊急時における連携の必要性



課題解決に向けて

- 緊急時の連絡網や支援体制の整備
- 見守り活動の実施・推進

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 防災・防犯の意識を高める



課題解決に向けて

- 防災活動の推進
- 空き家問題の把握
- 安全な地域活動の推進

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

- ふれあい郵便(通年)
- 体育大会(10月)
- カラオケ大会
- 清掃美化活動(年2回)

- 消防教室(1月)
- 立哨当番(月2回)

- 交通安全教室(6月)
- 清掃美化活動(年2回)
- 立哨当番(月2回)

板野地区のまちづくりプラン

笑顔で声かけ ふれあうイタノ

板野地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	181人	世帯数	89世帯
14歳以下	10人	一人暮らしの高齢者世帯数	11世帯
15～64歳	85人	高齢者のみ世帯数	17世帯
65歳以上	86人	高齢化率(65歳以上)	47.5%
(75歳以上)	(49人)	後期高齢化率(75歳以上)	27.0%

地域の資源(特徴)

板野グラウンド、野球場、公園、プール、板野公民館、飲食店、商店、バス停(馬谷・板野)、バス会社、自動車屋、工務店、葬祭場、ツール・ド・にし阿波、Hessokko 水あそびパーク など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 若い人の参加率が少ない



課題解決に向けて

- 声かけだけでなく、回覧板をまわし出欠を取る
- 若い人向け(子どもを含む)の行事を考える
- 夏休み等の休みを利用し、参加率を上げる
- 子や孫を連れてきてもらう

〈課題〉

- 安否確認が十分できない



課題解決に向けて

- 地区住協・老人会・自治会が連携を取り、情報共有をしていく
- ネットワーク会議を充実させる

〈課題〉

- 防災意識が低い



課題解決に向けて

- 講師を呼んで、講習を開催する

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

- サロン(毎月1日)
- 地域美化活動(9月)
- ふれあい食事会(12月)
- 公民館の大掃除(12月)
- 体育大会(2月)
- 花見(3月)
- グランドゴルフ活動(ハそっこGGクラブ 通年)

- 療養者見舞い(11月)
- ふれあい食事会(11月)
- ささえあいネットワーク会議(3月)

池南・新山地区のまちづくりプラン

ふれあい・支え合い・深めよう絆

池南・新山地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	1,136 人	世帯数	539 世帯
14歳以下	158 人	一人暮らしの高齢者世帯数	53 世帯
15～64歳	603 人	高齢者のみ世帯数	42 世帯
65歳以上	375 人	高齢化率(65歳以上)	33.0 %
(75歳以上)	(196 人)	後期高齢化率(75歳以上)	17.3 %

地域の資源(特徴)

総合体育館、新山グラウンド、池南公民館、介護施設、社協、分庁舎、古池、新池、コインランドリー、神社(3カ所)、細野大師、ミニ八十八カ所、hesocamp、北向き地蔵 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 事業に対する若者参加率の低下



課題解決に向けて

- 年間スケジュールを固定する
- 参加しやすいようなPRの方法を考える
- 夏休み等を利用し、地域の子ども達が参加できるサロンを企画する

- ふれあいウォーク(5月)
- 体育大会(10月)
- ふれあい交流会(10月)

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 孤立している人を十分に把握できていない



課題解決に向けて

- 一人暮らしの高齢者だけではなく、見守りが必要な対象者の幅を見直す
- ふれあい訪問・サロンの呼び込みを強化する

- ささえあいネットワーク会議(3月)
- ふれあい訪問(年2回)
- ふれあい郵便(通年)

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 大きな災害から遠ざかっているため、防災意識が低くなっている



課題解決に向けて

- 自主防災の担当と連携をし、出前講座等の研修会を実施する

- ささえあいネットワーク会議(3月)
- 各種研修会等参加(随時)

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

池田1区～4区地区のまちづくりプラン

「声かけ見守り」 みんなで住みよいまちづくり

池田1区～4区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	2,023 人	世帯数	1,065 世帯
14歳以下	188 人	一人暮らしの高齢者世帯数	285 世帯
15～64歳	928 人	高齢者のみ世帯数	51 世帯
65歳以上	907 人	高齢化率(65歳以上)	44.8 %
(75歳以上)	(530 人)	後期高齢化率(75歳以上)	26.2 %

地域の資源(特徴)

銀行、郵便局、病院、歯医者、県民局、市役所、教育センター、消防署、税務課、保健所、池田駅、バスターミナル、たばこ資料館、ショッピングセンター、飲食店、銭湯、いこいの家、えびす神社、医家神社、杉尾神社、和霊神社、黒住神社、諏訪神社、諏訪公園、へそっこ公園、ふらっとスクエア、武家門、阿波踊り、酒まつり、えびす祭 など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 若い人の参加率が少ない



課題解決に向けて

- 回覧板をまわすだけでなく、家を訪ねて声かけをする
- ご近所同士の交流を深め、声をかけ合って行事に参加してもらえようとする
- 子ども達も参加できる行事等を考える
- 様々なイベントを開催し、自治会活動を知ってもらう

〈課題〉

- 自治会長・民生委員等支援を届ける側の協力的体制の強化



課題解決に向けて

- 分館だより等を活用する
- ささえあいネットワークの重要性を伝える

〈課題〉

- 防災意識の向上



課題解決に向けて

- 耐震等、地域の方が興味関心のある研修会を開催する
- ネットワーク会議の時に防災大会の内容や要望等を問いかけ、案を出してもらう

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 男の料理教室
- 分館だより発行(4月)
- 地域消防団との交流(6月)
- ふれあいサロン(7月)
- 運動会(10月)
- 各種研修会参加(随時)

- ささえあいネットワーク会議(3月)
- ふれあい郵便(通年)

- 地域消防団との交流(6月)
- 自主防災大会(9月)

シマ地区のまちづくりプラン

知ろう 話そう シマのみんな ～見つめ直そう地域の絆～

シマ地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	844 人	世帯数	405 世帯
14歳以下	105 人	一人暮らしの高齢者世帯数	20 世帯
15～64歳	460 人	高齢者のみ世帯数	16 世帯
65歳以上	279 人	高齢化率(65歳以上)	33.1 %
(75歳以上)	(140 人)	後期高齢化率(75歳以上)	16.6 %

地域の資源(特徴)

三好病院、田岡医院、薬局、コンビニ、保育所、介護施設、商店、スーパー、電機店、美容室、理容室、自動車屋、花屋、弁当屋、仕出しセンター、葬祭場、ガソリンスタンド、コインランドリー、四国電力、交番、整骨院、フィットネス など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 行事・サロンへの参加率を上げる



課題解決に向けて

- 参加が億劫になっている人に対するヒヤリングを実施する
- 参加者目線の希望を聞くことで、参加への意欲を高める
- 口コミで広げてもらうように周知する
- 回覧板でまわすチラシや文章を各家庭に配布する
- 回覧板だけではなく告知端末等も利用する。
- 地域の方の得意分野を生かしたサロンや行事を考案する

〈課題〉

- 支援を届ける側の人材不足



課題解決に向けて

- 支援者側の意見(悩み)を聞く
- 既存する団体やグループに協力をいただき、支援の中身の理解を深めてもらう
- 集まる場を利用してボランティアの活動内容を伝え、興味を持ってもらう
- 支援が必要な人への援助体制の強化をする

〈課題〉

- 防災意識を高める



課題解決に向けて

- 定期的な防災研修を開催し、自分たちの身を守るための意識づくりにつなげる
- 危険箇所や避難方法の確認を行う

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- もちつき大会
- 秋季大運動会
- 地区新年互助会

- 歳末たすけあい運動
- ふれあい郵便
- 市報の手渡し(安否確認)

- ふれあい郵便
- 市報の手渡し(安否確認)

供養地地区のまちづくりプラン

みんなで支えあう供養地

供養地地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	382人	世帯数	180世帯
14歳以下	47人	一人暮らしの高齢者世帯数	18世帯
15～64歳	179人	高齢者のみ世帯数	15世帯
65歳以上	156人	高齢化率(65歳以上)	40.8%
(75歳以上)	(67人)	後期高齢化率(75歳以上)	17.5%

地域の資源(特徴)

供養地児童遊園、皇子神社、供養地集会所、バス停(供養地・供養地西)、美容室、婦人会、ソフトボールクラブ、カラオケクラブ、地蔵盆踊り、タクシー会社 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 地域の人との集まり、とりわけ高齢者の集まる機会が少ない



課題解決に向けて

- 地蔵盆・地区運動会の通常開催(協賛)
- 新年互例会の開催
- 神社等の清掃美化活動(協賛)
- 子ども神輿・子ども相撲の開催
- 挨拶や声かけで近所付き合いを大切にする地域づくり

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 気軽に相談や声かけができる関係を作る



課題解決に向けて

- 見守り活動
- お結び弁当の拡大
- 市役所等、相談窓口への付き添い支援

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 高齢者等、災害弱者の非常時の対応



課題解決に向けて

- 防災散歩の実施
- 防災研修の実施
- 危険箇所の把握実検

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- ふれあい訪問(年5回)
- ささえあいネットワーク会議(3月)
- 環境美化活動(年3回)
- 地区運動会(10月)
- 各種研修会等参加(随時)
- 地蔵盆(8月)
- 秋祭り(10月)

- ささえあいネットワーク会議(3月)
- ふれあい訪問(年5回)
- 各種研修会等参加(随時)
- ふれあい郵便

- 各種研修会等参加(随時)
- 災害散歩(年3回)
- 防災教室(研修)

箸蔵地区のまちづくりプラン

豊かなまちづくりを目指してここは箸蔵福祉村

箸蔵地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	1,533 人	世帯数	837 世帯
14歳以下	147 人	一人暮らしの高齢者世帯数	66 世帯
15～64歳	756 人	高齢者のみ世帯数	28 世帯
65歳以上	630 人	高齢化率(65歳以上)	41.0 %
(75歳以上)	(332 人)	後期高齢化率(75歳以上)	21.6 %

地域の資源(特徴)

池田博愛会、池田支援学校、箸蔵福祉村、箸蔵小学校、箸蔵公民館、箸蔵寺、箸蔵駅、坪尻駅、四国中央橋、ロープウェイ、閑々子誕生地、一升水、箸蔵山遍路道、池田高校三好校、三好市人材循環促進住宅 など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 若い人の参加率低下と担い手不足



課題解決に向けて

- 組織作りと強化
- 既存事業の継続及び新しいイベント作り

〈課題〉

- 困っている人の把握ができていない



課題解決に向けて

- 認知症の方の家族から相談してもらえる体制をつくる

〈課題〉

- 空き家対策及び治安の維持



課題解決に向けて

- 自治会長等の協力を得て空き家対策
- コミュニケーションを大切にし町をキレイにする

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 博愛の里周辺こいのぼり取り付け(4月)
- とことんまつり(5月)
- 箸蔵小学校田植え(6月)
- 吉野川流域草刈り・ゴミ収集(7月)
- 福祉村GB大会(8月)
- 稲刈り脱穀(10月)
- 小学校もちつき大会(12月)
- 小学校卒業式記念品贈呈(3月)
- 白地公民館との交換学習会(2月)
- 青少年健全育成会研修会(2月)

- 敬老会(9月)
- 小学校もちつき大会(12月)
- 婦人会読み聞かせ(毎月1回)
- 婦人会とほのぼのケアフレンド箸蔵サロン活動(毎月2回)

- 防災フェスタ
- 自主防災合同避難訓練
- 老人会箸蔵駅清掃(9月)

西山地区のまちづくりプラン

たすけあい はげましあって 七曲八起き

西山地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	166人	世帯数	85世帯
14歳以下	15人	一人暮らしの高齢者世帯数	17世帯
15～64歳	66人	高齢者のみ世帯数	14世帯
65歳以上	85人	高齢化率(65歳以上)	51.2%
(75歳以上)	(52人)	後期高齢化率(75歳以上)	31.3%

地域の資源(特徴)

密厳寺(八角堂)、ユースホテル、ふれあい市場、川人家長屋門、只安自治会交流広場、只安集落農業倉庫、密厳寺火祭り、西山そらの学校、西山鎌神社、諏訪神社、薬師堂の日参りや花祭り、展望台4か所、小檜の大木 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 地域の集まりが少なく、世代間の交流がない



課題解決に向けて

- 子供達に既存のイベントへ参加してもらう

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 移動手段が少ない、相談が出来ていない
- 高齢者についての情報共有が不足している



課題解決に向けて

- 地域で送迎や買い物をお願いをして移動手段の少なさを補う
- 相談しやすい環境をつくる
- 見守り活動の強化

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 防災意識が低い



課題解決に向けて

- 毎年防災研修会を行い、防災意識を高める

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 各町内花見(4月)
- 町内清掃(6月)
- 鎌神社境内清掃(1、4、7、10月)
- 高齢者健康チェックと健康講座(7月)
- うどん、ソバ打ち料理教室(10月)

- ささえあいネットワーク会議(3月)
- 高齢者健康チェックと健康講座(7月)
- うどん、ソバ打ち料理教室(10月)
- 生活用品の配布(8月)

- ささえあいネットワーク会議(3月)

下野呂内地区のまちづくりプラン 人情と花の里

下野呂内地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	71人	世帯数	44世帯
14歳以下	2人	一人暮らしの高齢者世帯数	15世帯
15～64歳	23人	高齢者のみ世帯数	7世帯
65歳以上	46人	高齢化率(65歳以上)	64.7%
(75歳以上)	(34人)	後期高齢化率(75歳以上)	47.8%

地域の資源(特徴)

三好市公民館下野呂内分館(八達)、下野呂パーマネント、花咲み など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に
支援を届ける」

③「安全で安心豊かな
まちづくり」

〈課題〉

- 人の集まる場が少ない



課題解決に向けて

- 既存のイベントを復活させる又は新しいイベントをつくる

- ふれあい訪問 (5・9・2月)
- 地区清掃(6月・9月)
- 新米の配布(10月)
- 百手まつり(1月)
- 夏まつり(7月)
- 秋まつり(10月)
- 社日「地神さん」(3月・9月)

〈課題〉

- 困ったときにどこに連絡したらいいかわからない



課題解決に向けて

- 困りごとを相談する先が分かるようにする

- ふれあい訪問 (5・9・2月)

〈課題〉

- 災害への知識が乏しい
- 空き家や畑に動物が入っている



課題解決に向けて

- 災害について学べる会を開く
- ネットワーク強化と治安の維持

- 地区清掃(6・9月)

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

福祉みなわの会のまちづくりプラン

支え合い みんなではぐくむ 元気なまち

福祉みなわの会地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	1,187 人	世帯数	597 世帯
14歳以下	100 人	一人暮らしの高齢者世帯数	99 世帯
15～64歳	498 人	高齢者のみ世帯数	68 世帯
65歳以上	589 人	高齢化率(65歳以上)	49.6 %
(75歳以上)	(322 人)	後期高齢化率(75歳以上)	27.1 %

地域の資源(特徴)

池田第二保育所、三縄小学校、運動場、病院、三縄駅、郵便局、児童公園、老人福祉施設、店舗、製材所、木偶人形の館、永楽荘第一在宅介護支援センター、三縄公民館、三好橋、梅ノ谷集会所、天神社、岡の庵、観音堂、一宮神社秋祭り、懸石庵、稻荷神社、二宮神社、消防六分団詰所、クローバーの家 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 事業継続のための担い手の確保と参加者の支援方法



課題解決に向けて

- 小地域でのサロン実施
- 参加者の移動支援

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 見守り活動が不十分



課題解決に向けて

- ささえあいネットワークの充実
- 見守り訪問活動の継続実施(情報共有を図る)

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 防災意識の低下



課題解決に向けて

- 防災・防犯をテーマにした講習会の実施
- 防災福祉マップの更新を行う
- 情報提供(回覧板の利用や訪問時に啓発活動をあわせて行う)

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 男性料理教室(年1回)
- ふれあい餅つき(12月)
- 福祉講演会及びサロン(年2回)
- 三縄小学校・三縄地区合同町民運動会(10月)
- 三縄ふるさと行事(未定)

- ふれあい餅つき(12月)
- ささえあいネットワーク会議(2月)
- 一人住まい高齢者サロン(年2回)
- 福祉講演会及びサロン(年2回)
- 見守り訪問活動
- ふれあい郵便(通年)

- 福祉講演会及びサロン(年2回)

漆川地区のまちづくりプラン

支え合う心豊かな里山・漆川

漆川地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	84人	世帯数	54世帯
14歳以下	2人	一人暮らしの高齢者世帯数	14世帯
15～64歳	21人	高齢者のみ世帯数	12世帯
65歳以上	61人	高齢化率(65歳以上)	72.6%
(75歳以上)	(37人)	後期高齢化率(75歳以上)	44.0%

地域の資源(特徴)

漆川小学校・幼稚園跡地、漆川公民館、黒沢活性化センター、八幡神社、黒沢湿原、長福寺(黒沢湿原内)、中ノ院、太子堂まつり、サギソウ、トキソウ、松茸、田植え唄、光明真言奉唱供養碑(越替)、雲海、庄屋跡(南谷:大西家)、戦国時代の古戦場跡、茶畑、ソバ畑、古道 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 地域のつながりが薄い



課題解決に向けて

- 既存事業を継続・活用することにより、連携を図る
- 魅力的なイベントを企画・実施することにより、交流人口を増やす

- サギソウ植付け(6月)
- 敬老会(9月)
- 美化活動(6月・9月・11月)
- 八幡神社清掃(年4回)
- 活性化センターを利用した味噌・こんにゃく作り、餅つき(12月)

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 見守り活動が不十分



課題解決に向けて

- 自治会の会合やネットワーク会議などを活用し、情報共有を行う
- 市報や漆川通信配布、また友愛訪問等を活用し、見守り活動を行う

- 年末餅つき(12月)
- 消防団夜警パトロール(12月)
- ささえあいネットワーク会議(3月)
- 漆川通信配布(5月・8月・11月・2月)

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 防災・減災力の向上



課題解決に向けて

- 定期的に清掃活動を行うことにより、道路をきれいに保つ
- 防災・防犯をテーマとした研修会を実施する

- 美化活動(6月・9月・11月)
- 消防団夜警パトロール(12月)

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

出合地区のまちづくりプラン

みんなで守ろう 出合の和

出合地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	127人	世帯数	77世帯
14歳以下	2人	一人暮らしの高齢者世帯数	20世帯
15～64歳	33人	高齢者のみ世帯数	17世帯
65歳以上	92人	高齢化率(65歳以上)	72.4%
(75歳以上)	(60人)	後期高齢化率(75歳以上)	47.2%

地域の資源(特徴)

祖谷温泉、松尾川温泉、小便小僧、キャンプ村、竜ヶ岳、銘水(竜ヶ岳)、黒沢湿原、松尾川、松尾川のホテル、中津山、ハレとケ珈琲、サウナ、出合発電所、出合郵便局、草鞋の会、光明寺など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 地域コミュニティの維持



課題解決に向けて

- 各種団体と連携を図り、敬老会や体育大会、餅つきなど事業の継続実施に努める
- 既存の事業に合わせる形で新しいイベントを企画・実施する

- 花いっぱい運動
- 旧出合小学校周辺清掃
- 地区体育大会

〈課題〉

- 地域の高齢化により、見守り活動の強化が必要



課題解決に向けて

- 市報配布時の安否確認民生委員等と協力し、声かけや見守り活動を行う
- ネットワーク会議等での情報把握や共有

- 餅つき大会
- 独居高齢者友愛訪問
- 生きがい教室

〈課題〉

- 災害に対する備えや治安維持のための活動が必要



課題解決に向けて

- 様々な災害への対策を検討し、備えておく(災害発生時に取るべき行動についてまとめたチラシを作成・配布する)
- 声かけや安否確認、詐欺等の注意喚起を行う

- 自主防災会議
- ささえあいネットワーク会議

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

三縄中央地区のまちづくりプラン

声かけあい みんなで守ろう 大利川崎

三縄中央地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	345人	世帯数	200世帯
14歳以下	15人	一人暮らしの高齢者世帯数	61世帯
15～64歳	118人	高齢者のみ世帯数	41世帯
65歳以上	212人	高齢化率(65歳以上)	61.4%
(75歳以上)	(132人)	後期高齢化率(75歳以上)	38.3%

地域の資源(特徴)

川崎小学校、三所神社、百年蔵、安養寺、新三縄発電所、旧三縄発電所、川崎橋、正賢寺、川崎黒住教教会所、観音堂、薬師堂、打置地蔵尊、水辺の楽校、八幡神社、細野神社、リサイクルプラザ、大利込観音堂、祖谷口橋、病院、大利郵便局、川崎生活改善センター、納涼芸能祭など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 中心地でのサロン開催にあたり、移動手段や場所の確保が難しい



課題解決に向けて

- 小地域でのサロン実施
- 規模縮小や内容の見直しなど既存の事業を再開できるように工夫する

- 運動会(9月)
- 敬老会(9月)
- 長寿祈願祭(10月)
- 愛校作業(毎月)
- ふれあい郵便(通年)

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 見守り活動が不十分



課題解決に向けて

- 友愛訪問活動や食事サービス事業・ふれあい郵便事業を通して見守り活動を行う
- ネットワーク会議等での情報把握や共有

- 敬老会(9月)
- ささえあいネットワーク会議(3月)
- ふれあい郵便(通年)

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 災害に対する備え



課題解決に向けて

- 災害時には要援護者に電話1本かける
- 地震対策や備蓄品についてまとめたチラシを作成・配布する
- 災害避難カードを作成・配布する

- 交通安全運動(年3回)(キャンペーンは9月実施)
- 交通安全講習(10月)
- 美化運動、防災訓練(12月)
- 防災講習会

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

影野地区のまちづくりプラン

助け合い支え合いの影野

影野地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	23人	世帯数	14世帯
14歳以下	0人	一人暮らしの高齢者世帯数	2世帯
15～64歳	4人	高齢者のみ世帯数	5世帯
65歳以上	19人	高齢化率(65歳以上)	82.6%
(75歳以上)	(14人)	後期高齢化率(75歳以上)	60.9%

地域の資源(特徴)

影野公民館、水(湧き水)、ジビエ、黒沢湿原祭り、八坂神社、小森神社、古森神社、獺神社、お大師さん、旧影野小学校・三縄中学校分校 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 若い世代の人たちに参加してもらえない



課題解決に向けて

- サロン活動の継続
- 若い人との交流の場を設ける(奉仕作業に参加してもらうよう声掛けをし、そこで要望を聞く)

- ささえあいサロン(毎月)
- 講習会の実施(介護予防等)

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 家同士が離れており、見守りが大変



課題解決に向けて

- ご近所の見守り活動の継続
- 緊急連絡先を共有し、電話での安否確認を行う

- ささえあいネットワーク会議の実施(3月)

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 災害に対する備えが十分でない



課題解決に向けて

- 安否確認の仕組みの確認(要援護者世帯の把握と緊急連絡先の共有を行う)
- 防災・防犯をテーマにした研修会の開催

- ささえあいネットワーク会議の実施(3月)
- 危機管理・自主防災活動(防火用水の点検など)

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

白地地区のまちづくりプラン

元気にしよるで！ 声かけ合って 安否確認

白地地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	1,132人	世帯数	580世帯
14歳以下	85人	一人暮らしの高齢者世帯数	81世帯
15～64歳	493人	高齢者のみ世帯数	93世帯
65歳以上	554人	高齢化率(65歳以上)	48.9%
(75歳以上)	(298人)	後期高齢化率(75歳以上)	26.3%

地域の資源(特徴)

小学校、児童クラブ、郵便局、公民館、集会所、井ノ久保活性化センター、あわの抄、白地温泉(林芙美子ゆかりの地)、老人福祉施設(健祥会しののめ、ひかり)、池田大橋、三好橋、各種団体組織が活発(自主防災、婦人会、自治会、地安会、老人クラブ、福祉委員) など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 参加できない人が増えてきた



課題解決に向けて

- 既存事業の再開と継続
- 自分の健康管理を行う(健康寿命を延ばす)

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 困っている内容が分からない



課題解決に向けて

- 常日頃からの声かけと地域での見守り
- 行事参加時に情報交換を行う

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 世帯状況の把握



課題解決に向けて

- 自治会ごとの台帳管理(引継ぎの徹底)
- 地安会を中心とした地域での見守り

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- ふるさとまつり(8月)
- 運動会(10月)
- 福祉まつり(11月)
- 年末助け合い(12月)
- 高齢者会食会(2月)
- 100歳体操(月2回)
- ボッチャ(月1回)
- 手芸教室(1回)
- ふれあい郵便(通年)

- 敬老会(9月)
- 年末助け合い(12月)
- 高齢者会食会(2月)
- ふれあい郵便(通年)
- 高齢者支援活動(通年)

- 避難訓練(11月)
- 地安パトロール(通年)

佐野地区のまちづくりプラン

地域はひとつ

佐野地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	317人	世帯数	163世帯
14歳以下	17人	一人暮らしの高齢者世帯数	27世帯
15～64歳	123人	高齢者のみ世帯数	12世帯
65歳以上	177人	高齢化率(65歳以上)	55.8%
(75歳以上)	(112人)	後期高齢化率(75歳以上)	35.3%

地域の資源(特徴)

佐野公民館、佐野駅、佐野郵便局、企業、高速パーキング、ラーメン屋、三峯神社、佐野神社、民宿、青色寺、馬路川の螢、佐野城址、山の神様、沼谷の里公園、遍路道、グラウンドゴルフ場、牛頭天王、天理教、金光教、しいたけ、まんだの桜 など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 地域の交流が少なくなった



課題解決に向けて

- 既存事業を継続していく
- 地域の人に事業を知ってもらい参加者を増やす(各団体からの周知)

〈課題〉

- 地域の高齢化



課題解決に向けて

- 小地域での声掛け・見守り
- ネットワーク会議を充実させる

〈課題〉

- 地域防災への取り組み



課題解決に向けて

- 防災訓練・講習会の実施
- 防災マップの定期的な確認

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- グラウンドゴルフ大会
- 秋祭り(10月)
- 童謡を歌う会(月1回)
- カラオケ(月2回)
- グラウンドゴルフ(週2回)

- ふれあい郵便(通年)
- 食事サービス(通年)

- 青少年健全育成(通年)
- 交通安全指導(通年)
- 花の植え付け
- 防災研修(6月)
- 市道草刈り(7月)
- 河川一斉清掃(7月)

馬路地区のまちづくりプラン

みんなでキャッチ 地域のきずな

馬路地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	511人	世帯数	259世帯
14歳以下	30人	一人暮らしの高齢者世帯数	30世帯
15～64歳	224人	高齢者のみ世帯数	19世帯
65歳以上	257人	高齢化率(65歳以上)	50.3%
(75歳以上)	(142人)	後期高齢化率(75歳以上)	27.8%

地域の資源(特徴)

小学校、公民館、池田福助(株)、企業・工場、飲食店、ふれあい公園、一藤の巨木、馬路川の
 蛍、八朔念仏、秋祭り、馬路地域運動会、児童クラブ、境宮神社の大イチョウ など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に 支援を届ける」

③「安全で安心豊かな まちづくり」

〈課題〉

- みんなが集まれる機会が減った



課題解決に向けて

- コロナ前の事業を再開していく
- 分館を利用し集まれる場をつくる
- 組織間の連携

〈課題〉

- 見守りが必要な人の情報共有



課題解決に向けて

- ネットワーク会議の充実
- 自治会(5人組)を中心とした見守り活動

〈課題〉

- 若い人の参加が少ない



課題解決に向けて

- 防災訓練・研修の継続実施
- 若い人へ周知し関心を持ってもらう

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 親子福祉映画会(8月)
- 馬路マルシェ(11月)
- 子ども食堂
(毎月第2・第3土曜日)

- 敬老会(9月)
- 自治会(5人組)による見守り(通年)
- ふれあい郵便(年3回)

- 交通安全教室(5月)
- 馬路川清掃(7月)
- 防災訓練(11月)
- 学童安全パトロール(通年)

馬場地区のまちづくりプラン

協調と平和の里 馬場

馬場地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	146人	世帯数	77世帯
14歳以下	10人	一人暮らしの高齢者世帯数	13世帯
15～64歳	55人	高齢者のみ世帯数	23世帯
65歳以上	81人	高齢化率(65歳以上)	55.5%
(75歳以上)	(42人)	後期高齢化率(75歳以上)	28.8%

地域の資源(特徴)

公民館分館、四所神社の立木、手打ちそば、雲海、獅子舞保存会、ふる里祭り、地域応援隊、各種団体の活動が盛ん など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 人口の減少と高齢化



課題解決に向けて

- 100歳体操の継続
- 若手グループとの交流
(地域応援隊との連携)

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 見守りが必要な人が増えてきた



課題解決に向けて

- ネットワーク会議での情報交換
- 専門機関へつなぐ

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 災害への対応



課題解決に向けて

- 防災研修の充実
(メニューの見直し)
- 消防団との連携

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

- 道路奉仕作業(7月)
- ふる里祭り(8月)
- 神社奉仕作業(10月)
- 忘年会(12月)
- グラウンドゴルフ大会
(年5回)

- 友愛訪問活動(通年)
- 一人暮らし高齢者への贈り物(12月)

- 道路奉仕作業(7月)
- 友愛訪問活動(通年)
- 防災講習会(年2回)

野呂内地区のまちづくりプラン

豊かな 豊かな夢の里 野呂内

野呂内地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	72人	世帯数	35世帯
14歳以下	3人	一人暮らしの高齢者世帯数	6世帯
15～64歳	30人	高齢者のみ世帯数	3世帯
65歳以上	39人	高齢化率(65歳以上)	54.2%
(75歳以上)	(24人)	後期高齢化率(75歳以上)	33.3%

地域の資源(特徴)

野呂内構造改善センター、野呂内小学校跡(体育館・グラウンド)、百手、雲辺寺 など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に
支援を届ける」

③「安全で安心豊かな
まちづくり」

〈課題〉

- 地域の絆が薄れた



課題解決に向けて

- 事業を再開し、継続していく
- 既存事業を充実させる
(他事業と合わせて実施)

〈課題〉

- 高齢者に対する支援



課題解決に向けて

- 継続した声掛け・見守り
- 移動困難な人の支援

〈課題〉

- 地域防災への取り組み



課題解決に向けて

- 年1回の防災講習会の実施

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

- 奉仕作業:神社草取り
(6月・9月)
- 敬老会(10月)
- 秋祭り(10月)
- 百手(1月)
- ふれあい餅つき交流会
(2月)

- 敬老会(10月)
- ふれあい餅つき交流会
(2月)

- 奉仕作業:神社草取り
(6月・9月)

大和地区のまちづくりプラン

“やさしくつながる”大和まほろばの里

大和地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	91人	世帯数	54世帯
14歳以下	0人	一人暮らしの高齢者世帯数	6世帯
15～64歳	33人	高齢者のみ世帯数	1世帯
65歳以上	58人	高齢化率(65歳以上)	63.7%
(75歳以上)	(37人)	後期高齢化率(75歳以上)	40.7%

地域の資源(特徴)

旧大和小学校グラウンド・体育館、多目的集会所、公民館分館、消防団、七宮七堂、自治会数 3 など

(特徴:旧山城町・池田町に属する自治会で構成。日常生活圏域としては旧大和小学校区として活動実施。地域内の連携が強く、全域への情報共有・伝達がうまく行えている。)

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 地域内交流の場が減少



課題解決に向けて

- 地域内の交流の推進(事業の継続)
- 常会の継続
- サロンなど気軽に集まれる場づくり

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 日頃からのつながりの希薄化



課題解決に向けて

- 見守り声かけの充実
- 常会等での日頃からの安否確認
- 健康増進の機会

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 防災・防犯の備えができるよう意識を高める



課題解決に向けて

- 防災・防犯の備え
- 避難が必要となった際の備え
- 地域内での情報共有

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 研修会の開催
- グラウンドゴルフ大会
- 敬老会
- 運動会
- 健康体操
- 常会(自治会)

- ふれあい郵便
- 歳末訪問事業
- 健康体操
- 常会

- 防災・防犯研修会
- 避難所の設備表示
- 災害時状況把握
- 清掃活動(自治会)
- 常会

山城中央地区のまちづくりプラン

手をつなぎ笑顔で元気な山城中央

山城中央地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	965 人	世帯数	480 世帯
14歳以下	71 人	一人暮らしの高齢者世帯数	57 世帯
15～64歳	418 人	高齢者のみ世帯数	41 世帯
65歳以上	476 人	高齢化率(65歳以上)	49.3 %
(75歳以上)	(262 人)	後期高齢化率(75歳以上)	27.2 %

地域の資源(特徴)

狸まつり、消防団、老人クラブ、山城分館、幼稚園、山城小学校、山城中学校、市役所、消防署、駐在所、郵便局、金融機関、阿波川口駅、歯科医院、商店、自治会数 9 など

(特徴:山城町の中心地で人口も多く、公共機関などの社会資源も多い。狸まつり等の地域活性化イベントを住民主体で企画運営しており、実践力が強い。)

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 高齢化や交流の減少等によるつながりの希薄化



課題解決に向けて

- 地域全体の交流の機会を継続
- 小地域での交流の機会(サロン活動充実)
- 学校と地域との交流

- 運動会
- 小学校との交流活動
- サロン活動
- カラオケの集い
- グラウンドゴルフ大会
- ボッチャ大会

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 情報が届きにくい人への対応(困りごとの早期発見)



課題解決に向けて

- 集まりの場での見守り・声かけの継続
- 小地域の見守り・声かけの強化(顔見知りの関係)
- 地域ごとの情報発信の工夫

- 見守り活動
- 声かけ活動
- サロン活動
- ささえあいマップ

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 自分で考えて行動することが難しい



課題解決に向けて

- 防災訓練の継続
- 危険箇所の確認・点検
- 避難や状況確認方法の整備(ささえあいマップ活用)

- 防災訓練
- 講習会

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

政友地区のまちづくりプラン

思いやりボランティアの里政友

政友地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	327人	世帯数	178世帯
14歳以下	16人	一人暮らしの高齢者世帯数	29世帯
15～64歳	135人	高齢者のみ世帯数	17世帯
65歳以上	176人	高齢化率(65歳以上)	53.8%
(75歳以上)	(100人)	後期高齢化率(75歳以上)	30.5%

地域の資源(特徴)

老人クラブ、生活改善グループ、伊予川芋炊き会、ふるさと会、消防団、旧政友小学校、政友保育所、恵泉館、山城総合グラウンド、賢見神社、杖立神社、自治会数 6 など

(特徴:住民間の絆が強く、分館活動や生活改善グループ、伊予川芋炊き会などの活動も盛ん。)

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 参加者が限定し地域内の組織力低下



課題解決に向けて

- 地域活動の継続
- 自治会や組内でのつながりや声かけ
- 小地域での集まりの場づくりと連携(参加しやすい機会)

〈課題〉

- 平常時の繋がりから緊急時の支援体制づくり



課題解決に向けて

- サロン活動など小地域での見守り・声かけ・確認
- 時節に応じた研修会の開催
- 連絡網整備

〈課題〉

- 小地域での災害時の対応方法



課題解決に向けて

- 隣近所で動ける体制づくり(リーダー養成・訓練)
- 避難方法・避難場所の確認
- 地域の状況確認(マップづくり)

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- グラウンドゴルフ大会(年1回)・練習(週2回)
- 清掃活動(各自治会年2回・芋炊き会年2回・分館年1回・学校清掃10回)
- 世代間交流
- 懇親会・食事会(自治会常会・新年会・サロン・老人クラブ)

- 見守り・声かけ活動
- 豪雨等災害時の見守り訪問
- 常会(自治会)
- グラウンドゴルフ練習
- サロン(3カ所)
- 研修会
- 料理教室

- 防災・防犯講習会
- 見守り活動

大野地区のまちづくりプラン

みんな元気で楽しく地域づくり

大野地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	690人	世帯数	386世帯
14歳以下	31人	一人暮らしの高齢者世帯数	65世帯
15～64歳	261人	高齢者のみ世帯数	34世帯
65歳以上	398人	高齢化率(65歳以上)	57.7%
(75歳以上)	(215人)	後期高齢化率(75歳以上)	31.1%

地域の資源(特徴)

旧大野小学校グラウンド・体育館、旧大野中学校校舎・体育館、生活支援ハウス、デイサービス、公民館分館、消防団、老人クラブ、大野ふるさと祭り実行委員会、四所神社、和霊神社、長福寺、半田岩、塩塚高原、自治会数 12 など (特徴:学校の校舎などを地域で管理している。そこを拠点に、グラウンドゴルフやカラオケなど、住民が主体となって定期的な集まりが行われている。)

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 今後の活動体制や事業の継続



課題解決に向けて

- ふれあい交流活動の維持継続
- 情報発信のための「大野かわら版」の発行
- 地域内組織の協力体制(組織を通じ情報発信)

〈課題〉

- 組織連携による見守り体制づくり



課題解決に向けて

- 定期的に地域状況を確認(ネットワーク会議 年2回:夏・3月)
- サロン活動の充実(地域活動の活用と組織化・健康増進)
- 各種団体との連携

〈課題〉

- 小地域で災害時に対応できる体制づくり



課題解決に向けて

- 防災訓練の実施(自治会単位)
- 防災講座の継続・リーダー養成
- 防災拠点づくり(地域資源の活用)

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- しめ縄づくり
- 防災訓練・防災研修
- 桜まつり
- 大野ふるさと祭り
- 鐘踊り(信正)
- ハイキング
- 運動会
- 大野ゴルフ
- 大月秋まつり
- グラウンドゴルフ(月・木)
- カラオケ(第1土、第2・3金、第4木)

- ささえあいネットワーク会議(見守りマップ作成)
- 見守り活動(友愛訪問)
- サロン活動(大野・大月・平野・黒川)
- グラウンドゴルフ(月・木)
- カラオケ(第1土、第2・3金、第4木)
- 敬老会

- 防災研修会
- 防災訓練
- 住民と消防団の連携(災害時の支援体制・避難所準備)

河内地区のまちづくりプラン

「こたあ～ないかえ」声かけにぎわいのまちづくり河内

河内地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	217人	世帯数	136世帯
14歳以下	2人	一人暮らしの高齢者世帯数	40世帯
15～64歳	65人	高齢者のみ世帯数	23世帯
65歳以上	150人	高齢化率(65歳以上)	69.1%
(75歳以上)	(99人)	後期高齢化率(75歳以上)	45.6%

地域の資源(特徴)

消防団、河内分館、旧河内小学校、大西神社、大日靈神社、仏子谷水車 復元保存会、白川谷を守ろう会、自治会数 6 など

(特徴:平成 30 年 7 月豪雨災害により住民の流出がある。以前にも大規模災害を経験しており防災に対する意識が高い。地域内 4 地区でサロン活動を実施。)

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 高齢化で集まりが困難



課題解決に向けて

- 自治会単位での集まり
- 部落間の交流
- 地域課題の検討(交流の機会の継続と工夫)

〈課題〉

- 人口減少により支援体制がとりにくい



課題解決に向けて

- 地域ごとの交流の場づくり
- 見守り活動(ながら見守り)の意識を高める
- 日頃から相談し合える関係づくり

〈課題〉

- 高齢化による緊急時の対応力



課題解決に向けて

- 防災に関する研修や訓練の実施
- 危険箇所(地域内・家宅)や避難方法の確認
- ささえあいマップでの支援体制確認(要支援者など)

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- サロン活動(100歳体操)
- グラウンドゴルフ大会
- 自治会の集会など
- ウォーキング大会
- 環境美化活動

- 見守り活動(自治会単位で広報配布時)
- サロン活動(100歳体操)
- グラウンドゴルフ大会
- ささえあいマップ
- 料理教室

- 防災研修・訓練
- ささえあいマップ
- ウォーキング大会

西宇地区のまちづくりプラン

声かけよう広げよう西宇の輪

西宇地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	158人	世帯数	95世帯
14歳以下	4人	一人暮らしの高齢者世帯数	17世帯
15～64歳	63人	高齢者のみ世帯数	6世帯
65歳以上	91人	高齢化率(65歳以上)	57.6%
(75歳以上)	(59人)	後期高齢化率(75歳以上)	37.3%

地域の資源(特徴)

消防団、西宇分館、山城会(特別養護老人ホーム・ケアハウス・デイサービス・いきいきサロン)、森林組合、郵便局、小歩危駅、岩本神社、サンリバー大歩危、自治会数 4 など
 (特徴:福祉施設や森林組合、郵便局、ホテルなど地域の中心地に社会資源が多くある。自治会での連絡体制が整っており、状況確認がスムーズに行えている。)

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 地域内での交流の機会の維持



課題解決に向けて

- サロン活動の実施
- 清掃活動・敬老会・訪問活動等の継続
- 地域への情報発信方法

- サロン活動(100歳体操・峯サロン)
- 清掃活動(自治会単位)
- 高齢者宅訪問

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 1人暮らし増に対する相談体制



課題解決に向けて

- 見守り体制づくり(自治会単位)
- 集まりの場で相談しやすい機会づくり
- 1人暮らし世帯の情報発信・共有

- サロン活動
- 歳末助け合い事業
- 要支援者状況確認
- ささえあいマップ

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 緊急時の行動に対する不安



課題解決に向けて

- 防災訓練・研修会の実施
- 危険箇所・避難方法の確認
- 緊急時に備えての見守り体制

- 防災訓練
- 自治会班長制度による地域内の情報伝達・共有
- ささえあいマップ

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

上名地区のまちづくりプラン

敬愛の心でめんめに見守る上名

上名地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	175人	世帯数	102世帯
14歳以下	4人	一人暮らしの高齢者世帯数	21世帯
15～64歳	59人	高齢者のみ世帯数	10世帯
65歳以上	112人	高齢化率(65歳以上)	64%
(75歳以上)	(62人)	後期高齢化率(75歳以上)	35.4%

地域の資源(特徴)

消防団、藤川谷の会、上名分館、旧上名保育所、旧上名小学校、野鹿池祭り、妖怪まつり、妖怪街道、自治会数5など(特徴:藤川谷が国の登録記念物に指定。町内でも特に上名地区で多く伝承されている“妖怪”をテーマにイベントを開催。地区内の結束が強く、公民館分館活動を中心に各種団体が連携し、情報共有ができています。)

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 人口減少により地域内の活動の維持が困難



課題解決に向けて

- 行事の継続による交流の場づくり
- 自治会ごとの地域住民の状況確認
- 集まりの場に参加できない人への対応

〈課題〉

- 早期発見と対応のための情報共有



課題解決に向けて

- 日頃からの声かけ・見守り活動
- 自治会単位での見守り体制(自治会長・組長との連携)
- 民生委員等との連携

〈課題〉

- 防災・防犯活動に対する意識の向上



課題解決に向けて

- 防災・防犯の研修会実施
- 地域内への情報の発信・共有
- 緊急時の対応の検討

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

- 防災研修会
- 妖怪まつり
- 野鹿池祭り
- 清掃・環境美化活動
- 地域の神社のお祭り
- 自治会ごとの常会
- サロン活動

- 見守り活動
- ささえあいマップ
- サロン活動

- 防災研修会
- ささえあいマップ

下名地区のまちづくりプラン

皆で声かけ茶を飲み話そう歩危の里

下名地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	330人	世帯数	189世帯
14歳以下	11人	一人暮らしの高齢者世帯数	32世帯
15～64歳	135人	高齢者のみ世帯数	27世帯
65歳以上	184人	高齢化率(65歳以上)	55.8%
(75歳以上)	(100人)	後期高齢化率(75歳以上)	30.3%

地域の資源(特徴)

消防団、老人クラブ、下名分館、下名小学校、駐在所、熊野神社、両皇神社、百手保存会、百手まつり、診療所、自治会数 9 など

(特徴:高知県境に位置し、雨量による通行制限がある。小学校では生徒数減少により、地域と連携して活動を実施。地域内には各種団体組織が残っており、連携した事業実施が図れている。)

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 組織力低下による地域内での役割分担



課題解決に向けて

- 地域内の各種団体の連携
- 小地域での集まりの継続(自治会集会、グラウンドゴルフ練習など)
- 学校との交流

〈課題〉

- 高齢化による見守り体制の強化



課題解決に向けて

- 見守り活動(歳末活動、ひな祭り弁当、広報配布時の安否確認等)
- 健康増進事業の継続
- 小地域での集まりの場づくり

〈課題〉

- 緊急時の地域内での体制強化



課題解決に向けて

- 防災訓練や設備確認の実施
- 自治会を中心に避難体制の検討や情報発信
- ささえあいマップを活用し要支援者の把握

◀ 継続して取り組んでいく事業 ▶

- 運動会
- 小学校との交流活動
- ひな祭り弁当
- 自治会の集会など
- 敬老会

- ひな祭り弁当
- 見守り活動(友愛訪問、ウォーキング、広報各戸訪問配布)
- 一人暮らし高齢者訪問
- 介護予防教室
- サロン活動
- ささえあいマップ

- 防火水槽点検・消火器確認点検
- 放水練習
- ささえあいマップ

吾橋地区のまちづくりプラン

助け合い・愛と笑顔の校区民

吾橋地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	144人	世帯数	80世帯
14歳以下	4人	一人暮らしの高齢者世帯数	21世帯
15～64歳	61人	高齢者のみ世帯数	7世帯
65歳以上	79人	高齢化率(65歳以上)	54.8%
(75歳以上)	(41人)	後期高齢化率(75歳以上)	28.4%

地域の資源(特徴)

みんなが吾橋を愛している、郷愛会、活発な組織活動(地区住協・婦人会・老人クラブ)、お茶の先生、三味線の先生、吉野川、吾橋谷川、鶏足山、雲海、民謡、古宮神社(加羅宇多姫伝説)、榎鉾神社(銅鐸)、安楽寺、白山神社、五所神社大杉、丘の坊、八坂神社、榎お堂、集会所、鶏足山キャンプ場、吾橋小学校(休校)、お茶 吾橋展望台 民宿 など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 地域の交流を継続する



課題解決に向けて

- 100歳体操の継続
- サロン活動の継続
- 世代間交流を図る
- 地域行事での交流を図る

〈課題〉

- 要援助者に必要な支援が届くようにする



課題解決に向けて

- 見守りマップの更新と情報を共有する
- 見守り・訪問活動を行う団体等と連携を取り、見守り活動の効率化を図る

〈課題〉

- 災害時への備えを行い防災力の強化を図る



課題解決に向けて

- 防災研修会を開催する
- 地域への災害時備蓄を充実していく

《 継続して取り組んでいく事業 》

- 道づくり活動
- 環境美化活動
- 夏祭り開催
- 音頭踊り
- 加羅宇多姫
- 高齢者訪問事業(協力)
- ふれあいサロン
- 三世代交流

- ささえあいネットワーク会議
- ふれあいサロン
- 老人クラブ・吾橋しあわせサロン会等との連携
- あんしん手帳の確認
- 見守り活動・情報交換
- 安否確認(声かけ・訪問)

- 道づくり活動
- 防災研修・講習会
- 地域での非常食のローリングストック
- 見守りマップの見直し・更新

西岡地区のまちづくりプラン 「おるかえ！」声かけ運動

西岡地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	150人	世帯数	92世帯
14歳以下	3人	一人暮らしの高齢者世帯数	12世帯
15～64歳	60人	高齢者のみ世帯数	0世帯
65歳以上	87人	高齢化率(65歳以上)	58.0%
(75歳以上)	(48人)	後期高齢化率(75歳以上)	32.0%

地域の資源(特徴)

平家屋敷、徳善屋敷、JR 大歩危駅、西祖谷中学校(休校 R6～)、グループホーム(休止)、ゲートボール場、ふすま絵からくり(組立式)、神代踊り、国見山の風景、自然に湧き出る水、西岡大銀杏、後山峠(おうどう)、雲海、そば、スカイレース(年1回) など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 組織のメンバーが固定化している
- 人が減ってきて、行事ごと減ってきた



課題解決に向けて

- 各団体と連携して事業を行っていく
- 組織に新しい人に入ってもらう
- 広報活動を行う

- ふれあいサロン
- 見守り活動
- 声かけ運動
- 高齢者訪問事業(協力)
- ささえあいネットワーク会議
- 環境美化活動
- 広報活動

〈課題〉

- 車での移動ができない方がいる
- 見守り活動を継続していく



課題解決に向けて

- 行事参加の際に、移動助成を行う
- 情報共有を行い、見守り活動を継続していく

- あんしん手帳の確認
- 見守り活動
- 声掛け運動
- ささえあいネットワーク会議
- 見守りマップの更新
- 行事参加の移動助成

〈課題〉

- 災害時の安全な避難場所の確認ができていない
- 非常食の備蓄ができていない



課題解決に向けて

- 避難場所の情報を地域住民で共有しておく
- 非常食の備蓄を定期的に行っていく

- 防災訓練の実施
- 見守りマップの確認
- 非常食の備蓄
- 環境美化活動

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

櫛生地区のまちづくりプラン

呼びかけて 元気に応える 笑顔が見たい

櫛生地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	288人	世帯数	165世帯
14歳以下	15人	一人暮らしの高齢者世帯数	28世帯
15～64歳	114人	高齢者のみ世帯数	14世帯
65歳以上	159人	高齢化率(65歳以上)	55.2%
(75歳以上)	(83人)	後期高齢化率(75歳以上)	28.8%

地域の資源(特徴)

三好市西祖谷支所、養護老人ホーム、西祖谷診療所、駐在所、老人福祉センター、市社協西祖谷支所、郵便局、櫛生小学校、西祖谷認定こども園、道の駅、ふれあい公園、重末コミセン、八幡神社、平崎神社、若宮神社、將軍神社、八幡獅子太鼓、一字だんじり太鼓、温泉、祖谷源内の里、祖谷源内の里小屋掛け舞台、源内の里五右衛門風呂、古道、歴史的遺産、祖谷のかずら橋歌碑、仁井谷俊也顕彰碑、美しい四季、豊かな自然、名峰国見山、名峰中津山、ジビエ、おいしい空気、おいしい水、そば、こんにゃく など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 生活環境の整備と伝統文化継承活動の推進



課題解決に向けて

- 住民間の交流
- 地区住協からの情報発信と行事への参加呼びかけ
- 生活道やコミセン等での管理作業の実施(草刈り等)
- 伝統文化の掘り起こしと世代間交流・継承活動

〈課題〉

- 高齢者に対する支援のあり方を検討し充実させる



課題解決に向けて

- 見守りマップ情報の見直し
- 友愛訪問員や集落支援員との連携
- あいさつ・声かけの推進
- サロン活動の推進
- 買い物等の支援活動

〈課題〉

- 日常生活における防災意識の向上を図る



課題解決に向けて

- 防災研修・避難訓練
- あんしん手帳の見直し
- 地域安全点検の実施と活用
- 災害時の備蓄の呼びかけ

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 道づくり・環境美化活動
- 世代間交流
- 見守り活動
- ふるさとまつり
- ふれあいサロン(100歳体操)
- 夕涼み会
- 百手

- あんしん手帳の確認
- 道づくり・環境美化活動
- 見守り活動
- ささえあいネットワーク会議
- ふれあいサロン(100歳体操)

- あんしん手帳の確認
- 道づくり・環境美化活動
- 防災研修等
- 炊き出し訓練

善徳地区のまちづくりプラン

「どうぞえ～、機嫌ええかえ～」を合言葉に

地域の繋がりを広げよう

善徳地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	203人	世帯数	123世帯
14歳以下	11人	一人暮らしの高齢者世帯数	19世帯
15～64歳	74人	高齢者のみ世帯数	12世帯
65歳以上	118人	高齢化率(65歳以上)	58.1%
(75歳以上)	(64人)	後期高齢化率(75歳以上)	31.5%

地域の資源(特徴)

活発な組織活動(地区住協・婦人会・老人クラブ・消防団)、祖谷の粉ひき節、神代踊り、恵伊羅御子、紅葉、星空、琵琶の滝、祖谷川、かずら橋、天満宮、八坂神社、六社神社、温泉、宿泊施設、キャンプ場、ゲートボール場、お茶、そば、でこまわし、石豆腐、あめご、そば米雑炊、ふれあいサロン、古民家カフェ など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 若い世代との関わりが少ない
- 各団体の後継者がいない



課題解決に向けて

- 伝統文化などの活動を通じて若い世代との交流を行う
- 各団体の広報活動を行う

〈課題〉

- IP電話での見守り活動ができなくなる
- 要支援者自ら支援を頼みづらい



課題解決に向けて

- 見守りマップ更新の中で情報を共有する
- 訪問活動を通して、支援を届ける

〈課題〉

- 災害対応への知識が足りていない



課題解決に向けて

- 日頃から災害に対する備えをしておく
- 災害対応の知識を増やしていく

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- ふれあいサロン
- ささえあいネットワーク会議
- 各種研修会・講習会参加
- 見守り訪問活動
- 高齢者訪問事業(協力)
- 親睦研修旅行
- 環境美化活動

- ささえあいネットワーク会議
- 見守り訪問活動
- 若宮荘訪問
- 見守りマップ更新
- 高齢者訪問事業(協力)

- 防災研修会(火事・地震等)
- 非常食の備え
- 防災に対する周知

和田地区のまちづくりプラン

声かけて みんなで広げる 地域の和

地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	140人	世帯数	97世帯
14歳以下	2人	一人暮らしの高齢者世帯数	25世帯
15～64歳	47人	高齢者のみ世帯数	6世帯
65歳以上	91人	高齢化率(65歳以上)	65.0%
(75歳以上)	(42人)	後期高齢化率(75歳以上)	30.0%

地域の資源(特徴)

釣井、和田分館、小島地区老人憩の家、市営住宅、木村家、笹庵トラスト、竜宮崖公園、観光案内所、三社神社、五社神社、新田神社、若宮八幡神社、大日堂 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 集まる人の環境づくり



課題解決に向けて

- 地域行事、活動等への周知、呼びかけの推進
- 寄合、茶話会等での談話実施
- 各自治会長、地区住協役員、関係者との情報交換の推進

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 高齢者、独居世帯の見守りの強化



課題解決に向けて

- 見守り訪問、電話等による安否確認の継続
- 生活支援の継続(買物、雑用等のお世話)

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 災害、緊急時に関する支援



課題解決に向けて

- 避難場所の周知と誘導方法、事後の安否確認の周知徹底
- 緊急時の連絡体制の確認
- 不審者、不審車両の通報の周知

≪ 継続して取り組んでいく事

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催(小地域での実施含む)
- 道路愛護デー

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催(小地域での実施含む)

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催(小地域での実施含む)
- 道路愛護デー
- 各種研修会等参加

小谷グループ地区のまちづくりプラン

声かけて 心がかよう 小谷筋

小谷グループ地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	114人	世帯数	79世帯
14歳以下	5人	一人暮らしの高齢者世帯数	17世帯
15～64歳	36人	高齢者のみ世帯数	4世帯
65歳以上	73人	高齢化率(65歳以上)	64.0%
(75歳以上)	(50人)	後期高齢化率(75歳以上)	43.8%

地域の資源(特徴)

ヘリポート、集会所、老人憩の家、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、堀切大師、白山神社、白髪神社、三宝神社、桐部神社、ミニ八十八ヶ所、京柱峠、阿佐尻山、清流 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 活動の意識づけ及び定着化



課題解決に向けて

- 若者と高齢者、また他地域との交流会
- 食事会、遠足等の開催
- 小規模サロン活動(カラオケ、ボッチャ、学校等)
- 積極的な声かけ

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 顔を見ての直接的な支援の継続



課題解決に向けて

- 高齢者世帯、独居老人等への見守り訪問活動の推進
- 状況把握し関係機関への迅速な連携の強化
- 歳末助け合い支援

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 災害時の支援体制の継続



課題解決に向けて

- 小川ヘリポート防災拠点の環境整備
- 自主防災会や地元消防団との連携強化
- 地元老人福祉施設との防災連携支援
- 要援護者等の把握及び避難支援

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 小川白山、榎尾三宝神社清掃
- 八十八ヶ所祭協力
- 道路愛護デー
- ヘリポート周辺草刈り

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 小川白山、榎尾三宝神社清掃
- 八十八ヶ所祭協力
- 道路愛護デー
- ヘリポート周辺草刈り
- 各種研修会等参加

平家グループ地区のまちづくりプラン

朝・夕に 声かけ愛 たすけ愛

地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	43人	世帯数	24世帯
14歳以下	1人	一人暮らしの高齢者世帯数	5世帯
15～64歳	14人	高齢者のみ世帯数	5世帯
65歳以上	28人	高齢化率(65歳以上)	65.1%
(75歳以上)	(12人)	後期高齢化率(75歳以上)	27.9%

地域の資源(特徴)

平家屋敷、阿佐家の墓、観音堂の鯛口(有形文化財・工芸品)、秋葉神社、観光用トイレ、麦生土集会所 など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 住民の高齢化により集まる機会が減っている



課題解決に向けて

- ゴミ拾い、清掃活動等の実施
- あいさつ運動
- 手づくり料理の食事会の継続
- 地域の課題に対する勉強会

〈課題〉

- 支援する人と支援される人との、意思疎通ができていない



課題解決に向けて

- 役割分担の整理と周知
- 気軽に何でも言える関係づくり

〈課題〉

- 在宅生活する上での困りごとの把握



課題解決に向けて

- 声かけ訪問活動
- 関係団体等との連携

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 高齢者等手づくり餅 訪問配布
- ささえあいネットワーク 会議
- 食事会、サロン
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 道路愛護デー
- 草刈り
- 空き缶、ゴミ拾い

- 高齢者等手づくり餅 訪問配布
- ささえあいネットワーク 会議
- 食事会、サロン
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)

- 高齢者等手づくり餅 訪問配布
- ささえあいネットワーク 会議
- 食事会、サロン
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 道路愛護デー
- 草刈り
- 空き缶、ゴミ拾い
- 各種研修会等参加

新居屋地区のまちづくりプラン

声かけて 地域の絆 深めます

新居屋地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	40人	世帯数	26世帯
14歳以下	2人	一人暮らしの高齢者世帯数	7世帯
15～64歳	21人	高齢者のみ世帯数	2世帯
65歳以上	17人	高齢化率(65歳以上)	43.5%
(75歳以上)	(11人)	後期高齢化率(75歳以上)	27.5%

地域の資源(特徴)

旧栃之瀬小学校、旧栃之瀬保育所、新田神社と銀杏木、茶畑、ダム、山菜が豊富、憩いの場(谷商店跡) など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 顔を合わす機会づくりの継続



課題解決に向けて

- 地域行事、活動等の参加呼びかけ
- ご近所さん同士声かけ運動の推進

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 支援体制の継続



課題解決に向けて

- 見守り活動の継続実施と会長に安否確認の連絡(ご近所さん同士日頃の声かけと助け合い)

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 防災知識の向上



課題解決に向けて

- 近隣住民同士助け合っ
て避難誘導
- 緊急連絡網の充実
- 防災講習会の実施

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 食事会、お茶会の開催
- ミニサロンの開催
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 被災者支援
- 新田神社清掃、集会所掃除及び周辺草取り
- 道路愛護デー
- 100歳体操
- ボッチャ開催

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 食事会、お茶会の開催
- ミニサロンの開催
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 被災者支援

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 食事会、お茶会の開催
- ミニサロンの開催
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 被災者支援
- 新田神社清掃、集会所掃除及び周辺草取り
- 道路愛護デー
- 各種研修会等参加

若林地区のまちづくりプラン

声かけて 老いも 若きも 助け合い

若林地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	66人	世帯数	40世帯
14歳以下	5人	一人暮らしの高齢者世帯数	7世帯
15～64歳	28人	高齢者のみ世帯数	6世帯
65歳以上	33人	高齢化率(65歳以上)	50.0%
(75歳以上)	(16人)	後期高齢化率(75歳以上)	24.2%

地域の資源(特徴)

若林集会所、浦戸の橋、春祭り、四電発電所、電気店、製麺所(そば打ち体験)、建設業者生コン業者、不動明さんがおいで、美容室、民泊受入施設、自動車修理工 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 集まる人の環境づくりの継続



課題解決に向けて

- 行事等に不参加者の状況把握
- 食事会等の継続
- 100歳体操の継続
グランドゴルフ大会への参加及び練習

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 在宅生活での困りごと支援



課題解決に向けて

- 水元の確認、飲料水の確保の方法
- 買物援助
- 移動支援

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 防犯対策及び防災活動の再確認



課題解決に向けて

- 防災設備点検及び危険箇所の確認
- 自主防災組織及び関係機関との連携
- 情報交換及び住民へ周知
- 防災講習会の実施

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 100歳体操
- 食事会、サロンの開催
- 道路愛護デー

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 100歳体操
- 食事会、サロンの開催

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 100歳体操
- 食事会、サロンの開催
- 道路愛護デー
- 各種研修会等参加
- 危険箇所点検

京町地区のまちづくりプラン

いつまでも 笑顔で 集う 京町連！！

京町地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	147人	世帯数	85世帯
14歳以下	4人	一人暮らしの高齢者世帯数	19世帯
15～64歳	66人	高齢者のみ世帯数	11世帯
65歳以上	77人	高齢化率(65歳以上)	52.3%
(75歳以上)	(48人)	後期高齢化率(75歳以上)	32.6%

地域の資源(特徴)

市東祖谷支所、東祖谷診療所、東祖谷歯科診療所、社協東祖谷支所、デイサービス、東祖谷郵便局、京上商店街、宿泊施設、飲食店、ガソリンスタンド、民俗資料館、国盛杉武家屋敷、七人塚、あめご淵、次郎淵、太郎淵、天皇森、美しい河川、山菜 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 集まりやすいキッカケ作り



課題解決に向けて

- 普段からの付き合いを大事にする
- 顔を合わせ声を掛け合う
- メインを作り交流を図る
- 新しい参加者を募る

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 日常生活の安定



課題解決に向けて

- 隣、近所の声かけ強化
- 見守り活動の推進
- 在宅生活の状況把握

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 緊急時の対応



課題解決に向けて

- 隣、近所の連携を図る
- 防災訓練、研修会の実施
- 緊急連絡網、AED 設置場所の MAP 作り

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 道路愛護デー
- 花壇の手入れ

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 道路愛護デー
- 花壇の手入れ

ひだまり班地区のまちづくりプラン

やさしさと 笑顔でつながる ひだまり班

地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	64人	世帯数	38世帯
14歳以下	1人	一人暮らしの高齢者世帯数	4世帯
15～64歳	26人	高齢者のみ世帯数	7世帯
65歳以上	37人	高齢化率(65歳以上)	57.8%
(75歳以上)	(17人)	後期高齢化率(75歳以上)	26.6%

地域の資源(特徴)

東祖谷小中学校、認定こども園、中上集会所、下瀬集会所、祖谷八景山野草園、天理教祖谷文教、大野神社、八幡神社、中上展望所、理髪店、四国交通バス停(2ヶ所)、食物が豊富(そば・じゃがいも・さつまいも・コンニャク)、山の恵みが多く山菜が採れる、福寿草が多い など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 高齢化が進んでおり、参加する人が限られている



課題解決に向けて

- 地域事業の継続
- 声かけ訪問の実施
- 学校と連携し企画、運営

〈課題〉

- 日常生活全般の支援



課題解決に向けて

- 常日頃の声かけ、助け合い
- SOS 発信しやすい環境作り

〈課題〉

- 避難場所の環境整備



課題解決に向けて

- 避難所の設備内容の確認
- 各備品の点検及び防災訓練の推進

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 高齢者等への訪問支援
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り・敬老会)
- 食事会、サロンの開催(茶話会、レクリエーション)
- 自主防災組織協力
- 水源地の管理
- お宮、集会所清掃
- 花壇の手入れ
- 道路愛護デー

- 高齢者等への訪問支援
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り・敬老会)
- 食事会、サロンの開催(茶話会、レクリエーション)
- 自主防災組織協力
- 水源地の管理

- 高齢者等への訪問支援
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り・敬老会)
- 食事会、サロンの開催(茶話会、レクリエーション)
- 自主防災組織協力
- 水源地の管理
- お宮、集会所清掃
- 花壇の手入れ
- 道路愛護デー

三名ひだまり班地区のまちづくりプラン

手をつなぎ 笑顔を守る 三名ひだまり

三名ひだまり班地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	52人	世帯数	36世帯
14歳以下	1人	一人暮らしの高齢者世帯数	10世帯
15～64歳	20人	高齢者のみ世帯数	7世帯
65歳以上	31人	高齢化率(65歳以上)	59.6%
(75歳以上)	(17人)	後期高齢化率(75歳以上)	32.6%

地域の資源(特徴)

八幡神社、住吉神社、黒岡神社、神社に安徳帝が祭られている、寒峰(福寿草)、八幡神社祭り、東祖谷婦人活動推進施設 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 人口減少により地域の活動が困難になっている



課題解決に向けて

- サロン活動の継続
- 集まるキッカケ作り
- 地域行事の情報提供

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 地域住民の困り事の声が届きにくい



課題解決に向けて

- 携帯番号による連絡網の作成
- 1人暮らしの方への情報提供
- 緊急通報装置の推進
- 声かけ、見守り活動

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 防災全般に関する取り組みの継続



課題解決に向けて

- 危険箇所及び地域に関する情報の共有
- 災害時の地域住民の把握

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 道路愛護デー

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 道路愛護デー

落合アジサイクラブ地区のまちづくりプラン

優しさで 見守られてる 赤い旗

落合アジサイクラブ地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	122人	世帯数	70世帯
14歳以下	2人	一人暮らしの高齢者世帯数	10世帯
15～64歳	39人	高齢者のみ世帯数	3世帯
65歳以上	81人	高齢化率(65歳以上)	66.3%
(75歳以上)	(47人)	後期高齢化率(75歳以上)	38.5%

地域の資源(特徴)

落合重伝建、落合峠、長岡家、旧落合小学校、そば道場、郵便局、駐在所、商店、豆腐屋落合公民館(シャワー付き)、三所神社、簡易水道、桃源郷祖谷宿泊施設、無人販売所 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 他の地元団体との関り方



課題解決に向けて

- 若い人と顔を合わせ機会づくり(年1回のイベント開催等)
- 食事会等の継続
- 地域行事への参加呼びかけ

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 緊急時の連絡、支援体制の整備



課題解決に向けて

- 赤い旗の元気確認活動継続
- 困りごと等のちょこボラ支援(ちょっとしたボランティア活動の推進)
- 連絡網の作成、周知

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 避難場所の整備



課題解決に向けて

- 防災訓練、講習会の実施及び備蓄の整備
- 防災及び防犯等の情報を周知する
- 関係団体等との連携

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 安否確認訪問
- 手作りもの贈呈訪問
- 道路愛護デー
- 防災訓練
- 花苗付け、花植え、草取り
- 季節に応じたイベント活動

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 安否確認訪問
- 手作りもの贈呈訪問

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 安否確認訪問
- 手作りもの贈呈訪問
- 道路愛護デー
- 防災訓練
- 花苗付け、花植え、草取り
- 講習会の実施

笑久保会地区のまちづくりプラン

元気で語ろう 笑久保会

笑久保会地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	120人	世帯数	64世帯
14歳以下	6人	一人暮らしの高齢者世帯数	4世帯
15～64歳	57人	高齢者のみ世帯数	12世帯
65歳以上	57人	高齢化率(65歳以上)	47.5%
(75歳以上)	(33人)	後期高齢化率(75歳以上)	27.5%

地域の資源(特徴)

久保蔭十二所神社、ガソリンスタンド、久保五所神社、奉宮神社、毘沙門堂、虹の谷公園、ミヨウケンさん(目の神様)、太鼓田、天狗塚、奥轟の滝、大宮の淵、丸山壮付近の桜、大宮装束石、タクシー会社、そば畑、ヤツマタ、祖谷雑穀生産組合 など

①「地域の絆を深める」

〈課題〉

- 世代交代はできたが参加者が限られている



課題解決に向けて

- 食事会の実施
- 地域行事やボランティア活動への周知、参加促進(祭事や除草作業の清掃活動等)
- 地域外にいる元住民への参加呼びかけ

②「援助が必要な人に支援を届ける」

〈課題〉

- 援助者からのSOS発信をしやすい環境づくり



課題解決に向けて

- 常日頃のコミュニケーションと見守り活動
- 連絡のしやすい状況の周知
- 携帯用の連絡網の作成

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 地すべり地区のため、防災意識を高める



課題解決に向けて

- 地域住民への周知・呼びかけ
- 組織体制の強化
- 防災訓練の実施
- 防災意識の向上

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 毘沙門堂周辺清掃、側溝清掃(随時)
- 道路愛護デー
- 芋植え、収穫
- 雑穀栽培 ○ 散歩会
- 移住者との地域活性化交流会

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 毘沙門堂周辺清掃、側溝清掃(随時)
- 散歩会
- 道路愛護デー
- 各種研修会等参加
- 防災訓練、研修会の開催

菅生げんき会地区のまちづくりプラン

菅生 みんな 元気かい

菅生げんき会地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	97人	世帯数	63世帯
14歳以下	2人	一人暮らしの高齢者世帯数	15世帯
15～64歳	35人	高齢者のみ世帯数	4世帯
65歳以上	60人	高齢化率(65歳以上)	61.8%
(75歳以上)	(39人)	後期高齢化率(75歳以上)	40.2%

地域の資源(特徴)

旧菅生小学校、菅生公民館、円福寺、剣神社、尾山神社、新田神社、八幡神社、校区全体に団結力がある など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 次世代への継承



課題解決に向けて

- 地域活動継続(食事会、餅つき等)
- サロン活動の推進
- 声かけ推進
- 交流会の実施

〈課題〉

- 住民同士の見守り(継続)



課題解決に向けて

- 地域の声かけ活動
- 住民と協力団体との連携
- 買い物支援

〈課題〉

- 防災知識を高める



課題解決に向けて

- 防災講習会の実施
- 随時、連絡網の活用
- 自主的に早めの避難を心掛ける

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 新年互例会(サロン)
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 道路愛護デー
- 手づくり弁当配布
- 元気クラブ(カラオケ、卓球、昔乙女一座、グラウンドゴルフ)
- 旧菅生小学校グラウンド整備
- 草刈り

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 新年互例会(サロン)
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 手づくり弁当配布

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 新年互例会(サロン)
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 道路愛護デー
- 元気クラブ(カラオケ、卓球、昔乙女一座、グラウンドゴルフ)
- 旧菅生小学校グラウンド整備
- 草刈り

奥祖谷クラブ地区のまちづくりプラン

㊦かよく ㊧いっしょ ㊨ーカル 名頃

奥祖谷クラブ地区データ

令和5年9月末現在

地区の人口	28人	世帯数	17世帯
14歳以下	0人	一人暮らしの高齢者世帯数	5世帯
15～64歳	6人	高齢者のみ世帯数	7世帯
65歳以上	22人	高齢化率(65歳以上)	78.5%
(75歳以上)	(12人)	後期高齢化率(75歳以上)	42.8%

地域の資源(特徴)

旧名頃小学校、美豆山神社、二重かずら橋、三嶺登山口、剣山、三嶺、お宿(丸石パーク)、天空の村かかしの里、ミツマタ、食材が豊富であり美味(あめご、じゃがいも、作物栽培)、春の新緑、秋の紅葉、祖谷川清涼水 など

①「地域の絆を深める」

②「援助が必要な人に支援を届ける」

③「安全で安心豊かなまちづくり」

〈課題〉

- 地域の絆の共有



課題解決に向けて

- 地域行事の呼びかけ
- 行事終了後の食事会及びサロン活動
- 清掃活動の推進

〈課題〉

- 地域住民との交流



課題解決に向けて

- 地域での声かけ活動
- 地域のコミュニケーションの推進

〈課題〉

- 避難対策についての再確認



課題解決に向けて

- 災害時避難対策
- 避難時の連絡網の活用
- 避難マップの作成

≪ 継続して取り組んでいく事業 ≫

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 花見大会
- かかし祭り
- 旧名頃小学校グラウンド整備、草刈り
- 道路愛護デー
- 注連縄づくり
- 研修旅行
- 植樹活動

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 花見大会

- 高齢者等手づくり餅訪問配布
- ささえあいネットワーク会議
- 見守り活動
- 地区住協連合会イベント参加(福祉祭り、敬老会)
- 食事会、サロンの開催
- 花見大会
- かかし祭り
- 旧名頃小学校グラウンド整備、草刈り
- 道路愛護デー
- 注連縄づくり

第 4 章 計画の推進

1 計画の公表

地域福祉を推進するためには、計画が目指す地域福祉の方向性や各種の施策・取組みについて、市民や関係機関・団体、事業所、行政等、計画に関係するすべての人が共通の理解をもつことが重要です。このため、社会福祉協議会の広報紙やホームページ等を通じ、本活動計画を公表し、社会福祉協議会が目指す地域福祉について市民等に幅広く周知します。

2 計画推進にあたってのお願い

本計画は、社会福祉協議会だけで推進できるものではありません。

地域の皆さんをはじめとして、福祉関係者や機関、団体がそれぞれの立場でご協力いただき、三好市という地域の中でともに推進していくものです。

○地域の皆さんにお願いしたいこと

「福祉」を人ごととして捉えず自らに関わる身近なこととして捉えていただき、ご近所でお困りの方などがいらっしゃいましたら、話を聞いたり、声をかけたり、必要があれば、民生委員児童委員や市役所、社会福祉協議会などにご相談ください。また、普段から社会福祉協議会やその他団体、施設などが発信する情報、催しなどにも興味をもっていただき、普段の生活の中でできる範囲で地域福祉活動への支援・協力・参加をお願いします。

○民生委員児童委員、ボランティア・福祉団体、福祉施設などにお願いしたいこと

それぞれの立場で取り組んでおられることがらと、この計画の中で取り組む事項のなかで有効に結びつけることができるものについて、地域の皆さんや社会福祉協議会と協働して取り組んでいただくとともに、新たな取り組みについても、ご意見をいただき、ご協力をお願いします。

○行政機関にお願いしたいこと

市役所をはじめ、行政機関には、この計画が円滑に推進できるよう協力をいただき、計画推進のための様々な仕組みづくりに、積極的な参画、助言をお願いいたします。

○活動計画推進組織「地区住協」にお願いしたいこと

活動計画策定においては、社会福祉協議会とともにアンケート調査や座談会の実施、計画策定のメンバーとして、実際に取り組んでいただきました。このことは、今後活動計画を強力に推進するための礎になったと思います。引き続き、ご協力いただいた皆さんを中心に、これからの活動計画の推進にご尽力くださいますようお願いいたします。

○社会福祉協議会の役割

地域の皆さんとともに、計画推進、進行管理の中心的役割と、計画推進組織の事務局機能、そして行政と地域の住民、関係団体とのパイプ役を担います。

計画の実施項目については、社会福祉協議会の年度ごとの事業計画に反映させ、前述の計画推進組織による年度ごとの進捗状況の点検、評価を行います。それをもとに社会福祉協議会は当該年度計画の見直しや修正を行います。そして、これらの進捗状況や評価を、様々な媒体をとおして地域の皆さんにもお知らせしていきます、ご意見をいただくとともに、協力いただくきっかけとします。

資料編

- 1 三好市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱
- 2 三好市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿
- 3 三好市地域福祉活動計画策定関係会議開催状況
- 4 アンケート調査結果
- 5 地区別地区住民福祉協議会一覧

1 三好市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

三好市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 三好市地域福祉計画の策定を受け、三好市における地域福祉活動の指針となる地域福祉活動計画（以下「活動計画」という。）を策定するにあたり、社会福祉法人三好市社会福祉協議会（以下「本会」という。）の本所ならびに各支所に地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、活動計画の策定に関する次の事項について協議する。

- 2 委員会は、活動計画と三好市が策定する三好市地域福祉計画が一体的に実施できるよう協議する。
- 3 委員会は、毎会計年度において活動計画を評価し、必要に応じて見直しを行う。

(組織)

第3条 委員会の委員は次の各号に属する者で構成し、本会会長が委嘱する。

(本所委員会)

- (1) 本会社会福祉部会理事
- (2) 福祉事務所所長
- (3) 本会事務局長
- (4) その他本会会長が認めた者

(支所委員会)

- (1) 地区住民福祉協議会関係者
- (2) 三好市支所長
- (3) ボランティア団体
- (4) 社会福祉関係職員
- (5) その他本会会長が認めた者

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長1名及び副委員長1名置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故ある時は副委員長がその職務を代行する。

(委員会)

第5条 委員会は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 前項の規定にかかわらず、最初の委員会の会議は、本会会長が招集する。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

4 委員長は、必要に応じて委員会に委員会以外の者の出席を要請して意見を求めること、又は委員以外の者から資料の提出を求めることができる。

(任期)

第6条 委員の任期は第2条に規定する所掌事項を完了するまでとし、再任を妨げない。

2 欠員が生じた場合の補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(庶務)

第7条 本所委員会の庶務は、本会地域福祉課において処理し、支所委員会の庶務は、本会各支所において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、本会会長が別に定める。

附則

この要綱は、平成22年12月22日から施行する。

この要綱は、平成26年9月22日から施行する。

この要綱は、令和2年2月25日から施行する。

2 三好市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

三好市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

NO	役名	氏名	選出区分	備考
1	委員長	田村 公子	社協理事	
2	副委員長	田中 一幸	社協理事	
3	委員	大西 一雄	社協理事	
4	〃	高井 春夫	社協理事	
5	〃	前田 晴機	社協理事	三好市ボランティア連絡協議会長
6	〃	藤井 修身	社協理事	三好市身体障害者会長
7	〃	山下 利幸	社協理事	三好市老人クラブ連合会長
8	〃	藤原 英徳	福祉事務所長	
9	〃	高野 健一	社協事務局長	

三野地区地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

NO	役名	氏名	選出区分	備考
1	委員長	梶 英男	地区住協	三野地区住協連合会会長
2	副委員長	篠原 秋英	地区住協	〃 副会長
3	委員	岡本 好美	地区住協	
4	〃	山口 達郎	地区住協	
5	〃	中岡 和好	地区住協	
6	〃	川口 隆行	地区住協	
7	〃	中 耕司	地区住協	
8	〃	矢田 薫	地区住協	三野地区民児協会会長
9	〃	竹重 清美	地区住協	
10	〃	小笠原 一弘	行政	三好市三野支所長
11	〃	宮内 秀薫	社協	社協地域福祉課長

井川地区地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

NO	役名	氏名	選出区分	備考
1	委員長	近藤 吉正	地区住協	井川地区住協連合会長
2	副委員長	福田 功稔	地区住協	〃 副会長
3	委員	山下 茂	地区住協	
4	〃	大西 順一	地区住協	
5	〃	坂本 董忠	地区住協	
6	〃	山下 武久	地区住協	
7	〃	近藤 正美	地区住協	
8	〃	下川 一夫	地区住協	
9	〃	山田 直子	ボランティア	井川婦人会長
10	〃	梶芳 和栄	行政	三好市井川支所長
11	〃	宮内 秀薫	社協	社協地域福祉課長

池田地区地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

NO	役名	氏名	選出区分	備考
1	委員長	辻岡 菊雄	地区住協	
2	副委員長	真鍋 廣美	地区住協	池田地区住協連合会副会長
3	委員	上林 忠夫	地区住協	〃 副会長
4	〃	石川 奉正	地区住協	
5	〃	新居 一夫	地区住協	
6	〃	山下 昌稔	地区住協	池田地区住協連合会会長
7	〃	木下 敬二	地区住協	
8	〃	江川 和伸	地区住協	
9	〃	山田 悦久	地区住協	
10	〃	田中 佳年	地区住協	
11	〃	日浦 宏	地区住協	
12	〃	新居 敏彦	地区住協	
13	〃	竹垣 勝	地区住協	
14	〃	塩出 忠夫	地区住協	
15	〃	長内 和代	地区住協	

NO	役名	氏名	選出区分	備考
16	〃	山岡 英明	地区住協	
17	〃	岡田 俊郎	地区住協	
18	〃	藤本 光廣	地区住協	
19	〃	斎藤 守義	地区住協	
20	〃	中島 正昭	地区住協	
21	〃	宮崎 灘男	地区住協	
22	〃	柳倉 良廣	地区住協	
23	〃	細田 博樹	行政	三好市地域福祉課長
24	〃	宮内 秀薫	社協	社協地域福祉課長

山城地区地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

NO	役名	氏名	選出区分	備考
1	委員長	深田 晃司	地区住協	
2	副委員長	水原 祥作	地区住協	山城地区住協連合会会長
3	委員	柳内 守	地区住協	
4	〃	長岡 浩司	地区住協	
5	〃	菅井 弘昭	地区住協	山城地区民児協会会長
6	〃	瀬川 守	地区住協	山城地区住協連合会副会長
7	〃	乗常 忠行	地区住協	
8	〃	久保 明	地区住協	
9	〃	坪井 純子	ボランティア	山城やまびこ会、民生委員
10	〃	河野 公史	その他	山城町老人クラブ連合会長
11	〃	大畑 知	その他	山城中学校長
12	〃	藤本 怜史	社会福祉関係職員	山城会
13	〃	西 幸代	行政	三好市山城支所長
14	〃	宮内 秀薫	社協	社協地域福祉課長

西祖谷地区地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

NO	役名	氏名	選出区分	備考
1	委員長	大西 一雄	地区住協	地区住協連合会長
2	副委員長	山田 京子	ボランティア	前西祖谷山村連合婦人会長
3	委員	瀬戸タミ子	ボランティア	西祖谷山村連合婦人会長
4	〃	久保 秀子	地区住協	
5	〃	杉本 孝司	地区住協	
6	〃	谷口 友一	地区住協	
7	〃	赤松 恭一	その他	有瀬地区民生委員
8	〃	小井出和男	ボランティア	西祖谷消防団長
9	〃	高平 和代	ボランティア	
10	〃	平山 利雄	社会福祉関係職員	
11	〃	西 保幸	行政	三好市西祖谷支所長
12	〃	田中美代子	社協	社協在宅福祉課長

東祖谷地区地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

NO	役名	氏名	選出区分	備考
1	委員長	岸 光人	地区住協	東祖谷地区住協連合会長
2	副委員長	檜浦 知美	地区住協	〃 副会長
3	副委員長	谷口 晃	地区住協	〃 副会長
4	委員	井下 正	地区住協	
5	〃	菅生 隆久	地区住協	
6	〃	福島 守	地区住協	
7	〃	阿佐 章	地区住協	
8	〃	秋山 隆子	地区住協	
9	〃	谷 俊治	地区住協	
10	〃	中岡加代子	地区住協	
11	〃	杉平 美和	地区住協	
12	〃	森東恵美子	地区住協	
13	〃	小椋富士夫	地区住協	
14	〃	平尾 雅彦	行政	三好市東祖谷支所長
15	〃	宮内 秀薫	社協	社協地域福祉課長

3 三好市地域福祉活動計画策定関係会議開催状況

策定委員会一覧

年 月 日	会 議 名	内 容
令和5年 7月31日	第1回 三好市地域福祉活動計画策定委員会	・委員長及び副委員長の選任 ・第三次計画の進捗状況 ・第四次計画の策定について □アンケート調査報告 □策定スケジュール □策定の輪郭設定
令和6年 1月26日	池田地区地域福祉活動計画策定委員会	・第三次計画の評価について ・第四次計画の策定について
2月 5日	山城地区地域福祉活動計画策定委員会	・第三次計画の評価について ・第四次計画の策定について
2月15日	井川地区地域福祉活動計画策定委員会	・第三次計画の評価について ・第四次計画の策定について
2月22日	西祖谷地区地域福祉活動計画策定委員会	・第四次計画の策定について
2月22日	東祖谷地区地域福祉活動計画策定委員会	・第四次計画の策定について
3月 1日	三野地区地域福祉活動計画策定委員会	・第三次計画の評価について ・第四次計画の策定について
3月 4日	第2回 三好市地域福祉活動計画策定委員会	・第四次計画の策定について □地域座談会報告 □地区住協計画及び地区計画の報告 □市活動計画策定協議 ・今後のスケジュール

(その他)

- ・令和5年10月2日 地区住民福祉協議会リーダー研修会にて研修及び演習を実施
- ・令和6年3月18日 三好市社会福祉協議会理事会にて第四次計画策定内容報告

住民座談会開催一覧

◇ 三野地区

	地区住協名	第1回	参加人数	第2回	参加人数
1	清水地区住民福祉協議会	1月17日	10人	4月3日	21人
2	加茂野宮地区住民福祉協議会	1月26日	9人	4月30日	14人
3	勢力地区住民福祉協議会	1月22日	7人	3月8日	6人
4	芝生地区住民福祉協議会	12月8日	11人	3月15日	10人
5	東川原地区住民福祉協議会	12月8日	5人	4月22日	20人
6	太刀野地区住民福祉協議会	1月21日	6人	4月5日	8人
7	花園地区住民福祉協議会	1月29日	7人	3月23日	16人
8	太刀野山ふれあい推進会	1月31日	5人	4月15日	4人
9	東谷福祉会	12月21日	9人	2月21日	13人
合 計		9箇所	69人	9箇所	112人

◇ 井川地区

	地区住協名	第1回	参加人数	第2回	参加人数
1	辻地区住民福祉協議会	11月7日	8人	2月29日	9人
2	のつご地区住民福祉協議会	11月5日	7人	3月23日	12人
3	中村地区住民福祉協議会	10月25日	19人	2月19日	20人
4	なでしこ地区住民福祉協議会	11月6日	15人	2月14日	14人
5	黎明地区住民福祉協議会	11月21日	18人	2月16日	14人
6	立石地区住民福祉協議会	12月12日	8人	3月25日	10人
7	井内地区住民福祉協議会	11月14日	14人	3月6日	16人
8	かいな地区住民福祉協議会	11月25日	9人	3月3日	8人
合 計		8箇所	98人	8箇所	103人

◇ 池田地区

	地区住協名	第1回	参加人数	第2回	参加人数
1	上野地区住民福祉協議会	12月8日	12人	3月13日	9人
2	板野地区住民福祉協議会	12月11日	7人	3月11日	9人
3	池南・新山地区住民福祉協議会	11月29日	12人	3月5日	19人
4	池田第1区住民福祉協議会	12月18日	6人	3月18日	28人
5	池田第2区住民福祉協議会				
6	池田第3区住民福祉協議会				
7	池田第4区住民福祉協議会				
8	シマ地区住民福祉協議会	12月17日	19人	4月20日	20人
9	供養地地区住民福祉協議会	12月21日	6人	3月25日	10人
10	箒蔵地区住民福祉協議会	11月27日	23人	3月8日	11人
11	西山地区住民福祉協議会	12月3日	15人	3月17日	17人

	地区住協名	第1回	参加人数	第2回	参加人数
12	下野呂内地区住民福祉協議会	11月28日	13人	3月31日	14人
13	福祉みなわの会	11月8日	23人	2月25日	34人
14	漆川地区住民福祉協議会	3月16日	14人	—	—
15	出合地区住民福祉協議会	11月21日	8人	3月16日	8人
16	三縄中央地区住民福祉協議会	11月30日	18人	3月14日	17人
17	影野地区住民福祉協議会	12月3日	10人	3月10日	10人
18	白地福祉友の会	12月6日	18人	3月6日	18人
19	佐野地区住民福祉協議会	10月25日	12人	3月9日	11人
20	馬路地区住民福祉協議会	1月13日	17人	3月22日	5人
21	馬場地区住民福祉協議会	12月10日	11人	3月10日	13人
22	野呂内地区住民福祉協議会	11月10日	11人	2月18日	30人
合 計		19箇所	255人	18箇所	283人

◇ 山城地区

	地区住協名	第1回	参加人数	第2回	参加人数
1	大和地区住民福祉協議会	11月15日	22人	3月15日	22人
2	山城中央地区住民福祉協議会	11月21日	16人	3月13日	13人
3	政友地区住民福祉協議会	10月28日	17人	2月26日	14人
4	大野地区住民福祉協議会	11月28日	18人	3月22日	14人
5	河内地区住民福祉協議会	11月4日	16人	3月14日	14人
6	西宇地区住民福祉協議会	11月18日	17人	3月24日	14人
7	上名地区住民福祉協議会	12月13日	12人	3月12日	13人
8	下名地区住民福祉協議会	12月3日	12人	3月30日	8人
合 計		8箇所	130人	8箇所	112人

◇ 西祖谷地区

	地区住協名	第1回	参加人数	第2回	参加人数
1	吾橋地区住民福祉協議会	2月15日	8人	4月15日	9人
2	西岡地区住民福祉協議会	11月24日	8人	4月15日	6人
3	櫛生地区住民福祉協議会	2月5日	5人	3月28日	6人
4	善徳地区住民福祉協議会	11月22日	5人	4月16日	8人
合 計		4箇所	26人	4箇所	29人

◇ 東祖谷地区

	地区住協名	第1回	参加人数	第2回	参加人数
1	和田地区住民福祉協議会	11月26日	14人	4月10日	4人
2	小谷グループ	12月1日	8人	4月7日	13人
3	平家グループ	12月21日	3人	4月23日	5人
4	新居屋地区住民福祉協議会	12月8日	6人	3月29日	5人

	地区住協名	第1回	参加人数	第2回	参加人数
5	若林地区住民福祉協議会	12月12日	10人	4月9日	7人
6	京町地区住民福祉協議会	12月3日	22人	3月26日	4人
7	ひだまり班	11月19日	7人	4月11日	3人
8	三名ひだまり班	11月26日	10人	3月19日	3人
9	落合アジサイクラブ	12月8日	7人	4月26日	9人
10	西山紅葉クラブ	—	—	—	—
11	笑久保会	11月22日	7人	4月17日	8人
12	菅生げんき会	11月7日	7人	3月6日	3人
13	奥祖谷クラブ	12月3日	20人	3月11日	3人
	合 計	12箇所	121人	12箇所	67人

□住民座談会 第1回 合計60箇所開催 参加者合計699人
第2回 合計59箇所開催 参加者合計706人

4 アンケート調査結果

アンケート調査結果

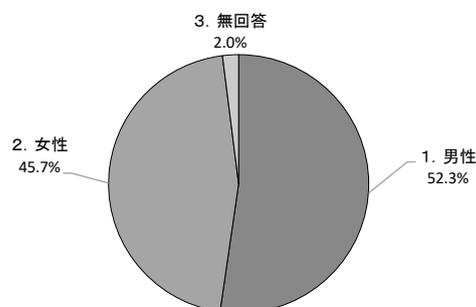
三好市

配布数	回収数	回収率
1,100	1,006	91.5%

【問 1】 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

全体 n= 1,006

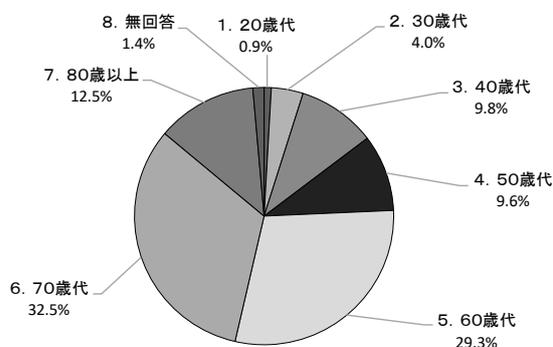
	%	回答数
1. 男性	52.3%	526
2. 女性	45.7%	460
3. 無回答	2.0%	20



【問 2】 あなたの年齢をお答え下さい。(1つに○)

全体 n= 1,006

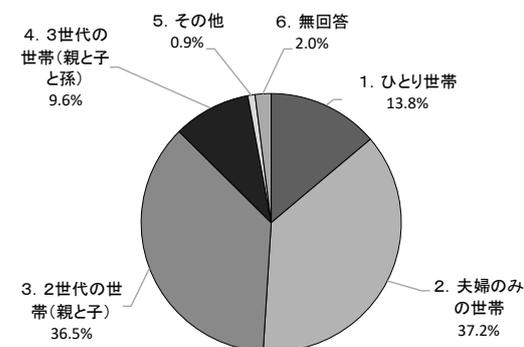
	%	回答数
1. 20歳代	0.9%	9
2. 30歳代	4.0%	40
3. 40歳代	9.8%	98
4. 50歳代	9.6%	97
5. 60歳代	29.3%	295
6. 70歳代	32.5%	327
7. 80歳以上	12.5%	126
8. 無回答	1.4%	14



【問 3】 あなたの世帯の構成をお答えください。(1つに○)

全体 n= 1,006

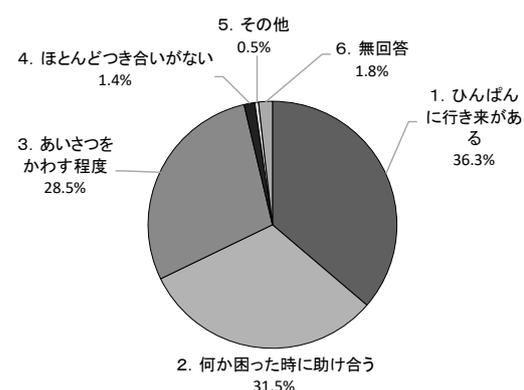
	%	回答数
1. ひとり世帯	13.8%	139
2. 夫婦のみの世帯	37.2%	374
3. 2世代の世帯(親と子)	36.5%	367
4. 3世代の世帯(親と子と孫)	9.6%	97
5. その他	0.9%	9
6. 無回答	2.0%	20



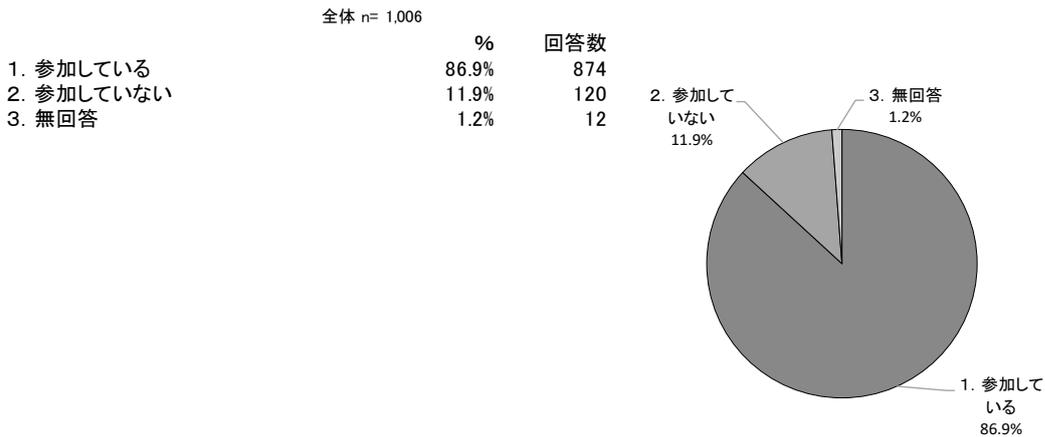
【問 4】 あなたは、ご近所の方とどのようなつきあいをしていますか。(もっとも近いもの1つに○)

全体 n= 1,006

	%	回答数
1. ひんぱんに行き来がある	36.3%	365
2. 何か困った時に助け合う	31.5%	317
3. あいさつをかわす程度	28.5%	287
4. ほとんどつき合いがない	1.4%	14
5. その他	0.5%	5
6. 無回答	1.8%	18



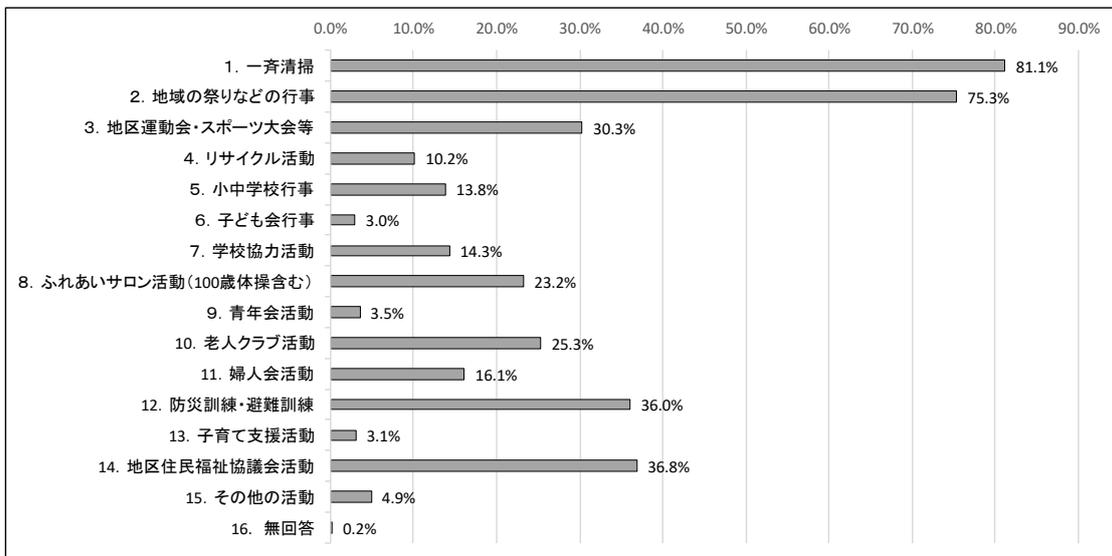
【問 5】 あなたは地域活動に参加していますか。(もっとも近いもの1つに○)



【問 6】-① あなたが参加している地域活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

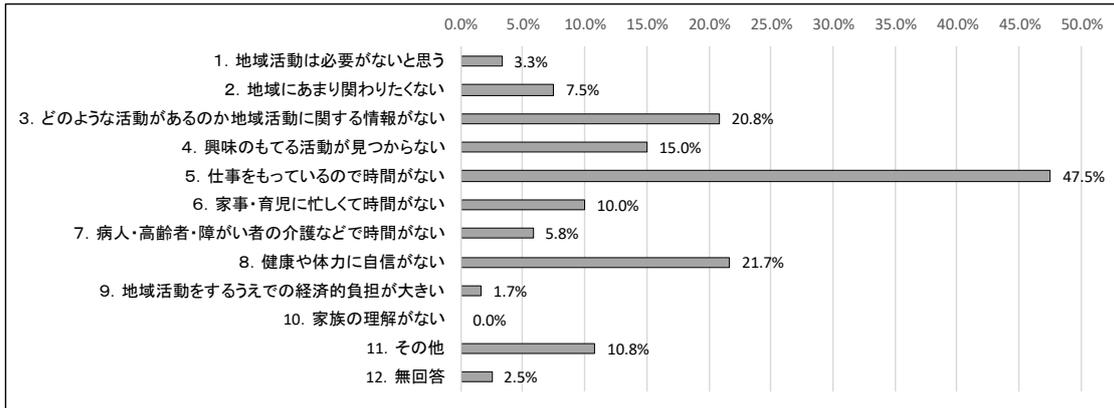
n= 874

	%	回答数
1. 一斉清掃	81.1%	709
2. 地域の祭りなどの行事	75.3%	658
3. 地区運動会・スポーツ大会等	30.3%	265
4. リサイクル活動	10.2%	89
5. 小中学校行事	13.8%	121
6. 子ども会行事	3.0%	26
7. 学校協力活動	14.3%	125
8. ふれあいサロン活動(100歳体操含む)	23.2%	203
9. 青年会活動	3.5%	31
10. 老人クラブ活動	25.3%	221
11. 婦人会活動	16.1%	141
12. 防災訓練・避難訓練	36.0%	315
13. 子育て支援活動	3.1%	27
14. 地区住民福祉協議会活動	36.8%	322
15. その他の活動	4.9%	43
16. 無回答	0.2%	2



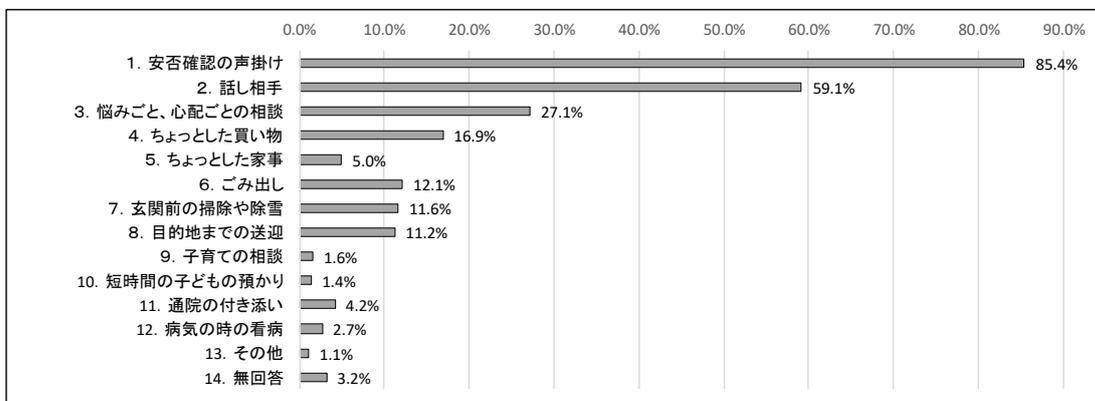
【問6-②】 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

	%	回答数	n= 120
1. 地域活動は必要がないと思う	3.3%	4	
2. 地域にあまり関わりたくない	7.5%	9	
3. どのような活動があるのか地域活動に関する情報がない	20.8%	25	
4. 興味をもてる活動が見つからない	15.0%	18	
5. 仕事をもっているので時間がない	47.5%	57	
6. 家事・育児に忙しくて時間がない	10.0%	12	
7. 病人・高齢者・障がい者の介護などで時間がない	5.8%	7	
8. 健康や体力に自信がない	21.7%	26	
9. 地域活動をするうえでの経済的負担が大きい	1.7%	2	
10. 家族の理解がない	0.0%	0	
11. その他	10.8%	13	
12. 無回答	2.5%	3	



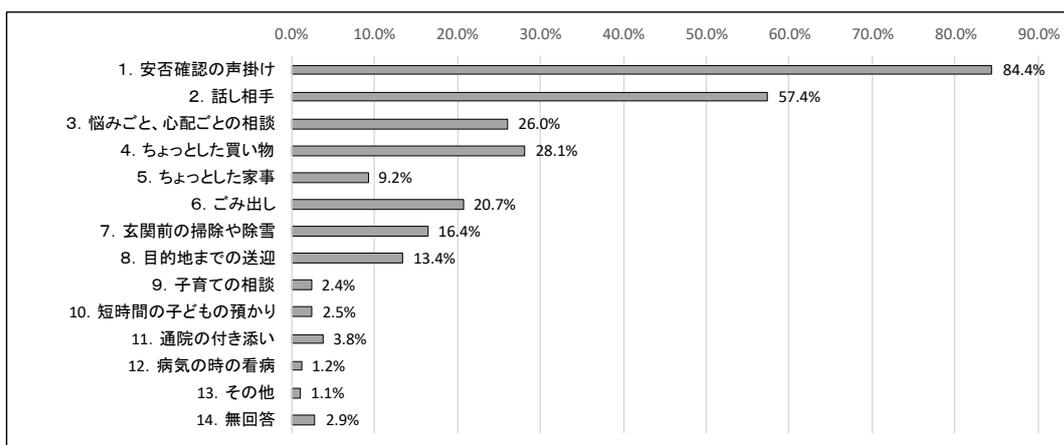
【問7】 あなたの住む地域内で、隣近所の人による助け合い・支え合い活動として必要だと思うことは何ですか。(3つまで○)

	全体 n= 1,006	%	回答数
1. 安否確認の声掛け		85.4%	859
2. 話し相手		59.1%	595
3. 悩みごと、心配ごとの相談		27.1%	273
4. ちょっとした買い物		16.9%	170
5. ちょっとした家事		5.0%	50
6. ごみ出し		12.1%	122
7. 玄関前の掃除や除雪		11.6%	117
8. 目的地までの送迎		11.2%	113
9. 子育ての相談		1.6%	16
10. 短時間の子どもの預かり		1.4%	14
11. 通院の付き添い		4.2%	42
12. 病気の時の看病		2.7%	27
13. その他		1.1%	11
14. 無回答		3.2%	32



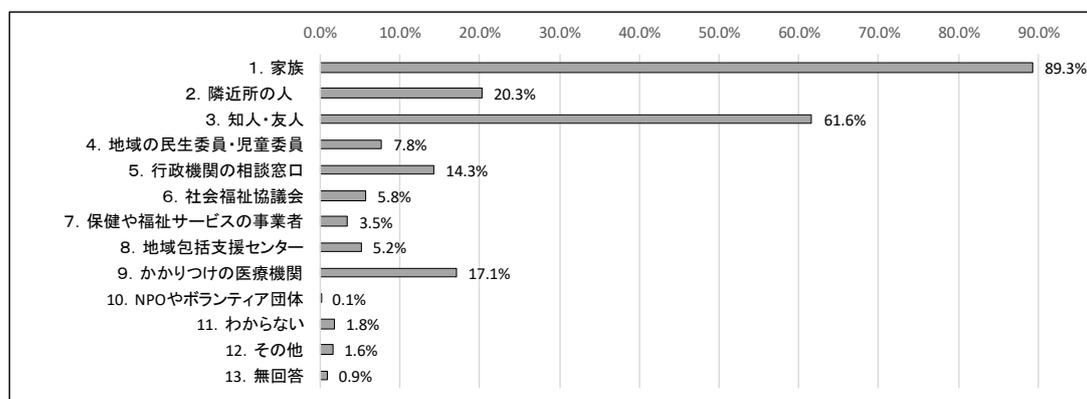
【問8】 隣近所で困っている世帯があった場合、あなたができると思うことは何ですか。(3つまで○)

	全体 n= 1,006	%	回答数
1. 安否確認の声掛け		84.4%	849
2. 話し相手		57.4%	577
3. 悩みごと、心配ごとの相談		26.0%	262
4. ちょっとした買い物		28.1%	283
5. ちょっとした家事		9.2%	93
6. ごみ出し		20.7%	208
7. 玄関前の掃除や除雪		16.4%	165
8. 目的地までの送迎		13.4%	135
9. 子育ての相談		2.4%	24
10. 短時間の子どもの預かり		2.5%	25
11. 通院の付き添い		3.8%	38
12. 病気の時の看病		1.2%	12
13. その他		1.1%	11
14. 無回答		2.9%	29



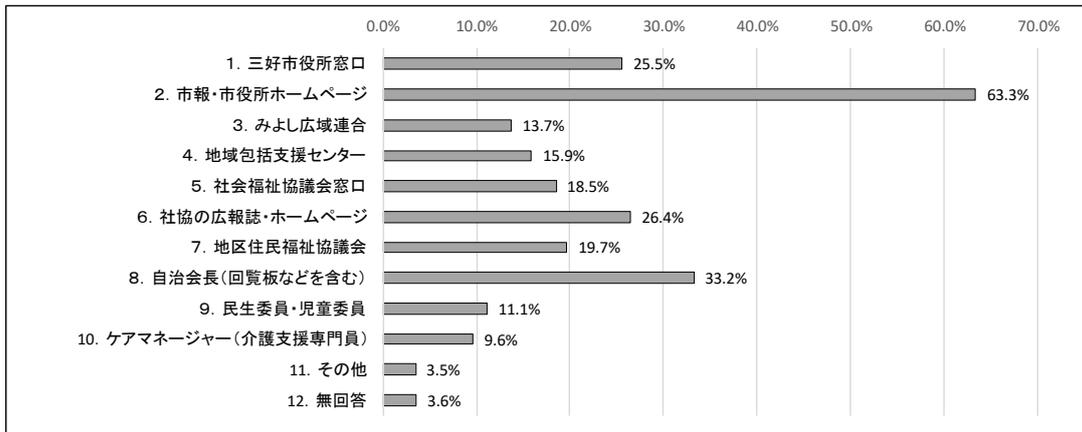
【問9】 あなたが、悩みや心配ごとを相談する場合、主にどこに相談しますか。(3つまで○)

	全体 n= 1,006	%	回答数
1. 家族		89.3%	898
2. 隣近所の人		20.3%	204
3. 知人・友人		61.6%	620
4. 地域の民生委員・児童委員		7.8%	78
5. 行政機関の相談窓口		14.3%	144
6. 社会福祉協議会		5.8%	58
7. 保健や福祉サービスの事業者		3.5%	35
8. 地域包括支援センター		5.2%	52
9. かかりつけの医療機関		17.1%	172
10. NPOやボランティア団体		0.1%	1
11. わからない		1.8%	18
12. その他		1.6%	16
13. 無回答		0.9%	9



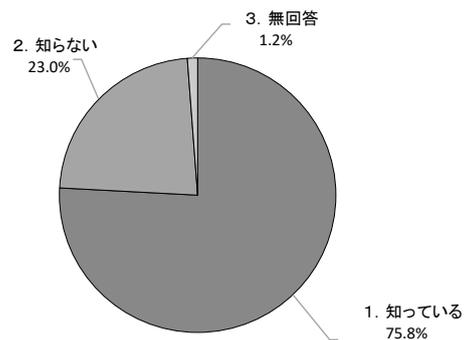
【問10】 あなたは、福祉活動や介護など福祉に関する情報をどのようなところから入手されますか。(あてはまるものすべてに○)

	全体 n= 1,006	%	回答数
1. 三好市役所窓口		25.5%	257
2. 市報・市役所ホームページ		63.3%	637
3. みよし広域連合		13.7%	138
4. 地域包括支援センター		15.9%	160
5. 社会福祉協議会窓口		18.5%	186
6. 社協の広報誌・ホームページ		26.4%	266
7. 地区住民福祉協議会		19.7%	198
8. 自治会長(回覧板などを含む)		33.2%	334
9. 民生委員・児童委員		11.1%	112
10. ケアマネージャー(介護支援専門員)		9.6%	97
11. その他		3.5%	35
12. 無回答		3.6%	36



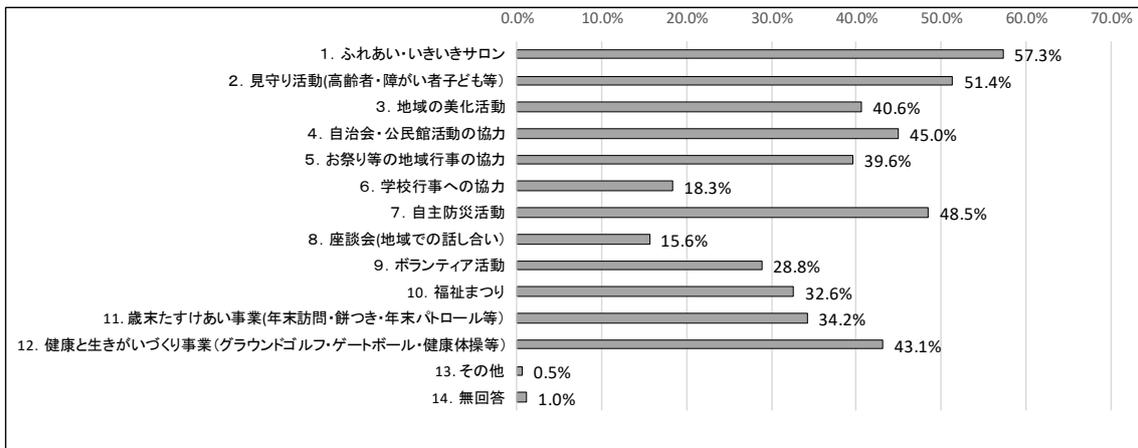
【問11】 あなたは、住民が地域福祉(地域での支えあい)の中心となり活動する地区住民福祉協議会(地区住協)をご存じですか。(1つに○)

	全体 n= 1,006	%	回答数
1. 知っている		75.8%	763
2. 知らない		23.0%	231
3. 無回答		1.2%	12



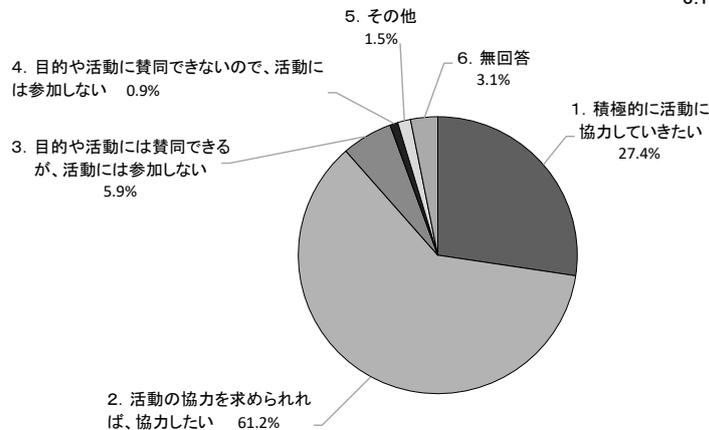
【問12-①】 あなたが知っている地区住協の活動は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

	n= 763	%	回答数
1. ふれあい・いきいきサロン		57.3%	437
2. 見守り活動(高齢者・障がい者子ども等)		51.4%	392
3. 地域の美化活動		40.6%	310
4. 自治会・公民館活動の協力		45.0%	343
5. お祭り等の地域行事の協力		39.6%	302
6. 学校行事への協力		18.3%	140
7. 自主防災活動		48.5%	370
8. 座談会(地域での話し合い)		15.6%	119
9. ボランティア活動		28.8%	220
10. 福祉まつり		32.6%	249
11. 歳末たすけあい事業(年末訪問・餅つき・年末パトロール等)		34.2%	261
12. 健康と生きがいづくり事業(グラウンドゴルフ・ゲートボール・健康体操等)		43.1%	329
13. その他		0.5%	4
14. 無回答		1.0%	8



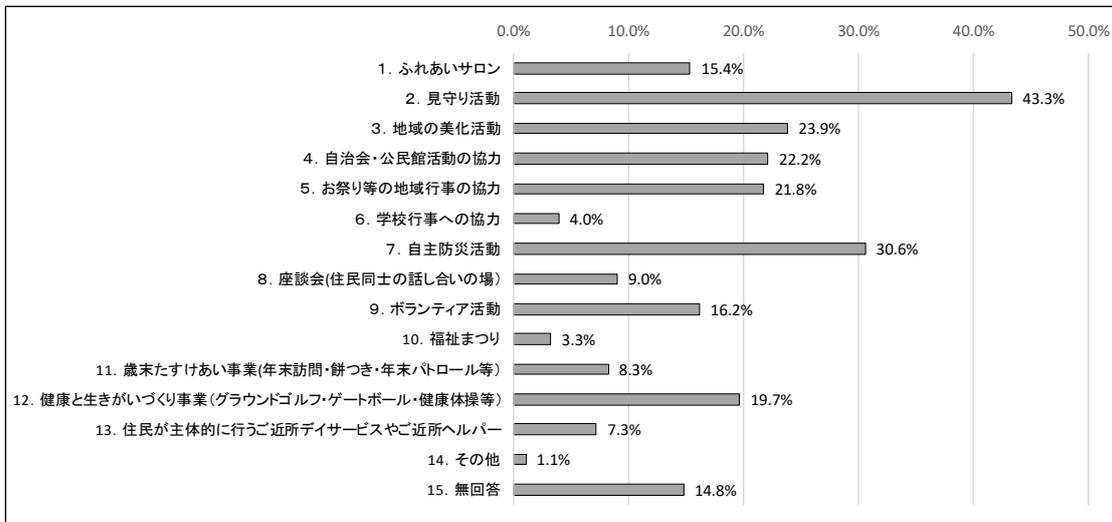
【問12-②】 あなたの住む地域の地区住協に対して、どのようなお考えをお持ちですか。(もっとも近いもの1つに○)

	n= 763	%	回答数
1. 積極的に活動に協力していきたい		27.4%	209
2. 活動の協力を求められれば、協力したい		61.2%	467
3. 目的や活動には賛同できるが、活動には参加しない		5.9%	45
4. 目的や活動に賛同できないので、活動には参加しない		0.9%	7
5. その他		1.5%	11
6. 無回答		3.1%	24



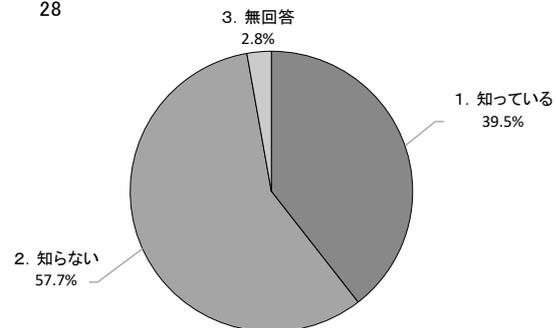
【問13】 あなたの住む地区で安心して暮らすには、地区にある組織（地区住協など）や団体にどのような活動の充実を期待しますか。（〇は3つまで）

	全体 n= 1,006	%	回答数
1. ふれあいサロン		15.4%	155
2. 見守り活動		43.3%	436
3. 地域の美化活動		23.9%	240
4. 自治会・公民館活動の協力		22.2%	223
5. お祭り等の地域行事の協力		21.8%	219
6. 学校行事への協力		4.0%	40
7. 自主防災活動		30.6%	308
8. 座談会(住民同士の話し合いの場)		9.0%	91
9. ボランティア活動		16.2%	163
10. 福祉まつり		3.3%	33
11. 歳末たすけあい事業(年末訪問・餅つき・年末パトロール等)		8.3%	83
12. 健康と生きがいづくり事業(グラウンドゴルフ・ゲートボール・健康体操等)		19.7%	198
13. 住民が主体的に行うご近所デイサービスやご近所ヘルパー		7.3%	73
14. その他		1.1%	11
15. 無回答		14.8%	149



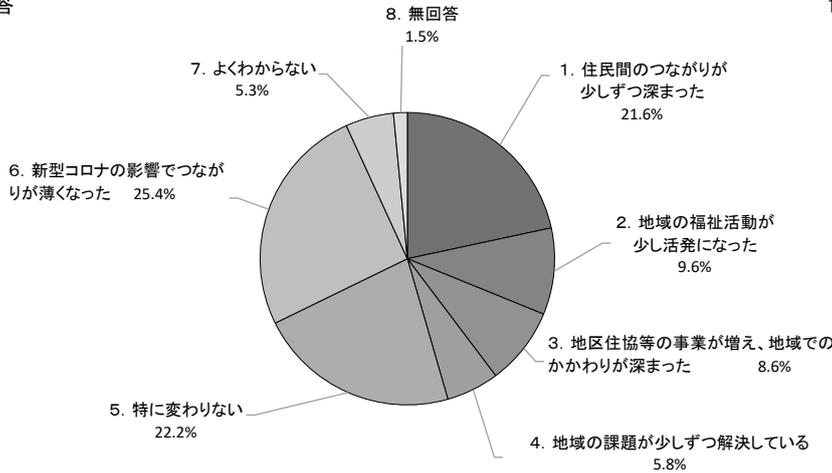
【問14】 社協が中心となり多くの住民やボランティア、福祉団体の方の参加をえて、住民の行動指針として策定された地域福祉活動計画（第三次計画期間：R2～R5年度）を知っていましたか。（1つに〇）

	%	回答数	全体 n= 1,006
1. 知っている	39.5%	397	
2. 知らない	57.7%	581	
3. 無回答	2.8%	28	



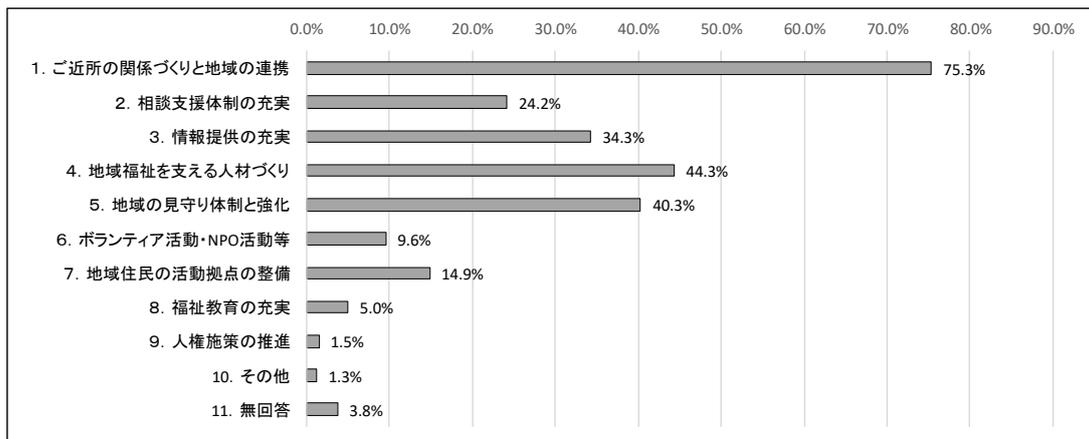
【問15-①】 地域福祉活動計画によって地域の活動や組織体制が変わったと思いますか。（もっとも近いもの1つに○）

	n= 397	%	回答数
1. 住民間のつながりが少しずつ深まった		21.6%	86
2. 地域の福祉活動が少し活発になった		9.6%	38
3. 地区住協等の事業が増え、地域でのかかわりが深まった		8.6%	34
4. 地域の課題が少しずつ解決している		5.8%	23
5. 特に変わらない		22.2%	88
6. 新型コロナの影響でつながりが薄くなった		25.4%	101
7. よくわからない		5.3%	21
8. 無回答		1.5%	6



【問15-②】 地域福祉活動計画を推進するにあたって重要なことは何だと思えますか。（3つまで○）

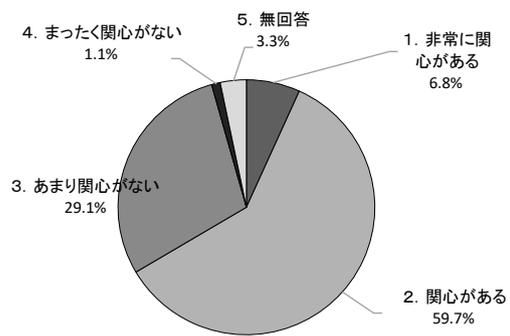
	n= 397	%	回答数
1. ご近所関係づくりと地域の連携		75.3%	299
2. 相談支援体制の充実		24.2%	96
3. 情報提供の充実		34.3%	136
4. 地域福祉を支える人材づくり		44.3%	176
5. 地域の見守り体制と強化		40.3%	160
6. ボランティア活動・NPO活動等		9.6%	38
7. 地域住民の活動拠点の整備		14.9%	59
8. 福祉教育の充実		5.0%	20
9. 人権施策の推進		1.5%	6
10. その他		1.3%	5
11. 無回答		3.8%	15



【問16】 あなたはボランティア活動に関心がありますか。(1つに○)

	%	回答数
1. 非常に関心がある	6.8%	68
2. 関心がある	59.7%	601
3. あまり関心がない	29.1%	293
4. まったく関心がない	1.1%	11
5. 無回答	3.3%	33

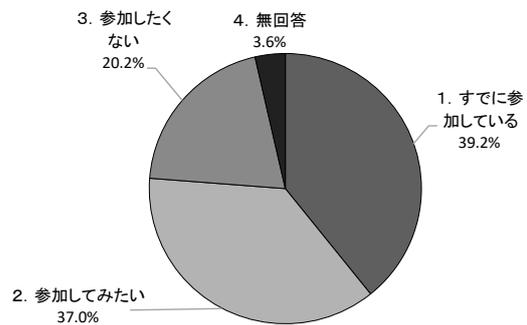
全体 n= 1,006



【問17】 ボランティア活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

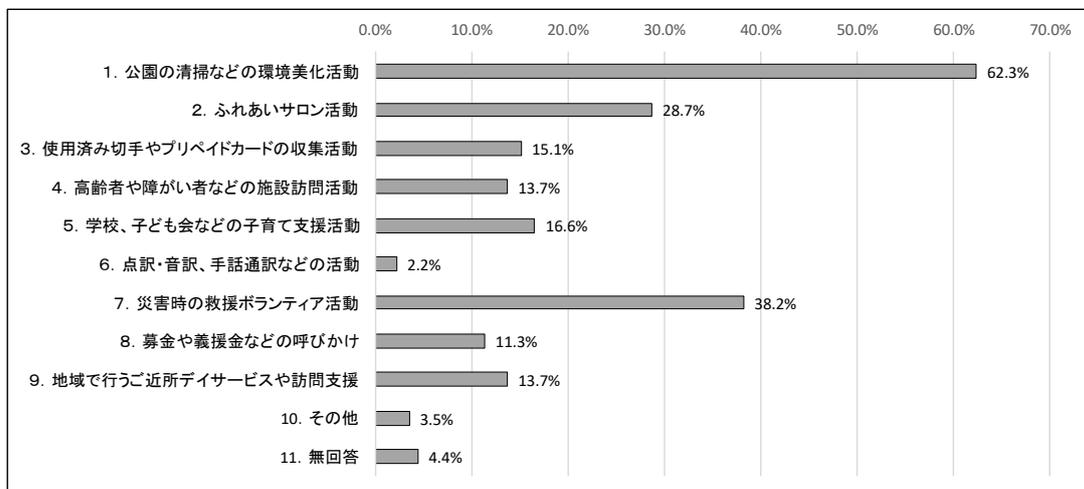
	%	回答数
1. すでに参加している	39.2%	395
2. 参加してみたい	37.0%	372
3. 参加したくない	20.2%	203
4. 無回答	3.6%	36

全体 n= 1,006



【問18】 あなたがボランティア行っている活動、または、行いたい活動はどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

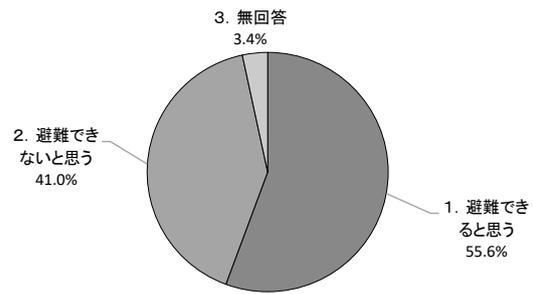
	n= 767	%	回答数
1. 公園の清掃などの環境美化活動		62.3%	478
2. ふれあいサロン活動		28.7%	220
3. 使用済み切手やプリペイドカードの収集活動		15.1%	116
4. 高齢者や障がい者などの施設訪問活動		13.7%	105
5. 学校、子ども会などの子育て支援活動		16.6%	127
6. 点訳・音訳、手話通訳などの活動		2.2%	17
7. 災害時の救援ボランティア活動		38.2%	293
8. 募金や義援金などの呼びかけ		11.3%	87
9. 地域で行うご近所デイサービスや訪問支援		13.7%	105
10. その他		3.5%	27
11. 無回答		4.4%	34



【問19】 あなたは、もし災害などの緊急事態が発生した場合、自分や家族、地域の皆さんが適切に避難できると思いますか。
(1つに○)

	%	回答数
1. 避難できると思う	55.6%	560
2. 避難できないと思う	41.0%	412
3. 無回答	3.4%	34

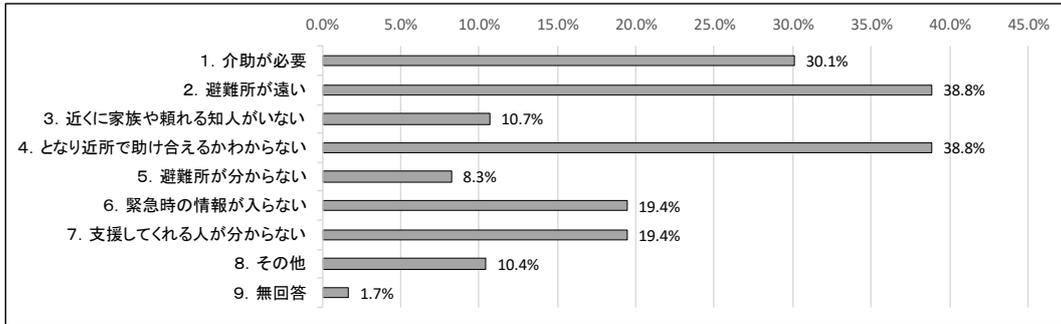
全体 n= 1,006



【問20】 避難できないと思う理由は何ですか。(3つまで○)

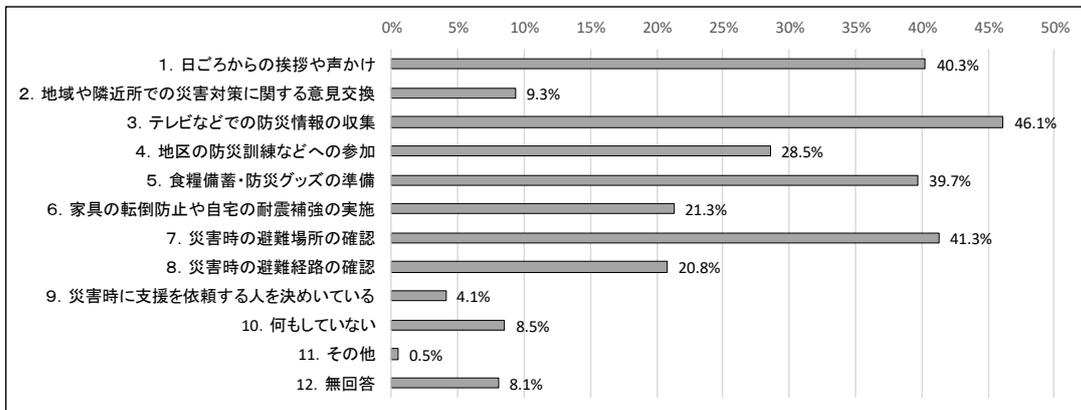
n= 412

	%	回答数
1. 介助が必要	30.1%	124
2. 避難所が遠い	38.8%	160
3. 近くに家族や頼れる知人がいない	10.7%	44
4. とおり近所で助け合えるかわからない	38.8%	160
5. 避難所が分からない	8.3%	34
6. 緊急時の情報が入らない	19.4%	80
7. 支援してくれる人が分からない	19.4%	80
8. その他	10.4%	43
9. 無回答	1.7%	7



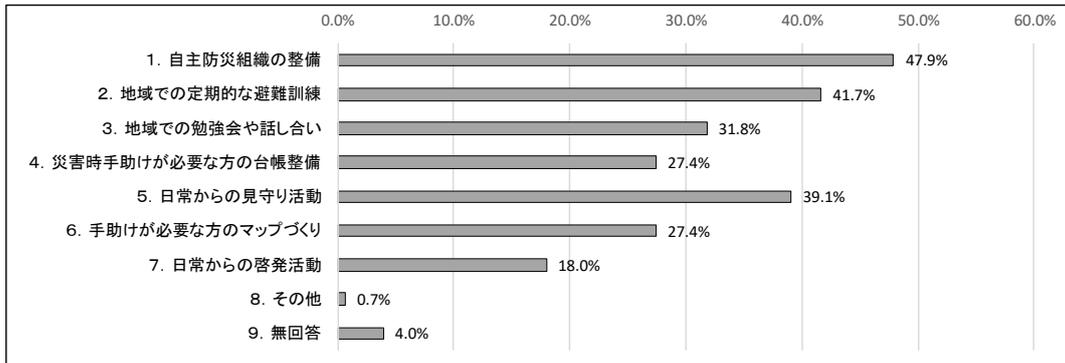
【問21】 災害の発生に備え、日ごろから準備していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

	%	回答数
1. 日ごろからの挨拶や声かけ	40.3%	405
2. 地域や隣近所での災害対策に関する意見交換	9.3%	94
3. テレビなどでの防災情報の収集	46.1%	464
4. 地区の防災訓練などへの参加	28.5%	287
5. 食糧備蓄・防災グッズの準備	39.7%	399
6. 家具の転倒防止や自宅の耐震補強の実施	21.3%	214
7. 災害時の避難場所の確認	41.3%	415
8. 災害時の避難経路の確認	20.8%	209
9. 災害時に支援を依頼する人を決めている	4.1%	41
10. 何もしていない	8.5%	86
11. その他	0.5%	5
12. 無回答	8.1%	81



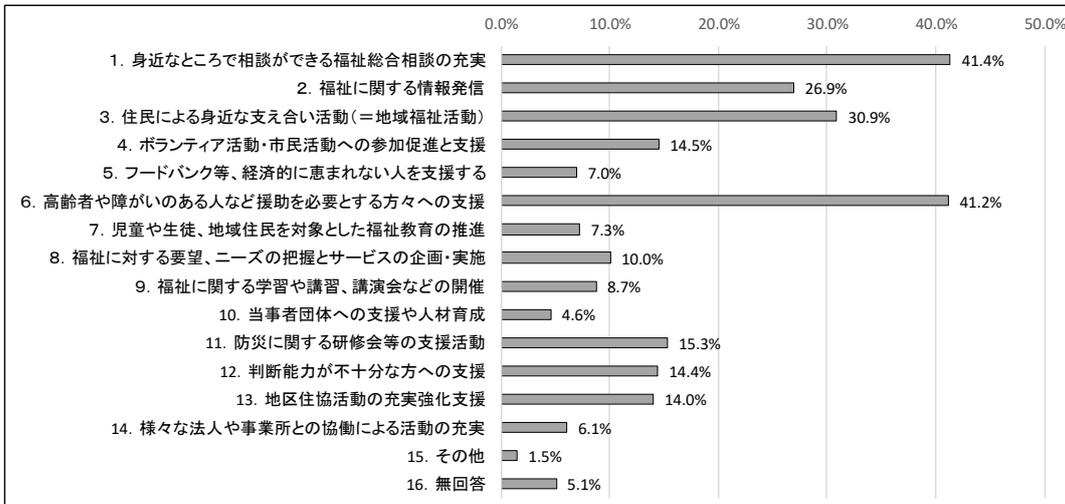
【問22】 あなたは災害時に住民が支えあう地域づくりに何が必要だと思いますか。(3つまで○)

	全体 n= 1,006	%	回答数
1. 自主防災組織の整備		47.9%	482
2. 地域での定期的な避難訓練		41.7%	419
3. 地域での勉強会や話し合い		31.8%	320
4. 災害時手助けが必要な方の台帳整備		27.4%	276
5. 日常からの見守り活動		39.1%	393
6. 手助けが必要な方のマップづくり		27.4%	276
7. 日常からの啓発活動		18.0%	181
8. その他		0.7%	7
9. 無回答		4.0%	40



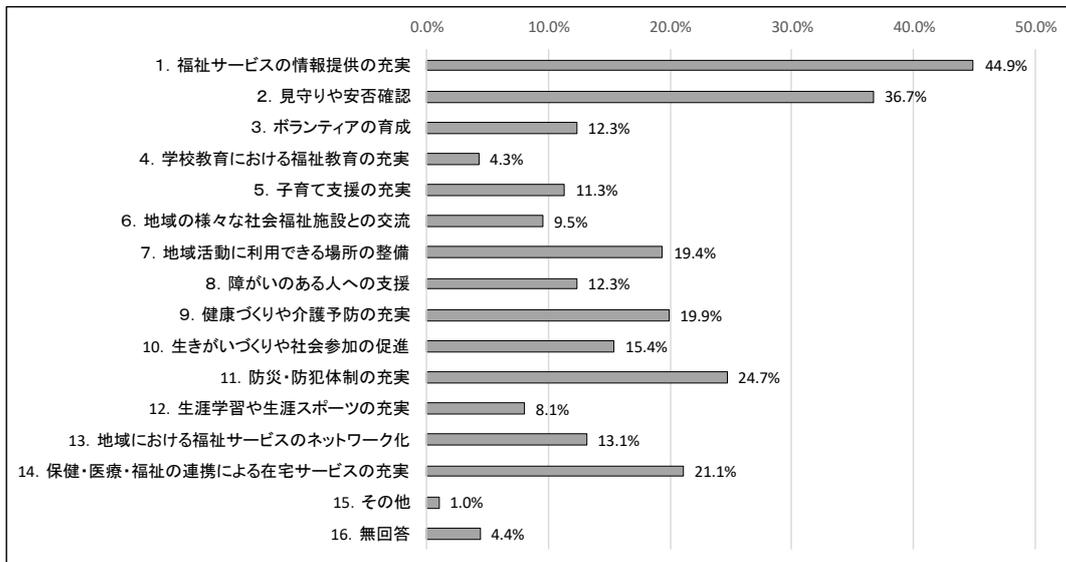
【問23】 社会福祉協議会が行う活動・支援で充実してほしいことは何ですか。(3つまで○)

	全体 n= 1,006	%	回答数
1. 身近なところで相談ができる福祉総合相談の充実		41.4%	416
2. 福祉に関する情報発信		26.9%	271
3. 住民による身近な支え合い活動(=地域福祉活動)		30.9%	311
4. ボランティア活動・市民活動への参加促進と支援		14.5%	146
5. フードバンク等、経済的に恵まれない人を支援する		7.0%	70
6. 高齢者や障がいのある人など援助を必要とする方々への支援		41.2%	414
7. 児童や生徒、地域住民を対象とした福祉教育の推進		7.3%	73
8. 福祉に対する要望、ニーズの把握とサービスの企画・実施		10.0%	101
9. 福祉に関する学習や講習、講演会などの開催		8.7%	88
10. 当事者団体への支援や人材育成		4.6%	46
11. 防災に関する研修会等の支援活動		15.3%	154
12. 判断能力が不十分な方への支援		14.4%	145
13. 地区住協活動の充実強化支援		14.0%	141
14. 様々な法人や事業所との協働による活動の充実		6.1%	61
15. その他		1.5%	15
16. 無回答		5.1%	51



【問24】 今後、社協が推進する「福祉のまちづくり」のために重要だと思うことは何ですか。(3つまで○)

	全体 n= 1,006	%	回答数
1. 福祉サービスの情報提供の充実		44.9%	452
2. 見守りや安否確認		36.7%	369
3. ボランティアの育成		12.3%	124
4. 学校教育における福祉教育の充実		4.3%	43
5. 子育て支援の充実		11.3%	114
6. 地域の様々な社会福祉施設との交流		9.5%	96
7. 地域活動に利用できる場所の整備		19.4%	195
8. 障がいのある人への支援		12.3%	124
9. 健康づくりや介護予防の充実		19.9%	200
10. 生きがいづくりや社会参加の促進		15.4%	155
11. 防災・防犯体制の充実		24.7%	248
12. 生涯学習や生涯スポーツの充実		8.1%	81
13. 地域における福祉サービスのネットワーク化		13.1%	132
14. 保健・医療・福祉の連携による在宅サービスの充実		21.1%	212
15. その他		1.0%	10
16. 無回答		4.4%	44



5 地域別地区住民福祉協議会一覧

◇ 三野9地区

地区住協名(設立年月)	所属自治会
清水地区住民福祉協議会 (平成19年4月)	清水南、清水中、清水北、清水西の東、清水西の西、清水上野、清水ふるさと団地
加茂野宮地区住民福祉協議会 (平成25年12月)	里西、里東、東王地、西王地、王地団地、加茂野宮ふるさと団地、愉流里
勢力地区住民福祉協議会 (平成19年7月)	勢力東、勢力本地、勢力中、勢力西、勢力上野
芝生地区住民福祉協議会 (平成19年10月)	芝生門所、芝生上東、芝生上西、芝生中東、芝生中西、芝生栄町、芝生団地北、芝生第2北団地、芝生中央団地、芝生団地東、芝生東町、芝生東新町、芝生本町、芝生仲町、芝生西町、芝生西新町、芝生坂ノ上、芝生若芝台
東川原地区住民福祉協議会 (平成19年1月)	東川原東、東川原西、東川原北東、東川原北西
太刀野地区住民福祉協議会 (平成29年4月)	谷東、中条、西ノ久保、原、太刀野団地
花園地区住民福祉協議会 (平成19年7月)	花園中、花園上、花園上新町、花園下新町、花園団地
太刀野山ふれあい推進会 (平成18年5月)	中屋西、中屋東、栗林、大平、藤黒、川又西、川又東、田野々、土釜、馬瓶、井の久保
東谷福祉会 (平成20年2月)	滝奥、東谷、大屋敷

◇ 井川8地区

地区住協名(設立年月)	所属自治会
辻地区住民福祉協議会 (平成19年8月)	旭町、浜東、浜西、新町、仲ノ町、本町、井関第1、井関第2、井関第3、向坂、流堂
のつご地区住民福祉協議会 (平成19年8月)	白丸、西新町東中組、城、西新町西の東、西新町西の西、西新町西の西一組、西新町西の西二組、西新町団地A棟、西新町2号団地
中村地区住民福祉協議会 (平成19年8月)	中村東、中村西、中村団地、中村南、中村南団地AB棟、中村南団地C棟、桜ヶ丘
なでしこ地区住民福祉協議会 (平成19年8月)	女法寺東、女法寺南、女法寺北、吉本、北内第1、北内第2、北内第3、長田住宅、出ノ上、出ノ上東、森、森東、近金、長尾、出ノ上ユークハイツ、サニータウン佃
黎明地区住民福祉協議会 (平成19年7月)	吉野川団地、相知、相知台、相知2号団地、坊、坊住宅、坊2号団地、須賀、大泉ハイツ、須賀住宅、須賀2号団地、末、末団地

地区住協名(設立年月)	所属自治会
立石地区住民福祉協議会 (平成19年8月)	下吹、上吹、櫻山、上正夫、下正夫、大森、尾越、杉ノ木、安田、三椏尾
井内地区住民福祉協議会 (平成19年8月)	大久保、下久保、倉石、馬路、松舟、向、井内坊、井内坊団地、中津、中津団地、吉木、上西ノ浦、下西ノ浦、色原、北地
かいな地区住民福祉協議会 (平成19年7月)	馬場、平、冬・桜、知行、荒倉、駒倉、下影、上野住、下野住

◇ 池田22地区

地区住協名(設立年月)	所属自治会
上野地区住民福祉協議会 (平成5年6月)	大通西、上野大通、大道、御幸町東、御幸町西、上野中大通、上野中部北、上野中部南、丸山町北、丸山町南、丸山町中、丸山町西
板野地区住民福祉協議会 (平成6年6月)	板野、板野団地
池南・新山地区住民福祉協議会 (平成6年5月)	新生会、池南東2、池南東、池南南、池南北、池南西、新山、新山第2
池田第1区住民福祉協議会 (平成8年8月)	矢塚町・西中通三・新地大通・新地東部・駅前南・駅前北・駅前西・銀座西・銀座中・銀座東・弥生
池田第2区住民福祉協議会 (平成8年8月)	高友・柳川西・柳川東・栄町西部・栄町東部・西町大通・西町本部・庚申町・大通昭和・中通・西町東部
池田第3区住民福祉協議会 (平成8年8月)	杉尾通・東中通二・かじや町・谷町・中町・本町・新東町・東町・北新町西・北新町東
池田第4区住民福祉協議会 (平成8年8月)	南新町上町・ハヤシ・南新町西・南新町東・南新町南・南新町中・親愛会・南新町北・新町西・新町中・新町東
シマ地区住民福祉協議会 (平成12年1月)	島東、島西、島南、提宮下
供養地地区住民福祉協議会 (平成25年3月)	水木町、池田ニュータウン、供養地東、供養地西
箸蔵地区住民福祉協議会 (昭和46年7月)	東部、東部第2、中部1、中部2、西部北、西部南、土用、西部第2、上ノ段、下ノ段、池田中津、西山浜、入体、峰ノ久保、木屋床、落、舟原、池田中尾
西山地区住民福祉協議会 (平成5年5月)	只安、安広、洞草
下野呂内地区住民福祉協議会 (平成6年4月)	下ノロウチ東、下ノロウチ西
福祉みなわの会 (平成5年7月)	北一、北二、北三、中一、中二、高戸星、久保、中西南、漆川橋、大田、久尾、国畑、宮平、梅ノ谷
出合地区住民福祉協議会 (平成5年6月)	山貝、千足、大申上、大申下、出合、石内上、石内下、上尾後、下尾後、本名上、本名下、五軒、黒川、宮石
漆川地区住民福祉協議会 (平成4年2月)	中津川、北谷、小林、越替、大川南、大川北、南谷

地区住協名(設立年月)	所属自治会
三縄中央地区住民福祉協議会 (平成5年12月)	大利空、大利八幡、大利込、大利西、京田、川崎込、川崎空東、川崎空西、西谷
影野地区住民福祉協議会 (昭和53年11月)	石立、池田正夫、影野
白地福祉友の会 (平成5年7月)	フコラベ、仙野、橋ノ谷、三好橋、城、大西、中、栄、天神丁、北名、光陽台、白地峰、敷ノ上、井ノ久保東、井ノ久保旭、井ノ久保栗野、井ノ久保上
佐野地区住民福祉協議会 (平成4年11月)	林、和田、宮、中央、佐野中西、佐野上組、高毛、沼谷、境谷、大宗、有安
馬路地区住民福祉協議会 (平成6年6月)	朝日、堂面、日の出、天神、宮ノ下、境宮、上浦、峰友、双子布、大泉
馬場地区住民福祉協議会 (平成6年7月)	馬場東、馬場中央、馬場西
野呂内地区住民福祉協議会 (平成6年3月)	ノロウチ下、ノロウチ中、ノロウチ上

◇ 山城8地区

地区住協名(設立年月)	所属自治会
大和地区住民福祉協議会 (平成20年3月)	山城大和川、池田大和川、若山
山城中央地区住民福祉協議会 (平成19年4月)	大川持、下川、岩戸、引地、末貞、川口、国政、重実川口団地
政友地区住民福祉協議会 (平成20年5月)	政友、寺野、相川、柴川、瀬貝、黒川(一部)
大野地区住民福祉協議会 (平成19年7月)	大野、信正、小川谷、佐連、大谷、大月、脇、八千坊、黒川、頼広、赤谷・平野、茂地
河内地区住民福祉協議会 (平成19年4月)	光兼、白川、仏子、尾又、粟山、中野・有宮
西宇地区住民福祉協議会 (平成19年4月)	大津、峯、上西宇、西宇団地
上名地区住民福祉協議会 (平成19年4月)	津屋、平、平上、上名影、羽瀬
下名地区住民福祉協議会 (平成19年3月)	水無、内六、赤野、柿野尾、日浦、大川、下名影、南日浦、下名住宅

◇ 西祖谷6地区

地区住協名(設立年月)	所属自治会
有瀬地区住民福祉協議会 (平成19年4月 現在休会中)	谷間、有瀬下、有瀬上
吾橋地区住民福祉協議会 (平成19年4月)	榎、土日浦、吾橋中屋、吾橋西名、吾橋下、吾橋上
西岡地区住民福祉協議会 (平成19年4月)	徳善、西岡、後山
櫟生地区住民福祉協議会 (平成19年4月)	田ノ内上、田ノ内下、一字枝、一字北、一字南、戸ノ谷、尾井ノ内、冥地、重末日浦、重末蔭
善徳地区住民福祉協議会 (平成19年4月)	善徳西ノ西、善徳かずら橋、善徳西ノ東、善徳東ノ西、善徳東ノ東、名越、今久保、中尾、閑定
小祖谷地区住民福祉協議会 (平成19年4月 現在休会中)	坂瀬、小祖谷西、小祖谷東

◇ 東祖谷13地区

地区住協名(設立年月)	所属自治会
和田地区住民福祉協議会 (平成19年6月)	高野、小島、佐野、今井、上釣井、下釣井、東祖谷和田
小谷グループ地区住民福祉協議会 (平成22年6月)	檜尾、小川、古味、榎の峰、元井
平家グループ (平成22年6月)	阿佐、麦生土
新居屋地区住民福祉協議会 (平成22年6月)	新居屋
若林地区住民福祉協議会 (平成22年6月)	若林、東祖谷大西
京町地区住民福祉協議会 (平成19年6月)	京上、下浦、大枝、東祖谷林
ひだまり班 (平成19年6月)	下瀬下、釜ヶ谷、中上
三名ひだまり班 (平成22年6月)	下瀬上、栗枝渡、栗枝渡奥、奥の井
落合アジサイクラブ (平成19年6月)	落合西、落合東、落合南、かずら原、深淵
西山紅葉クラブ (平成22年6月)	西山、九鬼
笑久保会 (平成22年6月)	久保東、久保西、久保陰
菅生げんき会 (平成22年6月)	菅生日浦下、菅生日浦中、菅生日浦奥、菅生陰、菅生陰奥
奥祖谷クラブ (平成19年6月)	名頃

社会福祉法人 三好市社会福祉協議会
〒778-0003 徳島県三好市池田町サラダ 1884-4
TEL (0883) 72-5715 FAX (0883) 72-5720